

令和2年度 浜松市文化財年報

令和2年度の文化財保護・活用事業の要点

第1部 文化財年報

第1章 文化財保護事業報告

第2章 市内指定文化財等の動向

1 新指定の文化財

- (1) 鰐口 至徳二年の陰刻銘あり
- (2) ジェームズ・ペイントン号遭難事件関係資料
- (3) 浜松城跡

2 文化財の主な整備・保存修復事業

3 文化財の継承事業

4 浜松地域遺産の認定

第3章 浜松市地域遺産センター年報

第2部 埋蔵文化財調査報告

第1章 埋蔵文化財調査の概要

第2章 本発掘調査概要

第3章 試掘・確認・立会等調査報告

第4章 詳細報告

- 1 木船廃寺跡 14・15 次調査報告
- 2 天白遺跡 7 次調査報告
- 3 増楽遺跡 14 次調査報告
- 4 恒武西宮遺跡 30 次調査報告
- 5 笠井上組遺跡 11・12 次調査報告

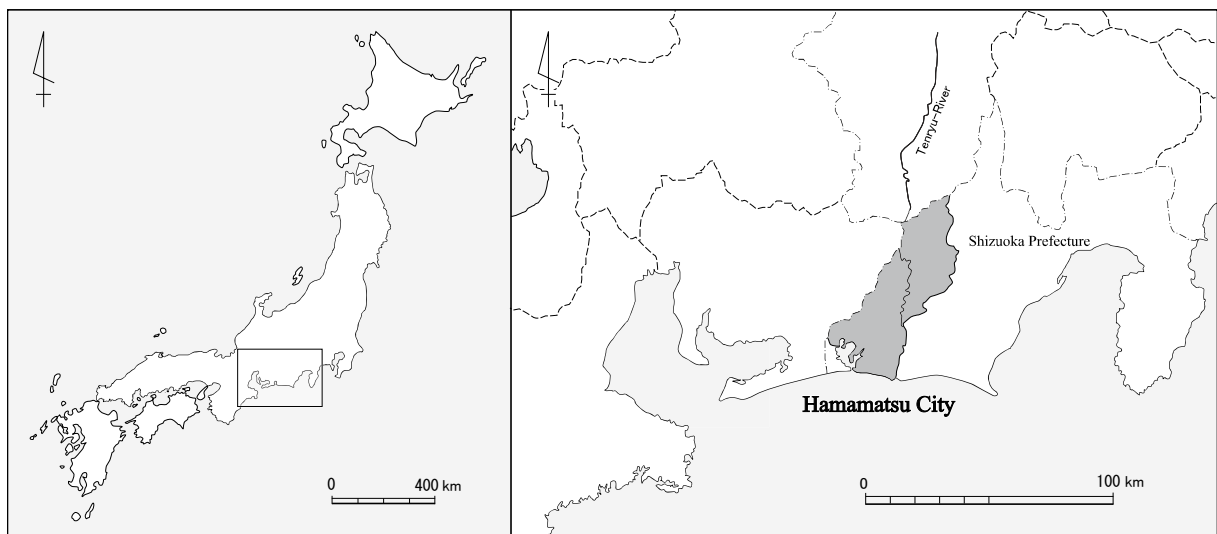
2022

浜松市教育委員会

例 言

- 1 本書は、浜松市教育委員会（市民部文化財課が補助執行）が令和 2（2020）年度に実施した市内における文化財調査や保護事業等の報告集である。
- 2 第 1 部の文化財年報では、令和 2（2020）年度に実施した市内文化財の保護、活用事業等について報告しており、第 1 章には、市内文化財の保護事業報告、第 2 章には、新たに指定された文化財の概要、文化財の主な整備・保存修復事業や継承事業の概要、新たに認定された浜松地域遺産の一覧、第 3 章には、浜松市地域遺産センターの概要及び実施した業務内容を掲載している。

第 2 部の埋蔵文化財調査報告では、令和 2（2020）年度に実施した埋蔵文化財調査について報告しており、第 1 章には、埋蔵文化財調査の概要及び一覧、第 2 章には、本発掘調査の概要、第 3 章には、試掘・確認調査、工事立会の報告、第 4 章には、小規模本発掘調査や重要な成果が得られた試掘・確認調査、工事立会について詳細な報告を掲載した。
- 3 試掘・確認調査は、国の補助金を得て実施した調査、市単独費で実施した調査、原因者負担で実施した調査があり、その全てを掲載した。
- 4 本書の編集は、岡本佳枝（浜松市文化財課）が行い、内山範晃（同）、深見亜衣子（同）が補佐した。執筆は浜松市文化財課職員が分担して行い、第 2 部第 4 章のみ文末に文責を示した。
- 5 本書にかかわる遺跡の調査記録と出土遺物は、浜松市地域遺産センターで保管している。



浜松市の位置

令和 2 年度 浜松市文化財年報

目 次

例 言

令和 2 年度の文化財保存・活用事業の要点	1
-----------------------------	---

【第 1 部 文化財年報】

第 1 章 文化財保護事業報告	3
第 2 章 市内指定文化財等の動向	15
1 新指定の文化財	15
2 文化財の主な整備・保存修復事業	23
3 文化財の継承事業	37
4 浜松地域遺産の認定	39
第 3 章 浜松市地域遺産センター年報	45

【第 2 部 埋蔵文化財調査報告】

第 1 章 埋蔵文化財調査の概要	49
第 2 章 本発掘調査概要	55
第 3 章 試掘・確認・立会等調査報告	64
第 4 章 詳細報告	101
1 木船廃寺跡 14・15 次調査報告	101
2 天白遺跡 7 次調査報告	105
3 増楽遺跡 14 次調査報告	109
4 恒武西宮遺跡 30 次調査報告	113
5 笠井上組遺跡 11・12 次調査報告	117

令和2年度の文化財保存・活用事業の要点

1 新型コロナウイルス感染症の影響

令和元年度末から本市域でも本格的な拡大が確認されるようになった新型コロナウイルス感染症は、令和2年度の本市の文化財関連事業に大きな影響を与えた。緊急事態宣言発令期間を中心に博物館や資料館等を一時休館したほか、無形民俗文化財に関わる公開イベントや文化財シンポジウムなど、文化財関連のイベントの多くが中止もしくは延期を余儀なくされた。また、市内で開催されている祭礼や芸能などの無形民俗文化財についても行事の中止や規模の縮小が強いられている。祭礼や芸能の中には、保存団体等の体力が脆弱な事例もあり、今後の行事の継続にも課題を残している。

感染症対策については、全国的な動きと歩みを合わせ適切な対応を続けていくほかないが、無形民俗文化財の継承については、情報収集を進め、適切な支援策を講じるなど、事務局としても注意を向けていく必要がある。また、文化財の公開活用事業についても、行事のリモート開催や動画配信の充実など、実施方法の転換が求められている。

2 文化財に関する計画の作成

本市では、令和元年度から2年度の2年間をかけて、「浜松市文化財保存活用地域計画」を作成した。この計画は、本市の文化財に関する総合計画に位置付けられるものであり、本市の文化財の特徴や保存と活用に関する課題をまとめ、今後の方針を示す。作成の過程ではパブリック・コメントを実施し、各区での協議会でも内容を報告するなど、広く意見聴取に努めた。パブリック・コメントの実施は、文化財課（博物館を含む）では初めてのことであり、今後の市民からの意見集約に関して貴重な経験を積むことができた。なお、本計画は令和3年7月16日に、県内で第1号となる国の認定を受けた。

令和2年度は個別文化財の保存活用計画や整備基本計画の作成も進めた。国史跡の蜷塚遺跡（中区）については、保存活用計画の作成を始めた（令和3年度計画策定予定）。蜷塚遺跡は、昭和30年代に行われた最初の整備事業から60年を経過しており、再整備事業を視野に入れた計画策定を目指す。この計画では、隣接する浜松市博物館（昭和54年開館）のリニューアルの方向性を示すことも射程に入れている。また、国史跡の二俣城跡及び鳥羽山城跡（天竜区）については、整備基本計画の作成に着手した（令和3年度計画策定予定）。

3 文化財の指定・認定の動き

令和2年度には、静岡県、浜松市それぞれ新たな文化財指定の動きがあった。県指定有形文化財（工芸品）として、鰐口（至徳二年の陰刻銘あり、浜松市博物館蔵、指定告示日は令和3年4月2日）が、市指定有形文化財（歴史資料）として、ジェームズ・ペイトン号遭難事件関係資料（南区、個人蔵）が新たに指定された。前者は、浜松市指定文化財からの上位指定である。また、浜松城跡（中

区)については、市指定史跡の追加指定を行ったほか、市指定天然記念物の伊目のノウゼンカズラ(北区)については、枯死が確認されたことから指定を解除した。

平成28年度から開始した浜松市認定文化財制度(浜松地域遺産認定制度)は5年目を迎え、市域では積極的に認定申請を行う地域がみられるなど、新たな動きがあった。令和2年度は新たに147件を認定し、認定文化財の総数は455件を数え、国・県・市の指定文化財の総数437件を凌駕するようになった。令和2年度に新たに認定した文化財の中では、中区肴町の近現代の歴史資料(繁華街の商店等に関する資料群)や浜北区の有形民俗文化財(秋葉山常夜灯や道標など)にまとまりが認められる。

4 指定文化財の保護

令和2年度も市内の寺院が所有する文化財の保存修理が行われた。修理を実施した主要な文化財としては、寶林寺方丈(北区、国指定)、秋葉神社神門(天竜区、市指定)、実相寺庚申堂(北区、市指定)が挙げられる。

記念物についても大きな動きがあった。令和2年3月に国の史跡に指定された光明山古墳(天竜区)について、墳丘部分の公有化が実現したことは特記すべき事柄である。名勝庭園についても、龍潭寺庭園(北区、国指定)や長楽寺庭園(北区、県指定)の保存修理が相次いだ。また、天然記念物については、主に樹木の現状確認を広域で実施し、き損、滅失などを確認した。これに加え、法橋の松(東区、県指定)、細江神社のクス(北区、市指定)などの保護事業も実施した。

5 埋蔵文化財の調査

令和元年度の開発行為に先立つ市内の遺跡照会の件数は6,333件を数えた(前年比104%増)。開発に先立つ埋蔵文化財の手続きについては、文化財保護法93条の届出(民間開発)が289件(前年比125%)、同94条の通知(公共事業)が28件を数えた(前年比96%)。埋蔵文化財に関する手続きが着実に周知されていることがうかがえる。

注目できる発掘調査としては、元城小学校跡地で開始された浜松城跡の確認調査(35次調査)が挙げられる。当該調査は、浜松城公園長期整備構想(主管:都市整備部緑政課)に伴うもので、令和元年度に開始した調査は2年目に入った。令和2年度の調査では本丸を囲む堀や石垣が発見され、大きな注目を集めた。現地説明会は9月26日に実施し、719人の参加を得た。この他、西区の石ノ塔古墳の発掘調査も実施され、完存する横穴式石室(7世紀)の存在が明らかにされた。

6 地域遺産センターの運営

本市の文化財の保存と活用の拠点施設である地域遺産センターは平成29年1月の開館から4年が経過し、活動も軌道に乗りつつある。指定文化財や認定文化財に関する情報公開を随時進めたほか、新指定を契機とした速報展示や各種体験講座を行った。また、令和2年度には保存会が主催する「川名ひよんどりアート写真展」も開催された。

第 1 部 文化財年報

第 1 章 文化財保護事業報告

1 文化財の調査と顕彰

(1) 浜松地域遺産の認定

地域での貴重な文化資源を指定文化財とは別の枠組みで「浜松地域遺産」として認定し顕彰することで、後世への保存継承と地域活性化への活用により、個性ある地域の創造への寄与を期待するもの。令和 2 年度は推薦 291 件のうち 147 件を認定した。区別及び分類別の認定数は右記のとおり。

※詳細は第 2 章（39 頁）に掲載。

区 別	
中区	14
東区	1
西区	6
南区	3
北区	8
浜北区	85
天竜区	30
合計	147

分類別	
建造物	13
美術工芸品	36
有形民俗文化財	60
無形民俗文化財	4
史跡	14
名勝	3
天然記念物	9
文化的景観	5
伝統的建造物群	0
近代化遺産	2
伝承地	0
伝統的生活	1
合計	147



小瀬の秋葉山常夜灯群のうち東組の灯籠（浜北区）
（令和 2 年度認定文化財）



山口屋寿司店のかまど炊き（中区）
（令和 2 年度認定文化財）

(2) 指定文化財等の現状調査

適切な保護事業の推進及び新たな文化財指定の検討材料とするため、下記の指定文化財及び指定文化財候補等について調査、情報収集を行った。

区 分	種 別	文化財の名称	所在地
市指定	建造物	秋葉神社神門	天竜区春野町領家
国登録	建造物	旧田代家住宅	天竜区二俣町鹿島
他市指定	建造物	旧山崎家住宅	掛川市
未指定	歴史資料	ジェームズ・ペイトン号遭難事件関係資料	南区福島町
国指定	無形民俗	川名のひよんどり	北区引佐町川名
国指定	無形民俗	寺野のひよんどり	北区引佐町渋川
国指定	無形民俗	懐山のおくない	天竜区懐山
国指定	無形民俗	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家
県指定	無形民俗	呉松の大念仏	西区呉松町
県指定	無形民俗	滝沢の放歌踊	北区滝沢町
県指定	無形民俗	滝沢おくない	北区滝沢町
県指定	無形民俗	川合花の舞	天竜区佐久間町川合

区 分	種 別	文化財の名称	所在地
県指定	無形民俗	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾・白岩
市指定	無形民俗	遠州大念仏	中区鹿谷町ほか
市指定	無形民俗	勝坂神楽	天竜区春野町豊岡
市指定	無形民俗	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町中川
市指定	無形民俗	大居つなん曳	天竜区春野町堀之内
未指定	無形民俗	水窪の念仏踊（神原の虫送り）	天竜区水窪町奥領家
未指定	無形民俗	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川
未指定	無形民俗	息神社の田遊祭	西区雄踏町宇布見
未指定	無形民俗	神澤のおくない	天竜区神沢
未指定	無形民俗	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町宇布見
国指定	史跡	光明山古墳	天竜区山東
市指定	史跡	入野古墳	西区入野町
県指定	名勝	長楽寺庭園	北区細江町気賀
県指定	天然記念物	水窪小学校のイチイガシ	天竜区水窪町奥領家
市指定	天然記念物	妙相寺のイヌマキ	西区志都呂町
市指定	天然記念物	伊目のナンテン	北区細江町気賀
市指定	天然記念物	伊目のノウゼンカズラ	北区細江町気賀
市指定	天然記念物	気賀のタチバナ	北区細江町気賀

2 文化財の保護と継承

（1）文化財保護審議会の開催

文化財保護法第190条第1項の規定に基づき設置する附属機関（浜松市文化財保護条例第43条）。教育委員会の諮問に応じて、浜松市内の文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、これらの事項に関して教育委員会に建議した。

審議会委員 任期：令和元年～2年の2箇年

分 野	氏 名	所属・役職等	備 考
社会学	笹原 恵	静岡大学副学長	会長 2期目
歴史学	西田 かほる	静岡文化芸術大学国際文化学科長	副会長 1期目
古文書・歴史学	小木 香	元春野町史執筆委員	2期目
美術史	片桐 弥生	静岡文化芸術大学文化政策学部教授	1期目
考古学	篠原 和大	静岡大学人文社会科学部教授	2期目
建築	中谷 悟	静岡県文化財建造物監理士	1期目
民俗	中山 正典	静岡県立農林環境専門職大学准教授	2期目
樹木	藤下 章男	樹木医	1期目

審議会開催状況

回	開催日	内 容
第1回	令和2年8月6日	令和元年度の実績、令和2年度の事業計画、文化財関係計画の報告・意見聴取
第2回	令和2年12月21日	令和2年度前半の浜松市文化財保護事業、文化財指定等に係る諮問（伊目のノウゼンカズラ（指定解除）、浜松城跡（追加指定））、文化財関係計画の報告・意見聴取
第3回	令和3年2月18日	文化財指定に係る諮問（ジェームズ・ペイトン号遭難事件関係資料（指定））、文化財関係計画の報告、浜松地域遺産（認定文化財）の意見聴取



浜松城跡（中区）



ジェームズ・ペイトン号遭難事件
関係資料（南区）

(2) 文化財の管理

文化財等の維持管理・整備 市内の文化財等の保存状態や見学的环境を整えるため、除草、清掃、設備の保守点検など日常的な維持管理を行ったほか、臨時的な修繕や整備等を実施した。主な事業は以下の通り。

区	実施状況
中区	追分一里塚（市史跡）及び住吉南古墳（市史跡）の除草及び清掃
東区	蛭子森古墳（市史跡）の除草及び清掃
南区	米津台場（市史跡）の除草及び清掃
西区	入野古墳（市史跡）の樹木伐採、火穴古墳（市史跡）、東大山一里塚（市史跡）及び東海道の松並木（市史跡）の除草及び清掃、中村家住宅（国有形）及び舞坂宿脇本陣（市有形）の修繕
北区	【細江町】滝峯才四郎谷銅鐸公園（県史跡）、伝堀川城跡（市史跡）、井伊直親の墓及び細江文化財倉庫の除草及び清掃 【引佐町】三岳城跡（国史跡）、渭伊神社境内遺跡（県史跡）、シブカワツツジ群落（県天然記念物）、北岡大塚古墳（市史跡）、馬場平古墳（市史跡）及び白山1号墳（市史跡）の除草及び清掃 【三ヶ日町】凌苔庵跡（市史跡）、本坂一里塚（市史跡）、宇志北大里遺跡（市史跡）、姫街道、千頭ヶ峯城跡（県史跡）及び西山古墳（市史跡）の除草及び清掃
浜北区	北浜の大カヤノキ（国天然記念物）の樹幹部治療・土壌改良、二本ヶ谷積石塚群（県史跡）の史跡公園維持管理、赤門上古墳（県史跡）・向野古墳（市史跡）等の除草及び清掃
天竜区	旧王子製紙製品倉庫（県指定）、ヒラシロ遺跡（市史跡）史跡公園の維持管理、高瀬のニッケイ（市天然記念物）の除草及び清掃、高根城跡（市史跡）除草及び修繕



渋川ツツジ群落（北区）



旧王子製紙製品倉庫（天竜区）

現状変更等への対応 指定文化財及びその指定地内で行われる現状変更や所在地変更などの各種申請・届出等については、法令に基づき事務処理を行った。件数は以下のとおり。

区 分	種 別	内 容	件数	文化財名称（数の記載がないものは1件）
国指定	記念物	現状変更	9	光明山古墳×4、龍潭寺庭園、蜷塚遺跡×2、北浜の大カヤノキ、カモシカ
		滅失	13	カモシカ×13
	有形文化財	き損	1	宝林寺方丈
		修理届	1	木造釈迦如来及両脇侍坐像
県指定	記念物	現状変更	6	法橋の松、長楽寺庭園、犀ヶ崖古戦場、浜名湖×3
	有形文化財	所在場所変更	3	銅鐸（前原出土）、佐久間の林業と山村生活の用具、伊場遺跡群出土古代地方官衙関係資料（木簡・墨書土器等）
		損傷	1	旧王子製紙製品倉庫
		修理	1	旧王子製紙製品倉庫
市指定	記念物	現状変更	6	姫街道の松並木、浜松城、瑞雲院境内、御堂平遺跡、秋葉神社社叢、浜松海岸のアカウミガメ及びその産卵地
	有形文化財	所在場所変更	9	木造馬頭観音坐像、木船新田村和泉屋取引帳、舞坂宿問屋場御用留、三省録続三省録、摩訶耶寺出土品、灰釉広口壺、木造十王坐像、木造葬頭河婆半跏像、木造木喰五行坐像 5
国登録	有形文化財	き損・現状変更	1	旧田代家住宅土蔵
重要美術品	有形文化財	所有者変更	1	伝千手院

（３）文化財保存事業に対する補助金

文化財の管理者が修理や保護、維持管理等に必要とする費用について、国や県とともに補助金を交付したほか、国や民間の補助・助成制度の活用についても促した。

文化財の保存修理に対する補助金

区 分	種 別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	宝林寺方丈建造物保存修理事業	宗教法人 寶林寺	1,637 千円
国指定	美術工芸品	木造千手観音立像保存修理等事業	宗教法人 摩訶耶寺	529 千円
県指定	美術工芸品	木造帝釈天菩薩・大梵天王菩薩保存修理等事業	宗教法人 宝林寺	1,734 千円
市指定	建造物	実相寺伽藍のうち庚申堂保存修理事業	宗教法人 実相寺	14,631 千円
市指定	建造物	秋葉神社神門保存修理事業	宗教法人 秋葉山本宮秋葉神社	30,000 千円
市指定	有形民俗	初生衣神社織殿修理事業	宗教法人 初生衣神社	533 千円



実相寺庚申堂保存修理工事の様子



宝林寺方丈保存修理工事の様子

記念物の保護に対する補助金

区 分	種 別	事業名	交付先	市交付額
国指定	名勝	龍潭寺庭園保存修理等事業	宗教法人 龍潭寺	469 千円
県指定	史跡	犀ヶ崖古戦場保存修理等事業	個人 1 人	200 千円
県指定	名勝	長楽寺庭園保存修理等事業	宗教法人 長楽寺	48 千円
市指定	天然記念物	細江神社のクス保護事業	宗教法人 細江神社	170 千円

文化財の管理事業に対する補助金

区 分	種 別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	寶林寺仏殿・方丈管理事業	宗教法人 寶林寺	90 千円
国指定	建造物	方広寺七尊菩薩堂管理事業	宗教法人 方広寺	12 千円
国指定	建造物	濱名惣社神明宮本殿管理事業	宗教法人 濱名惣社神明宮	30 千円
県指定	史跡	陣座ヶ谷古墳管理事業	陣座ヶ谷古墳管理	30 千円
県指定	名勝	実相寺庭園指定文化財管理事業	宗教法人 実相寺	22 千円
市指定	有形民俗	初生衣神社織殿管理事業	宗教法人 初生衣神社	30 千円
市指定	史跡	伝橘逸勢墓管理事業	橘逸勢史跡保存会	30 千円
市指定	史跡	伝井伊共保出生井管理事業	宗教法人 龍潭寺	30 千円

無形民俗文化財の保存伝承・活用に対する補助金

区 分	事業名	交付先	市交付額
国指定	川名のひよんどり保存伝承・活用等事業	川名ひよんどり保存会	134 千円
国指定	川名のひよんどり保存伝承・活用等事業	川名ひよんどり保存会	70 千円
国指定	西浦の田楽保存伝承・活用等事業	西浦田楽保存会	529 千円
国指定	西浦の田楽保存伝承・活用等事業	西浦田楽保存会	120 千円
県指定	滝沢の放歌踊保存伝承・活用等事業	滝沢放歌踊保存会	70 千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	255 千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	70 千円
市指定	犬居つなん曳保存伝承・活用等事業	犬居自治会龍勢社	90 千円
市指定	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存伝承・活用等事業	妙功庵観音堂の百万遍念仏と 念仏講保存会	70 千円

国・民間からの補助金・助成金

補助・助成元の名称	事業名	補助・助成先	補助・助成額
国（文化芸術振興費補助金）	浜松市中山間地域の文化遺産活用推進事業	浜松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会	7,150 千円
一般財団法人伊豆屋伝八文化振興財団 （文化財修理保存等助成事業）	帝釈天菩薩・大梵天王菩薩美術工芸品保存修理事業	宗教法人 宝林寺	150 千円
	実相寺伽藍のうち庚申堂建造物保存修理事業	宗教法人 実相寺	150 千円
	秋葉神社神門建造物保存修理事業	秋葉山本宮秋葉神社	150 千円
公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	実相寺伽藍のうち庚申堂建造物保存修理事業	宗教法人 実相寺	500 千円

3 文化財等の公開

（１）文化財建造物の公開

以下の文化財建造物を公開し、必要な維持管理等を実施した。

区分	施設名	所在地	事業内容	入場者数
国指定有形文化財	鈴木家住宅	北区引佐町的場	燻蒸、消防設備保守点検、建造物保存修理のための地盤調査・耐震診断等	383 人
国指定有形文化財	中村家住宅	西区雄踏町宇布見	警備、植栽管理、施設修繕等	1,535 人
市指定有形文化財	舞坂宿脇本陣	西区舞阪町舞阪	警備、消防設備保守点検等	2,639 人
国登録有形文化財	旧田代家住宅	天竜区二俣町鹿島	樹木管理、施設修繕、施設管理等	680 人



中村家住宅



舞坂宿脇本陣

（２）賀茂真淵記念館の運営

国学者賀茂真淵の業績及び関係資料を紹介するため、展示や講座等を開催した。なお、（一社）浜松史蹟調査顕彰会が指定管理者として施設の運営を行った。入館者数：5,023 人。



賀茂真淵記念館



同展示室

（３）内山真龍資料館の運営

国学者内山真龍の業績を紹介するため常設展３回を開催したほか、施設の維持管理を行った。
入館者数：700 人。



内山真龍資料館



同展示室

（４）浜松市地域遺産センターの運営

埋蔵文化財をはじめとする市内の文化財に関する保存・活用事業を行う施設である浜松市地域遺産センターの運営・管理を行った。入館者数 4,229 人。※詳細は第 3 章（45 頁）に掲載。

4 文化財の災害対策

（１）普及啓発

将来予想される災害に際して文化財の被災の可能性や減災、救済の必要性を案内する講座や講演会、フィールドワーク等を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を見送った。

（２）その他の災害対策

文化財防火デー訓練 文化財防火デーである 1 月 26 日とその前後に重要文化財中村家住宅（西区雄踏町）等において消防訓練を実施した。

文化財防災物品の備蓄 災害発生時の文化財救済作業で使用する薄葉紙などの物品を購入し、地域遺産センター等へ備蓄した。

5 地域と連携した文化財の保存と活用

（１）市指定天然記念物「アカウミガメ」の保護

遠州灘海岸でアカウミガメの保護に努めている特定非営利活動法人サンクチュアリエヌピーオーとの相互連携や業務委託によって、以下の事業を実施した。

保護監視と生態調査 指定区域内のアカウミガメ及びその産卵地の保護監視、生態及び産卵状況の調査等を行い、45 の産卵巣を確認し、5,569 個の卵を保護した。

親と子のウミガメ教室 文化財や自然保護への理解を深めるため、ウミガメ講座、海岸ウォッチング、早朝の産卵調査、子ガメの放流会等の教室を3回開催した。実施状況は右記のとおり。

開催日	大人	子ども	合計
7月18日	71人	81人	152人
8月1日	72人	80人	152人
8月23日	65人	72人	137人
合計	208人	233人	441人



ウミガメ教室の様子



海へ向かう子ガメ

(2) 地域資源散策コース「遠州山辺の道」の整備と活用

浜北区内で設定している地域資源散策コース「遠州山辺の道」について、地域住民が参加している市民団体「遠州山辺の道の会」との相互連携や業務委託により、サブルート整備、道標・石仏の保護に重点をおいて活動した。



小松郷歴史の小径整備



道標・石仏の保護活動

(3) 無形民俗文化財の活性化

市内各所で無形民俗文化財を伝承している各地域の保存団体の自主的な取組を支援することにより、民俗芸能の確実な伝承と地域の活性化を図った。

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会事務局の運営 各保存団体の相互連携や情報交換を図るために設置されている連絡会の事務局として運営補助・調整等を行った。

- ・理事会 令和2年9月5日（土）会場：引佐協働センター
- ・総会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

参加団体

団体名称	文化財名称	所在地	指定区分
寺野伝承保存会	遠江のひよんどりとおくない（寺野のひよんどり）	北区引佐町渋川	国指定
川名ひよんどり保存会	遠江のひよんどりとおくない（川名のひよんどり）	北区引佐町川名	国指定
懐山おくない保存会	遠江のひよんどりとおくない（懐山のおくない）	天竜区懐山	国指定
西浦田楽保存会	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家	国指定
遠州大念仏呉松組	呉松の大念仏	西区呉松町	県指定
滝沢放歌踊り保存会	滝沢の放歌踊	北区滝沢町	県指定
横尾歌舞伎保存会	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾・白岩	県指定
川合花の舞保存会	川合花の舞	天竜区佐久間町川合	県指定
西浦の念仏踊保存会	西浦の念仏踊	天竜区水窪町奥領家	県指定
遠州大念仏保存会	遠州大念仏	中区鹿谷町	市指定
妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町中川	市指定
大居自治会	大居つなん曳	天竜区春野町堀之内	市指定
勝坂神楽保存会	勝坂神楽	天竜区春野町豊岡	市指定
滝沢おくない保存会	滝沢のシシウチ行事	北区滝沢町	国選択
今田花の舞保存会	今田花の舞	天竜区佐久間町奥領家	県選択
神澤おくない継承同好会	神澤おくない	天竜区神沢	未指定
東久留女木地区	東久留女木のおくない	北区引佐町東久留女木	未指定
雄踏歌舞伎保存会万人講	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町宇布見	未指定
浦川歌舞伎保存会	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川	未指定
有玉神社流鏝馬神事保存会	有玉神社流鏝馬神事	東区有玉南町	未指定
雄踏息神社田遊祭	息神社の田遊祭	西区雄踏町宇布見	未指定

情報の発信 無形民俗文化財広報誌「山と里の民俗」（第15号・第16号）を発刊し、関係各所にて配布した。発行部数：各4,000部

次世代への継承 浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会への業務委託により、学校と地域の保存会との連携による次世代への継承事業（民俗芸能の体験等）を実施した。

文化財名称	学校・団体名	内 容
滝沢の放歌踊	都田小学校 都田中学校	滝沢の放歌踊について、歴史の学習、舞の所作や演奏の練習、楽器や道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を校内発表会で披露した。
浦川歌舞伎	浦川小学校	浦川歌舞伎について、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を本番や校内発表会で披露した。
雄踏歌舞伎「万人講」	雄踏小学校 他	雄踏歌舞伎について、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行った。
寺野のひよんどり	引佐北部小中学校	それぞれの無形民俗文化財について、歴史の学習、所作や演奏の体験などを行った。
遠州大念仏	北浜小学校	
神澤のおくない	NPO 法人 みらいネット浜松	神澤のおくないについて、担い手及び指導者育成のため社会人を対象とした所作や演奏の練習・指導を行い、祭礼で実際に披露した。

日本の祭り in しずおか 2020（WEB）の開催 全国26団体の演目を、期間限定で公開する「日本の祭り in しずおか 2020」がWEB特設サイトにおいて開催され、浜松市からは、西浦の田楽、滝沢の放歌踊、横尾歌舞伎が映像出演した。本事業は令和2年11月に開催を予定していた地域伝統芸能全国大会が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止になったことに伴い、WEB事業として実施されたもので、出演予定であった各団体の演目を集約し、令和2年12月25日（金）から令和3年8月13日（金）までの期間限定で公開された。



日本の祭り in しずおか 2020（WEB）
広報チラシ

「高円宮殿下記念地域伝統芸能賞」の受賞 地域伝統芸能の保存と継承に寄せられた高円宮殿下の御遺徳を後の世に永く伝えるため、特に地域伝統芸能の保存、継承及び活用に抜きんできた功績の認められる団体や個人に対して授与される「高円宮殿下記念地域伝統芸能賞」の2020年受賞団体に西浦田楽保存会が選定された。

受賞団体となった西浦田楽保存会に対しては、令和2年11月に静岡市で開催を予定していた第28回地域伝統芸能全国大会において表彰式を執り行い、公演も予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大会は開催中止となり、表彰式は令和3年以降に延期となった。



西浦田楽（天竜区）



西浦田楽保存会

（４）城跡等史跡の整備活用

古墳や城郭をはじめとする史跡等を歴史・文化資源、観光資源として有効に活用するため、調査研究を進めるとともに、国指定史跡二俣城跡及び鳥羽山城跡の整備基本計画の策定、国指定史跡光明山古墳の史跡指定地の公有化などを進めた。また、市指定史跡である浜松城跡については、昨年度に引き続き石垣調査を実施するとともに、築城時のバーチャル再現データを作成した。

整備基本計画の策定 二俣城跡及び鳥羽山城跡について、令和2年3月に文化庁から認定を受けた保存活用計画に基づき、城跡の整備内容の具体像を定める整備基本計画の策定に着手した。策定作業を円滑に進めるため、有識者を集めた整備基本計画検討会を開催し、事務局と参加者による討議を行った。

二俣城跡及び鳥羽山城跡整備基本計画検討会名簿

分野	氏名	所属等
建築学	寒竹 伸一	静岡文化芸術大学副学長
考古学	北野 博司	東北芸術工科大学歴史遺産学科教授
城郭考古学	千田 嘉博	奈良大学文化財学科教授
遺跡整備・庭園史	高瀬 要一	琴ノ浦温山荘園理事長
地域史	坪井 俊三	元浜松市史編纂執筆委員・元市文化財保護審議会委員
公開活用	山下 治子	株式会社アム・プロモーション常務取締役・「ミュゼ」編集長
歴史地理学	山村 亜希	京都大学大学院人間・環境学研究科教授

※五十音順／所属等は令和2年4月現在

史跡指定地の公有化 光明山古墳について史跡指定地の適切な保存と管理、今後の整備活用のため、墳丘本体部分にあたる3,505㎡の公有化を実施した。

バーチャル再現データ作成 浜松城跡について往時の姿を再現するためのCG復元図作成を行った。CGはこれまでの発掘調査や各種の古記録に基づき、徳川家康在城期と堀尾吉晴在城期のものを作成し、浜松城の城域の変遷、石垣や建物などの改修の過程がわかるものとした。



光明山古墳（天竜区）



徳川家康在城期の浜松城CG復元図

6 埋蔵文化財の保存と活用

（１）調整・管理

埋蔵文化財包蔵地に関する照会対応 開発事業者及び市役所内部等からの照会に対して、埋蔵文化財包蔵地の該当の有無を確認し対応した。

照会地	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区	全市合計
件数	1,874件	1,187件	791件	896件	608件	777件	200件	6,333件
前年度比	100%	109%	104%	107%	105%	101%	108%	104%

土木工事等への対応 埋蔵文化財包蔵地内において土木工事等の計画を有する事業者等との間で遺跡への適切な措置が図られるよう協議を行った。また、民間事業者から提出される文化財保護法第93条に基づく届出を受理し指示を行う（289件、前年度比126%）とともに、市役所の各部署から公共事業に伴い静岡県教育委員会へ提出される同法第94条に基づく通知については、進達・副申・伝達を行った（28件、前年度比97%）。

埋蔵文化財包蔵地の管理 発掘調査等の結果、範囲等の変更を要する埋蔵文化財包蔵地については、静岡県教育委員会に内容変更を求める協議書を提出した（4件）。

出土遺物の管理 発掘調査等により遺物を発見した際には、発見地の所管警察署へ文化財保護法第100条に基づく文化財の発見通知書を提出した（36件）。

（２）調 査

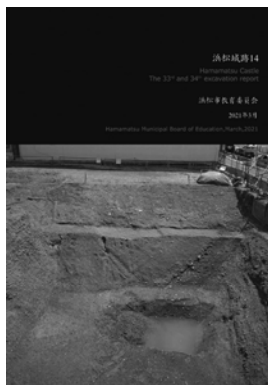
遺跡の状況を把握するための試掘・確認調査や現地踏査、記録保存のための本発掘調査や工事立会等を実施し、出土品や記録類の整理作業・報告書編集を行った。（調査の詳細は第2部を参照）。

(3) 公開・活用

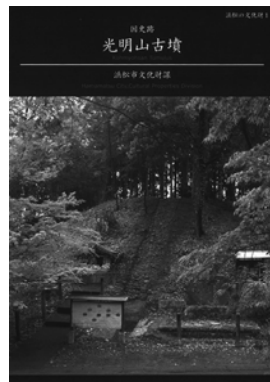
調査成果の整理と報告書等の刊行・公開 浜松城跡など開発事業に先立ち実施した発掘調査の成果をまとめた報告書を刊行した。報告書は市内及び全国の自治体、大学、研究機関、図書館等へ配布した。普及啓発用のパンフレット・リーフレット類は、地域遺産センター等に配架した他、講座や見学会等の際に参加者へ配布した。

また、奈良文化財研究所がインターネット上で報告書データを公開している「全国遺跡報告総覧」において、既刊の報告書等の PDF データを公開することに努めた。

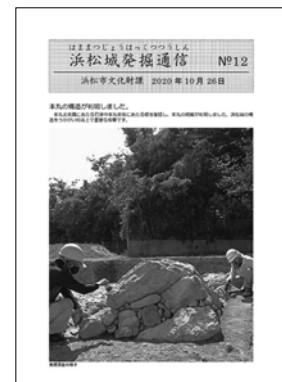
種 別	名 称	概要・趣旨
発掘調査報告書	別所前遺跡 -4 次調査の成果-	別所前遺跡の 4 次発掘調査成果の報告
発掘調査報告書	梶子遺跡 24	梶子遺跡の 24 次発掘調査成果の報告
発掘調査報告書	浜松城下町遺跡 3	浜松城下町遺跡の 13 次発掘調査成果の報告
発掘調査報告書	浜松城跡 14	浜松城跡の 33 次・34 次発掘調査成果の報告
発掘調査報告書	松東遺跡 4 -11 次調査の成果-	松東遺跡の 11 次発掘調査成果の報告
パンフレット	浜松の文化財 1 光明山古墳	国指定史跡の光明山古墳について紹介
パンフレット	浜松の文化財 2 袈裟襷文銅鐸	県指定・市指定有形文化財の袈裟襷文銅鐸について紹介
パンフレット	浜松の文化財 3 金銀装円頭大刀	県指定有形文化財の金銀装円頭大刀について紹介
パンフレット	浜松の文化財 4 浜松城跡	市指定史跡の浜松城跡について紹介
発掘調査概要報告書	浜松城跡 35 次調査の概要	浜松城跡 35 次発掘調査成果の概要を紹介
リーフレット	浜松城跡発掘通信 No.11~15	浜松城跡 35 次発掘調査の状況について紹介



浜松城跡 14



浜松の文化財 1
国史跡 光明山古墳



浜松城発掘通信 No. 12

展示会 地域遺産センターを中心に、発掘調査成果を活用し展示会を開催した。

会 期	名 称	会 場	来場者数
6 月 6 日～8 月 28 日	発掘調査速報展（企画展「はままつの文化財 2020」の一部）	地域遺産センター	1,401 人
8 月 1 日～継続	「引佐の文化財」	静岡銀行引佐支店	未計測
1 月 8 日～31 日	「ズームイン！文化財」	引佐図書館	未計測
2 月 5 日～28 日	「ズームイン！文化財」	細江図書館	未計測
3 月 5 日～28 日	「ズームイン！文化財」	三ヶ日図書館	未計測



発掘調査速報展



ズームイン！文化財（引佐図書館）

見学会 発掘調査の現地説明会や遺跡の見学会を実施して、調査成果の公開に努めた。

開催日	名 称	来場者数
9 月 26 日	浜松城跡 35 次調査現地説明会	719 人
2 月 13 日	石ノ塔古墳発掘調査現地説明会	440 人



石ノ塔古墳発掘調査現地説明会

講座・シンポジウム 主催・共催事業のほか、依頼を受けて担当者を講師として派遣した。

開催日	講座名称	講 師	会 場	参加者数
7 月 9 日	「引佐町の縄文～古墳時代」	市担当者を派遣	金指小学校	19 人
8 月 26 日	「浜松市の発掘調査」	市担当者を派遣	浜北区役所	30 人
10 月 6・13・15 日	「郷土の歴史を学ぶ」	市担当者を派遣	引佐協働センター	20 人
12 月 5 日	「浜松城の発掘調査」	市担当者を派遣	流通元町図書館	20 人
1 月 16 日	「千人塚古墳群見学会」	市担当者を派遣	都田図書館	17 人
1 月 31 日	「シカの埴輪をつくろう」	市担当者を派遣	浜北市民ミュージアム	12 人
2 月 6 日	「蜷塚遺跡と佐鳴湖をめぐる文化財」	市担当者を派遣	佐鳴湖北管理棟	12 人
3 月 13 日	「高句麗前期の都城と古墳と浜松」	市担当者を派遣	城北図書館	36 人
3 月 22 日	「浜松市の文化財 みんなの知らない三ヶ日のことを知ろう」	市担当者を派遣	三ヶ日西放課後児童クラブ	30 人



郷土の歴史を学ぶ



高句麗前期の都城と古墳と浜松

イベント・ワークショップ 埋蔵文化財への興味・関心を促進するため普及啓発事業を開催した。

開催日	講座名称	概要・趣旨	参加者数
8 月 1 日～23 日	夏休み体験イベント「井伊谷夏の陣」	考古学体験、謎解きラリー、自由研究相談など	701 人



考古学体験



考古学体験（土器パズル）

第2章 市内指定文化財等の動向

1 新指定の文化財

(1) 鰐口 至徳二年の陰刻銘あり

区 分	静岡県指定有形文化財
種 別	工芸品
員 数	1口
所有者	浜松市
所在地	浜松市中区蛸塚四丁目22-1 浜松市博物館
年 代	至徳二年（1385年）（奉納年）
指定日	令和3年4月2日
概 要	

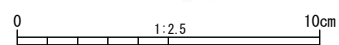
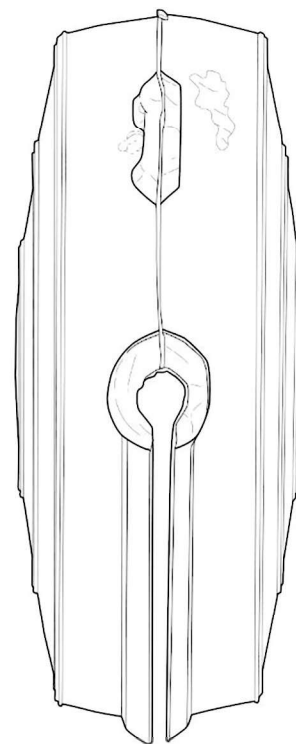
この鰐口は鋳銅製で、表裏とも圏線により、内側から撞座区、内区、銘帯に区分され、銘帯には銘文が陰刻される。鋳造状態、遺存状態、共に良好である。面径は22.4 cm、耳の渡しは25.7 cm、厚さは9.6 cm（撞座の中央）、縁の厚さは6.8 cm、重さは4.095 kgである。

銘文から、この鰐口は、至徳二年（1385）に、国土豊饒、子孫繁昌を願い、池田荘（現在の浜松市東南部～磐田市南部）内にあった若宮大明神に奉納されたことがうかがえる。なお、右銘帯の池田庄以下三文字には郷名が示されているとみられ、「草崎郷」と刻まれている可能性がある。草崎郷は現在の磐田市草崎にあたる。

また、各区を巡る圏線がいずれも二条であること、礼拝時に打ち鳴らされる中央部の撞座区は無文であること、両側面から突出する目と目に続く唇は、共に突出が少ないといった形態的な特徴を持つ。本県における室町時代前期以前に制作された他の鰐口にも共通する特徴を持つものがあり、銘文に示された時代と形態的な特徴からうかがえる製作時期は合致する。

本鰐口は、銘文の歴史資料的な価値を含め、本県における数少ない室町時代前期における優れた金工品として、当時の金工技術水準の一端を示す重要な資料である。

【銘文】 奉寄進遠州池田庄□□□〔草崎郷ヵ〕松尾末社若宮大明神依氏神□座鰐口一（銘帯右）
右志者天長地久国土豊饒為子孫繁昌也至徳二年乙丑十月一日□沙弥□□敬白（銘帯左）



鰐口実測図



鰐口陰影強調画像

【銘帶右】



奉
寄
進
遠
州
池
田
庄

□
□
□

〔草崎郷力〕

【銘帶左】



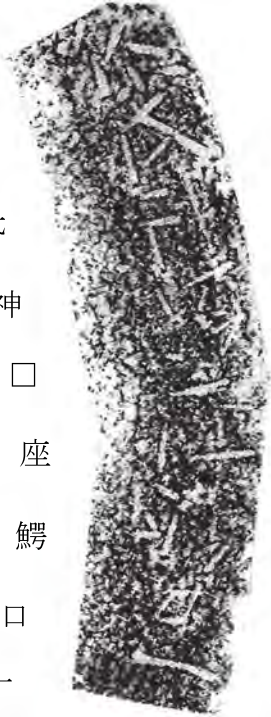
右
志
者
天
長
地
久



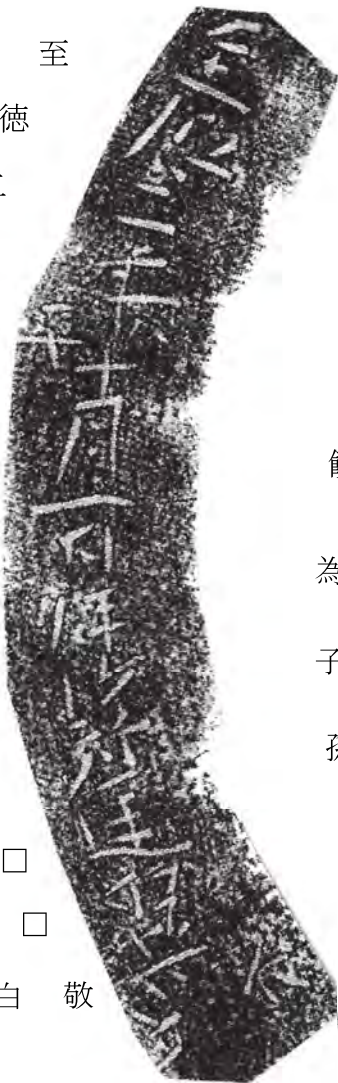
松
尾
末
社
若
宮
大
明
神



国
土
豊
饒
為
子
孫
繁
昌
也



依
氏
神
□
座
鰐
口
一



至
德
二
年
乙
丑
十
月
一
日
□
沙
弥
□
□
白
敬

鰐口銘帶拓本



鰐口（正面）



鰐口（左側面）



鱗口（左側面）



銘帶左拡大（至德二年）



銘帶右拡大（遠州池田庄）

(2) ジェームズ・ペイトン号遭難事件関係資料

区 分 浜松市指定有形文化財
種 別 歴史資料
名称・員数 ジェームズ・ペイトン号遭難事件関係資料
一、器物類 4口、2本、1合、1面
一、文書・記録類 19冊、14通、5枚

所有者 個人
所在地 浜松市南区福島町
年 代 明治8～9年（1875～1876）
指定日 令和3年3月23日

概 要

イギリス商船ジェームズ・ペイトン号の遠州灘沖遭難（座礁）事件に関する明治8年（1875）から明治9年（1876）までの資料。浜松市南区福島町に伝わり、ガラス製のワイングラス、栓付デカンタ、蓋付菓子器、把手付盆から構成される器物類、及び、遭難事件のてん末を記した文書・記録類から成る。

器物類は、英国政府が謝意を表して地元関係者に贈った複数の贈り物のうち、福島村（現南区福島町）戸長の山田斧治郎が受け取ったものである。文書・記録類は、事件の際に救助した外国人に対するもてなしの内容や経費、静岡県や浜松県への各種届け出、英国公使から伝えられた謝意、事件後の船の入札状況など、事件に関する一連のてん末が記載されているものである。

福島村の村民を中心とする人々が、遭難した船員らに対して人道的かつ親切に対応し、これに対してイギリス政府が謝辞や贈り物等でこたえるなど、事件のてん末がたどれ、市下、民間での良好な国際交流をよく伝えるものであることが評価された。



器物類



文書・記録類

(3) 浜松城跡（市指定史跡）の追加指定について

区 分 浜松市指定史跡

種 別 史跡

所有者 浜松市

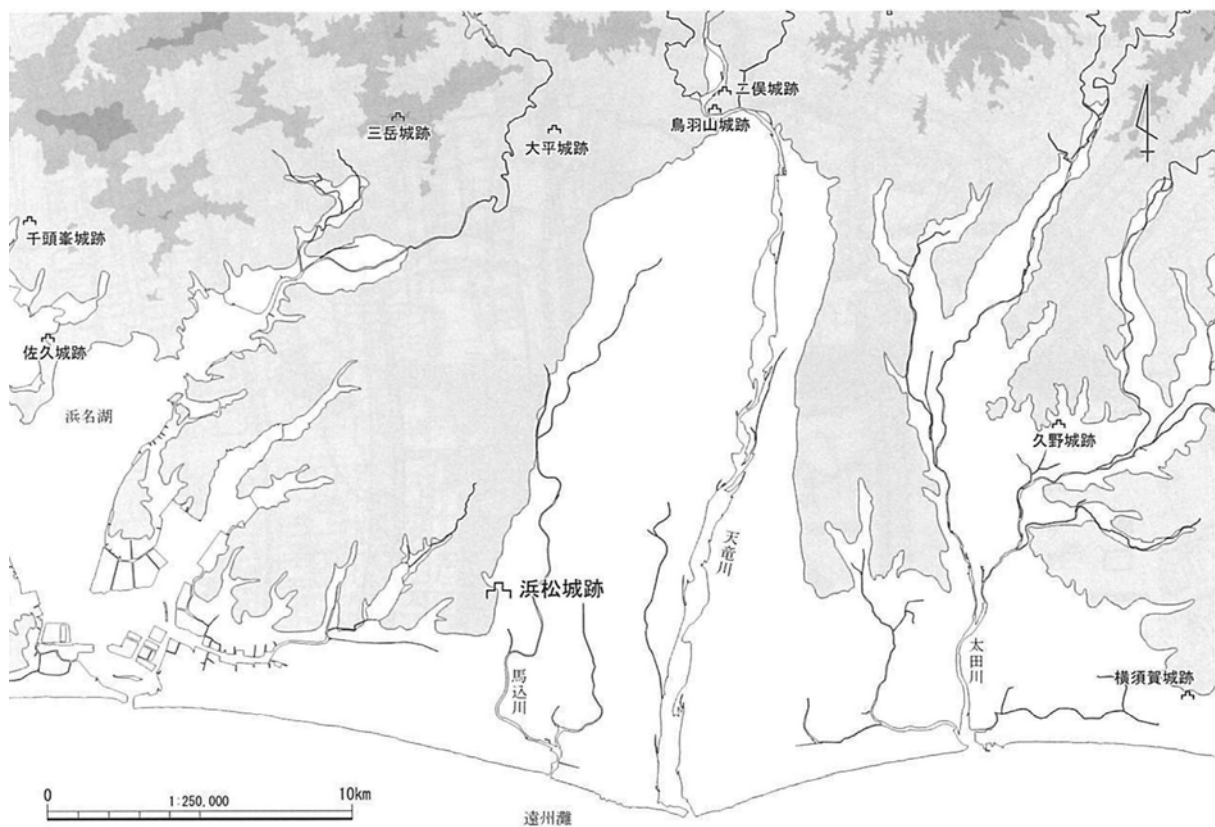
所在地 浜松市中区元城町 100-2

指定日 昭和 34 年 6 月 18 日、令和 3 年 1 月 28 日追加指定

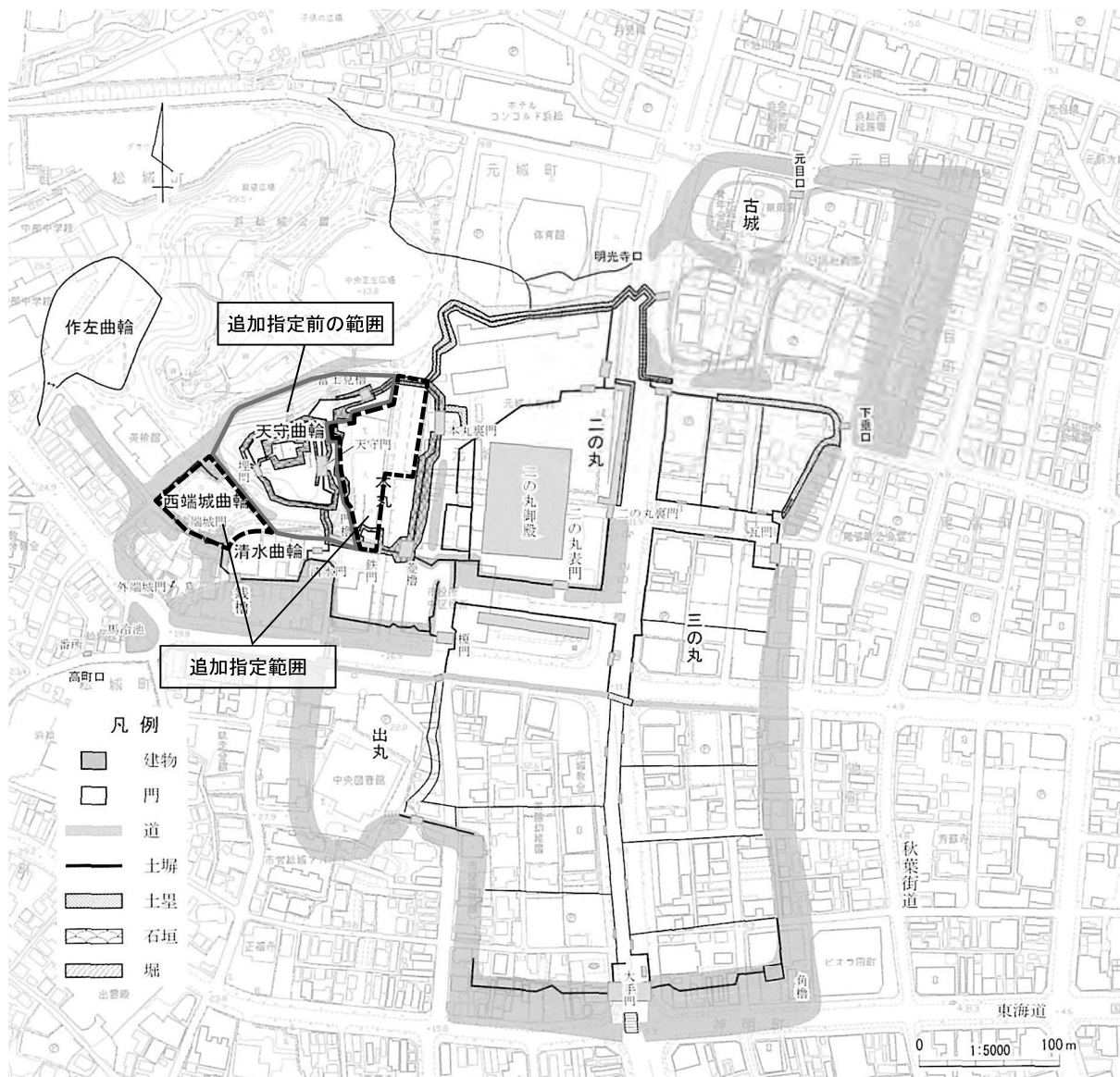
概 要

浜松城跡は、浜松市の中心市街地に立地する中近世城郭である。城域が最大の規模となった近世には東西 600 m、南北 650 m の規模であった。昭和 33 年（1958）4 月 26 日、市民等の寄付により、鉄筋地下 1 階、地上 3 階の復興天守閣を面積 310.7 平方メートル（94.16 坪）で建築した。当時、内部は浜松市立郷土博物館として使用され、現在は、天守閣は浜松城の歴史を通史的に紹介する歴史文化観光施設として活用されている。

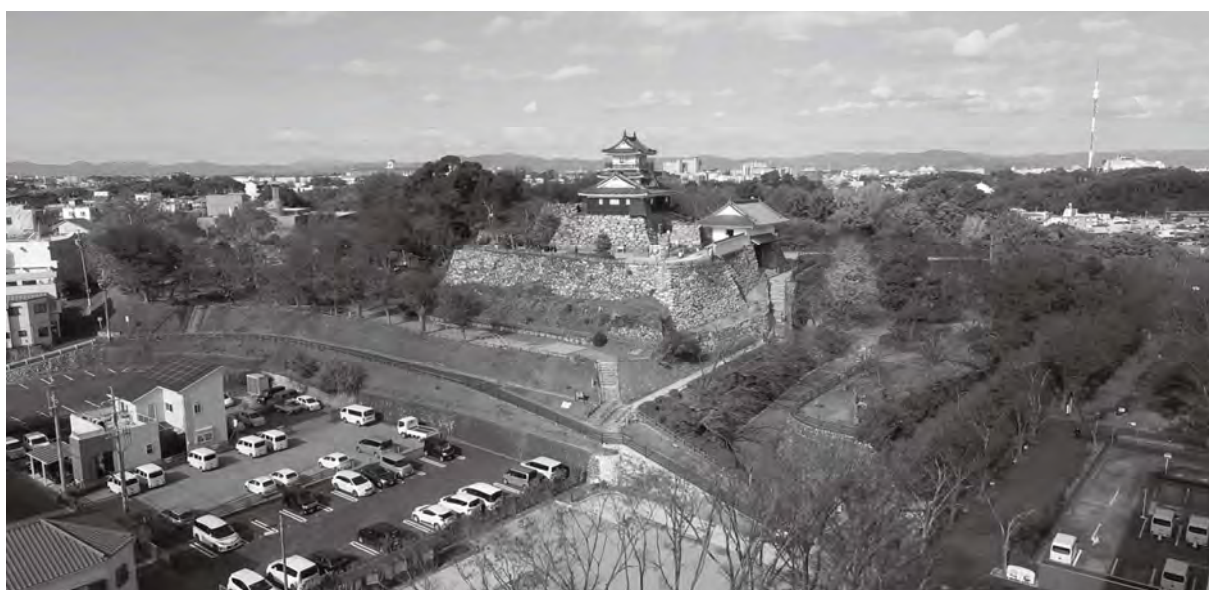
浜松城跡の追加指定範囲は、浜松城跡の中枢部に相当する本丸と西端城曲輪にあたる。昭和 34 年に浜松城の天守曲輪をその周辺が浜松市指定史跡に指定された後、浜松城に係る調査研究が進み、発掘調査の成果などを加えた総合的な評価が行えるようになっている。また、天守曲輪では平成 26 年に天守門及び土堀が再建されるなど浜松城跡の本質的価値の顕在化が進んでいる。これまでに明らかにされた情報を踏まえ、浜松城跡の保存を万全にし、適切な活用事業を図るため、条件が整う範囲について追加指定することが適当と評価された。追加指定後の市史跡浜松城跡の範囲は、東西約 200 m、南北約 130 m に拡大した。



位置図



指定範囲と近世浜松城の城域 (1/5000)



指定地の写真

2 文化財の主な整備・保存修復事業

(1) 寶林寺 方丈 美観向上整備事業

区 分	国指定有形文化財
種 別	建造物
指定日	昭和 56 年 6 月 5 日
補助事業者	宗教法人 寶林寺
所在地	浜松市北区細江町中川 65-2
事業期間	令和 2 年 6 月 1 日から令和 2 年 11 月 27 日まで 6 ヶ月
工事期間	令和 2 年 6 月 30 日から令和 2 年 11 月 13 日まで
技術指導	文化財建造物保存技術協会
施 工	田中社寺株式会社
構 造	桁行 19.2 m 梁間 12.3 m 一重 寄棟造 茅葺
工事概要	部分差茅（屋根外観表層の美化、健全化）
修理公開	施行中は敷地内から屋根の施工状況を観察できる状態にした
報告書	今回報告書は無し（平成 2 年の全解体修理時に報告書を作成）



施工前 屋根表層に苔、茅の波打ちが見られる



施工中 差し茅 北東面



施工中 差し茅 正面



竣工 南面

(2) 摩訶耶寺 木造千手観音立像 美術工芸品保存修理

区 分	国指定有形文化財
種 別	彫刻
造像年代・作者	平安時代・不明
指定日	大正4年3月26日
補助事業者	宗教法人 摩訶耶寺
所在地	浜松市北区三ヶ日町摩訶耶 421
事業期間	令和2年4月1日から令和3年3月31日まで
施工期間	令和2年5月18日から令和3年2月28日まで
施 工	公益財団法人 美術院

保存修理の経緯

部材欠損や虫喰など損傷が著しいため、適切な保存・活用ができるよう保存修理を実施した

像の概要

(像高)152.4 cm。(形式)垂髻。髻頂上に仏面、地髪上に頭上面十面(現状四面残存)。天冠台彫出。髪は髻および天冠台、下正面の地髪は束目入り、天冠台上および天冠台下背面の地髪は平彫り。鬢髪一条が耳を渡る。白毫相を表す。彫眼。耳朵環状で不貫、三道彫出。条帛を懸け、裙、腰布をまとう。天衣を両肩に懸け、腰前・膝前にU字形にたるませる。合掌手・宝鉢手および左右脇手各前列六・中列七、後列六の四十二臂。合掌手に臂釧、各手に腕釧を付ける。足先をやや開いて直立する。持物は全て亡失。(構造)《本軀》桧材、一木造、白下地彩色、白毫水晶製。頭軀幹部を通し一材(左首付根辺りに木心を籠める)から彫出。内削りなし。髻頂上の仏面は髻とともに体幹部より彫出。頭上面は竹太柄で各植付け。《光背》挙身光。桧材か。漆箔および朱漆塗仕上げ。身光部は頭光を含め一材製か。身光外周に金属製の装飾金具を巡らせる。周縁部は中央頂上部一区、左右各一句に分かれる。各区詳細は漆箔に覆われ不明。台座背面に設ける支柱に柄を差し込み立てる。身光部背面の上下に横棧を設ける。《台座》蓮華座、桧材、漆箔仕上げ。

修理前の状況

《本軀》汚れ(全体)、濡れ染みや変色(面相部)、取付緩み(脇手)、台座と足の不良な接着可能性(足と台座との接点)、彩色下地浮き(表面)、虫蝕・虫穴(脇手、右足先のほか点在)、朽損・割損・欠失(朽損:木質部全体、割損:宝鉢手、脱落:指1本、欠失:左前頭上面後半部)、亡失(頭上面六面および脇手2本)、鉄釘の強度不良の可能性(胸部)《光背》漆箔の浮き、後世修理の変色、取付状況不良(左回転)《台座》漆箔の浮き、足柄穴周辺の割損、光背受けの緩み。

修理の内容

《本軀》汚れのクリーニング、濡れ染みや変色の除去・調整(面相部)、取付緩みへの処置(脇手:亡失部は保存への影響無しのため補足無し。頭上面:欠失した後半部を桧材で補足)、台座との接着可能性箇所の処置(足と台座の接点)、彩色下地浮きどめ(表面)、虫蝕・虫穴への充填(脇手、右足先ほか点在)、朽損・割損・欠失箇所の強化・補強・復位(朽損:木質部全体、割損:宝鉢手、脱落指1本)、鉄釘の調査処置(胸部)《光背》漆箔の浮きどめ、後世修理変色の除去・古色調整《台座》漆箔の浮きどめ、割損接着・充填、朽損部埋め、木材補強、光背受け解体・組直し・取付木枠の新補。



千手観音 完成 全影



千手観音 完成 背面



左前頭上面補足状況



左前頭上面欠失部補足後



脇手（右前列3番目）虫穴・染み状況



脇手 虫穴詰め・染み修整後

(3) 龍潭寺 庭園 記念物保存修理等事業

区 分	国指定記念物
種 別	名勝
指定日	昭和 11 年 9 月 3 日
補助事業者	宗教法人 龍潭寺
所在地	浜松市北区引佐町井伊谷 1989
施行期間	令和 2 年 9 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで
設計管理	株式会社 環境事業計画研究所
施 工	有限会社 渥美園

保存修理の経緯

龍潭寺庭園は、本堂北庭として作られた池泉観賞式庭園で、寺伝によると小堀遠州の作とされている。手前には軒に沿って細長い心字池を掘り、その背後に数多くの石組みと築山によって、亀の背に乗った蓬莱山の景色を表現している。池泉南側の乱杭護岸の腐朽が目立つようになったことから、名勝庭園としてふさわしい景観に復するため、約 10 年ぶりとなる護岸修復工事を単年度で実施した。

概 要

約 200 本のアカマツ材の乱杭（丸太杭）の取り替えと、護岸背面の修理を行った。準備工として池泉の水抜き、養生を行った。池泉には魚が飼育されているため魚の捕獲・保護も併せて実施した。護岸修理工として龍潭寺庭園池泉南側護岸に設置されている乱杭の交換及び背面修理を行った。なお背面修理に際しては防水シートを設置した。発生材は関係法令等に基づき適正に処理した。工事完了後は仮設物を撤去し整地・清掃を行った。本事業の実施に当たって、書面により亀山章東京農工大学名誉教授の指導を受けた。

報告書

『名勝龍潭寺庭園護岸修理工事報告書』（宗教法人龍潭寺、令和 2 年）国会図書館、静岡県立図書館、浜松市立図書館等へ納本



修理後 全景



修理前 乱杭護岸



乱杭（丸太杭）の設置作業



乱杭（丸太杭） 設置完了

(4) 宝林寺 木造帝釈天菩薩・大梵天王菩薩 美術工芸品保存修理等事業

区 分	静岡県指定有形文化財
種 別	彫刻
指定日	平成 23 年 12 月 2 日
補助事業者	宗教法人 宝林寺
所在地	浜松市北区細江町中川 65-2
施行期間	令和 2 年 4 月 20 日から令和 3 年 3 月 24 日まで
施 工	本軀：公益財団法人美術院（紙製納入品：株式会社松鶴堂）

保存修理の経緯 約 350 年前に造像された部材脱落や塗りの剥落など損傷が著しい状態であったため、適切な保存ができるよう保存修理を実施した。

像の概要

[帝釈天菩薩] 像高：112.2 cm。品質構造：桧材、寄木造。漆箔および彩色。彫眼。頭軀別材製。頭部は前後二材矧ぎ、主材一材と後頭部材一材との間に薄材一材（首柄部分の下部は厚く、上部は薄くなる材。右はほぼ矧ぎ面全面に渡り頭頂付近に至り、左は顎付根辺りまで）を挟み、内削りを施す。襟内で軀部に差首とし、軀部首柄穴内部に二材（馬蹄形と半円形）からなる首柄受けを設ける。軀幹部は大略前後二材矧ぎ、両肩および像底部に中間材を挟み、内削りを施す。両手首先各別材矧ぎ付け（袖内に差し込み、奥で柄差し）、右手首はさらに袖口上面より釘打ちで固定。腰帯結び目より先、蔽膝先端に別材を矧ぐ。その他、各所に小材を矧ぐ。像底に角柄（雇い柄）一本を設け、台座の柄穴に差し込み立てる。宝冠・簪は銅製鍍金。台座は木製、漆箔および彩色。

[大梵天王菩] 像高：104.6cm。品質構造：桧材、寄木造。漆箔および彩色（川砂・紙縹等による盛り上げ装飾を含む）。彫眼。頭軀別材製。頭部は前後二材矧ぎ、主材一材に後頭部一材を矧ぎ、内削りを施す。襟内で軀部に差首とし、軀部首柄穴内部に三材（前後に縦材を貼り、その上に天板状に一材を渡す）からなる首柄受けを設ける（さらに左右方向に渡る一材を新補）。軀幹部は各別材矧ぎ付け。両手首先各別材矧ぎ付け（袖内に差し込み、奥で柄差し）、右手首は結び目より先の垂下部に三材（右方三材、左方は中間一材を残し上下亡失）を矧ぐ。その他、各所に小材を矧ぐ。像底に角柄（雇い柄）一本を設け、台座の柄穴に差し込み立てる。宝冠・簪は銅製鍍金。台座は木製、漆箔および彩色。

修理前の状況

- (1) 全体に経年の埃が付着していた。
- (2) 像の各所で漆箔・彩色が浮き上がり、剥落進行中で、表面層（川砂・紙縹等を含む）の脱落断片がみられた。また、漆箔・彩色が剥落し下地が露出する箇所、下地層の浮き上がり・脆弱化がみられ、剥落のおそれがあった。
- (3) 像の各所で矧ぎ目の緩む箇所がみられた。また、矧ぎ目に打ち付けられる鉄釘・鉄鋸が腐食する箇所がみられた。
- (4) 像の一部に欠失・亡失箇所がみられた。
- (5) 台座の構造が脆弱で、像の安置に不安があった。
- (6) 台座表面の漆箔が浮き上がり、剥落が著しく進行していた。
- (7) 経年の間に脱落し、別保存される部材がみられた。
- (8) 頭部内削り内部に巻紙が納入されているのが確認され、別途修理が必要な納入品であることが判明した。

修理の内容

- (1) 像全体に付着する埃は、刷毛・筆等を用いて除去した。
- (2) 漆箔・彩色の浮き上がる箇所、下地層の浮き上がり・脆弱化が見られる箇所は、状況に応じて、樹脂等で剥落止めを行った。
- (3) 矧ぎ目の弛む箇所は取り離し後、膠や漆等で接合した。
- (4) 欠失・亡失箇所は、まず保存部材を精査して適合するものがあれば取り付け、適合するものがない場合は修理時の知見により検討する方針で処置を行った。
- (5) 台座は必要な箇所のみ一旦解体し、膠・漆で強固に接合した。また、中棧等の構造補強材、本軀角柄の下端を受ける材を補足し、台座の補強および本軀の安定をはかった。
- (6) 台座表面の漆箔が浮き上がる箇所は、樹脂等で剥落止めを行った。
- (7) 脱落し別保存される部材は精査し、元の位置に復位した。
- (8) 頭部内刳り内部から取り出した納入品は、修理を施した上、平成30・令和元年度実施の各像の納入品に倣って柿渋紙で外側を包み、頭部内刳り内に再納入した。
- (9) 修理箇所は古色仕上げとし、修理記銘の銅札を帝釈天菩薩台座裏面に打ち付けた。

※本稿は施工した美術院および松鶴堂の補助事業に際しての報告による。



帝釈天菩薩 修理前 全影



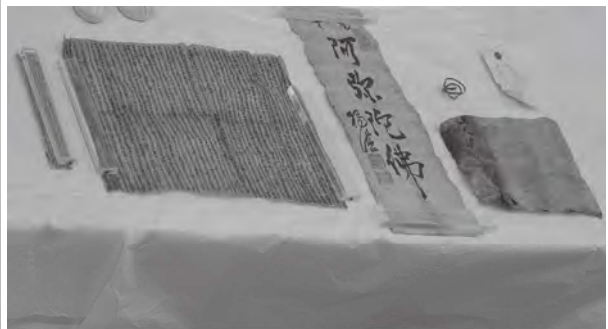
帝釈天菩薩 完成 全影



帝釈天菩薩 解体状況



帝釈天菩薩 納入品納入状況



帝釈天菩薩 納入品開封



帝釈天菩薩 納入品修理後納入状況



大梵天王菩薩 修理前 全影



大梵天王菩薩 完成 全影



大梵天王菩薩 解体状況



大梵天王菩薩
納入品納入状況



大梵天王菩薩
納入品修理後納入状況



大梵天王菩薩 納入品開封

(5) 摩訶耶寺 庭園 記念物保存修理等事業

区 分	県指定記念物
種 別	名勝
指定日	昭和 52 年 3 月 18 日
補助事業者	宗教法人 摩訶耶寺
所在地	浜松市北区三ヶ日町摩訶耶 421
施行期間	令和 3 年 3 月 25 日から令和 3 年 6 月 30 まで（令和 2 年度繰越事業）
施 工	日本庭園研究会

保存修理の経緯

摩訶耶寺庭園は、庭園西側からの眺めを意識して作られた池泉鑑賞式庭園である。昭和 42 年に草木で覆われた中から発見され、翌年に日本庭園研究会による調査が行われて、その様式手法から平安時代末期～鎌倉時代初期頃の作と推定されている。近年、池の護岸石組において、背面土の流出あるいは樹木の根による被害によって傾いた景石が見つかった。また、池に泥が溜まったことに加え、庭園南側の護岸からの漏水によって池底が見えるほど池の水位が下がっていた。以上のような状態から庭園としての景観を回復するために、修復工事を行った。

概 要

池の浚渫、石組の傾きの修復、南側護岸の漏水止め（防水シートの設置を含む）を行なった。施工は日本庭園研究会の静岡・愛知両県の会員が行い、同会の吉河功会長が指導した。修復にあたっては、日本庭園研究会が昭和 48 年の調査以来、各年にわたって撮影してきた記録写真に基づいて行われた。

行 事	見学会「摩訶耶寺の文化財」 令和 4 年 1 月 23 日実施
報告書	『庭研』第 421 号 摩訶耶寺庭園修復特集号 日本庭園研究会



修理前 中央部築山（南西側から）



浚渫（西側から）



蓬莱出島の石組の修理作業



修理後 南側護岸（北東側から）



修理後（北東部取水口側から）



修理後 中央部築山と蓬莱出島（西側から）

(6) 長楽寺 庭園 記念物保存修理等事業

区 分	県指定記念物
種 別	名勝
指定日	昭和 61 年 3 月 22 日
補助事業者	宗教法人 長楽寺
所在地	浜松市北区細江町気賀 7953-1
施行期間	令和 2 年 11 月 11 日から令和 3 年 3 月 31 日まで
施 工	初花園

保存修理の経緯

長楽寺庭園は、客殿上段の間から全景が一望できるように作られている。築山には玉刈り込みのドウダンツツジが植えられ、所々にサツキが混じる。手前には左右に細長く広がる池を配し、向かって右寄りには山の斜面を利用した築山を配している。向かって左の背後には、長楽寺山号の光岩山の由来である巨岩と旧本堂跡がある山の稜線が見え、これを庭園の借景としている。

近年、庭園北側に植栽されているスギ・ヒノキが乱雑に伸びて、借景である遠景の眺望を遮っていたので、庭園の景観を回復させるために修理を行った。

概 要

借景を遮っているヒノキ 1 本及び、枯損したスギ 1 本の伐採とスギ 15 本の枝打ちを行った。



修理後 全景



修理前



修理後（伐採2本、枝打ち15本）

(7) 実相寺伽藍 庚申堂 保存修理

区 分 浜松市指定有形文化財
種 別 建造物
指定日 平成 29 年 2 月 23 日
補助事業者 宗教法人 実相寺
所在地 浜松市北区引佐町金指 1371 番 1
施行期間 平成 31 年 4 月 26 日～令和 3 年 3 月 31 日
設計管理 静岡県伝統建築技術協会
施 工 山喜建築
構 造 桁行三間、梁間二間、入母屋造平入、棧瓦葺
正面に一間向拝付 背面に一間、奥行一間の祭壇付

保存修理の経緯

嘉永元年（1848 年）の建立から 170 年以上が経過し、建物の傾斜や部材の 傷みが確認されたため、良好な状態で後世へ残し伝えられるよう保存修理を行った。

工事概要

仮設工事、解体工事、基礎外構工事、木工事、屋根工事、建具工事、耐震補強工事を実施した。詳細は修理報告書に記載した。

報告書

『浜松市指定有形文化財 実相寺庚申堂保存修理工事報告書』
(宗教法人実相寺、令和 3 年)



実相寺庚申堂 着手前 外観



実相寺庚申堂 解体完了後



実相寺庚申堂 竣工 外観



実相寺庚申堂 竣工 内観

(8) 秋葉山本宮秋葉神社 神門 建造物保存修理

区 分	浜松市指定有形文化財
種 別	建造物
指定日	昭和 41 年 12 月 26 日
補助事業者	宗教法人 秋葉山本宮秋葉神社
所在地	浜松市天竜区春野町領家 841
事業期間	令和 2 年度分事業 令和 2 年 4 月 20 日から令和 3 年 3 月 31 日まで 12 ヶ月
工事期間	令和 2 年 6 月 16 日から令和 3 年 3 月 31 日まで 10 ヶ月 (全工事期間 令和 2 年 6 月～令和 5 年 3 月)
設計監理	静岡県伝統建築技術協会
施 工	株式会社 天峰建設
構 造	桁行 34.1 尺 梁間 19.8 尺 入母屋造平入 金属板 (アルミニウム) 葺
工事概要	全解体保存修理 (令和 2 年度は解体まで実施)
修理公開	無し (令和 3 年度に実施予定)
報告書	無し (竣工時に作成予定)



施工前 全景 西面



解体状況 2階足場南西より

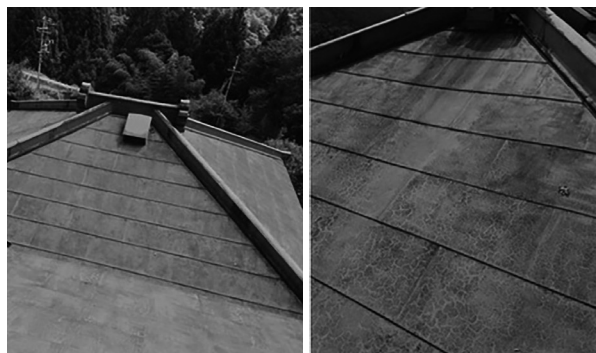
3 文化財の継承事業

西浦所能観音堂及び幕屋の屋根修繕 重要無形民俗文化財「西浦の田楽」が行われる堂宇である西浦所能観音堂と祭礼時の能衆待機場所兼、平時の祭礼道具保管場所となっている幕屋の屋根修繕を行った。天竜区水窪町奥領家の天竜川の支流水窪川の源流である翁川の西岸、観音山の麓の斜面地に立つ両建造物は、長年の風雨風雪などを受け、屋根部分の塗装が剥がれて下地が露出し錆が浮いた状態となっており、劣化進行により雨漏り等で使用に支障をきたす懸念が生じていた。

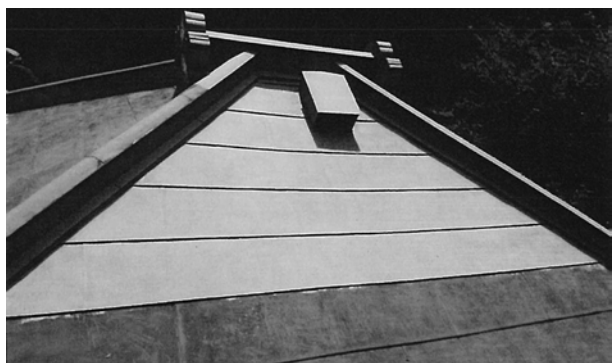
西浦所能観音堂及び幕屋は文化財指定等を受けた建造物ではないが、西浦の田楽を保存・伝承する上で必要不可欠な施設であり芸能において重要な施設であるため、修繕工事は、祭礼について理解のある地元業者へ依頼し、工事管理及び全体の総括は西浦田楽保存会会長を中心とした保存会員で行った。修繕工事は劣化した塗装落としと錆落とし、下地の研磨処理、防錆の下塗りを行い、中塗り、上塗り（2回）を施した。修理後の令和3年2月28日には観音堂での祭礼が滞りなく執り行われた。



修繕前（左 観音堂、右 幕屋）



劣化の様子（塗装が剥がれ露出した下地の錆）



修理の様子（下地の錆落としと下塗り）



修理の様子（下塗りの上に中塗り）



修理後



修理後の観音堂で行われた祭礼の様子

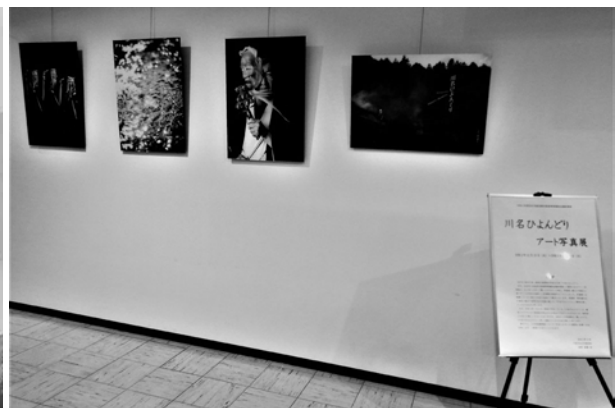
川名ひよんどりアート写真展 令和元年度に川名ひよんどり保存会が作成した「川名ひよんどりアート写真集」を基にした写真展「川名ひよんどりアート写真展」が、令和2年12月15日～令和3年1月24日の期間で浜松市地域遺産センターの1階及び2階ホールを会場に開催された。

写真は、令和元年に「重要無形民俗文化財 川名のひよんどり」が行われる北区引佐町川名の現地で撮影され、撮影は篠山紀信氏に師事した若手写真家・岡本隆史氏が手掛けた。写真展では、川名のひよんどりを継承してきた川名の人々や川名の土地、祭礼、古面の数々を撮影した写真のほか、川名ひよんどりのイメージから写真家独自の視点で撮影したアート写真が展示された。

写真展を通して、困難な時代も乗り越え今日まで継承してきた川名の人たちを表現し、無形民俗文化財の魅力を伝えるとともに、アート写真としての活用による新たな魅力の発信を行った。



川名ひよんどりアート写真展チラシ



1階ホールでのアート写真展示①



1階ホールでのアート写真展示②



2階ロビーでの古面の写真展示



2階ホールでの祭礼の写真展示

4 浜松地域遺産の認定

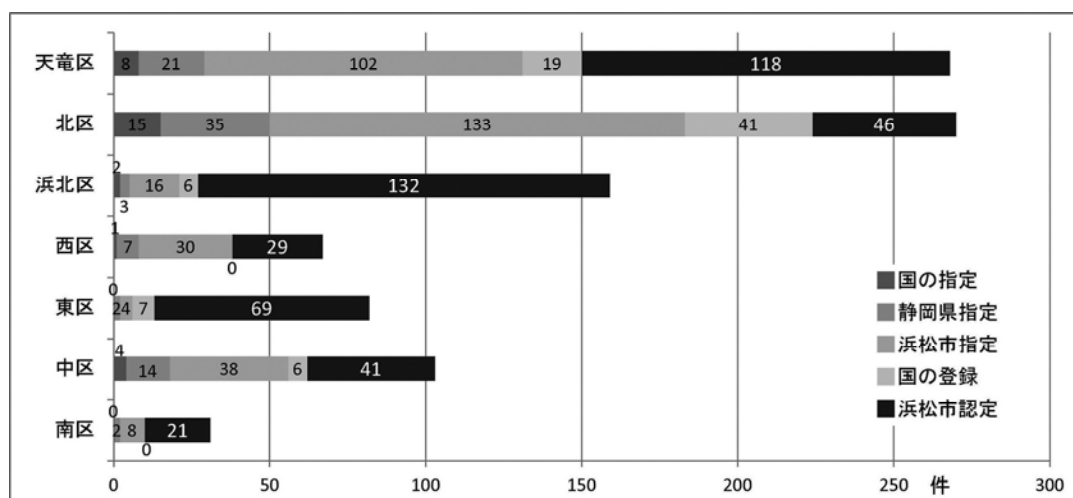
浜松地域遺産認定制度の概要 浜松市は従来の国・静岡県・浜松市の指定文化財、また国の登録文化財という文化財保護制度とは別に、平成 28 年度から、地域とともにゆるやかな保護・活用をはかる制度として「浜松地域遺産」の認定を開始した。毎年度、地域の団体から推薦いただき、その年度中に浜松市教育委員会が認定する。市域全体で見れば指定文化財ほど知られていないとしても、それぞれの地域で長く親しまれ愛護されてきた貴重な歴史文化資源を「地域の宝（地域遺産）」として認定する制度である。指定文化財におけるすべての種別を対象とするが、市独自に近代化遺産や伝承地・伝統的生活文化なども取り上げて、幅広く認定するゆるやかな制度としている。認定を契機に、所有者と地域団体が協力して「わが町の宝」に注目した地域活性化が展開されることを期待している。実際に、地域力向上事業や町独自の公開事業などの実績がある。

令和元年度からは、改正文化財保護法を受けて、浜松市も文化財保存活用地域計画を作成し、令和 3 年 7 月に国の認定を受けた。また歴史的風致維持向上計画の策定も進捗しており、地域遺産の認定は、両計画のための市内の未指定文化財の悉皆調査としても反映されている。これまでに認定した文化財のうちから、将来の新たな指定文化財候補が見出されることは十分にありうる。

浜松地域遺産認定制度の経過 平成 28 年度の 7 月から 10 月まで募集した第 1 期に、91 件を認定した。ついで 29 年度は 101 件、30 年度に 50 件、31 年度に 66 件を認定してきた。

令和 2 年度も 7 月 1 日から 10 月 31 日を募集期間とし、自治会や郷土史研究会を中心に地域の団体からの推薦を受けて、147 件を令和 3 年 2 月 18 日の市教育委員会で報告して新たに認定した。合わせて過年度の認定文化財への構成要素の追加が 2 件あった。制度開始以来 5 年間の総数は、455 件となった。令和 3 年度以降も募集と認定を継続する予定である。

平成 17 年に 12 市町村が合併した浜松市は、政令市施行とともに 7 つの区が成立した。この区別に見れば従来の指定文化財は、市北半にあたる北区と天竜区に集中し、浜北区以南の市南半には比較的少なかった。この傾向は国の登録文化財を含めても顕著であったが、市南部は戦災の影響が大きかったとはいえ、未指定の文化財は数多く埋もれているものと推定された。この 5 年間に認定された文化財の所在先を見ると、浜北区や東区、南区など従来の指定文化財が少なかった地域を含めて積極的な推薦が得られ、各区からいずれも数十件以上が認定されている（第 1 図）。

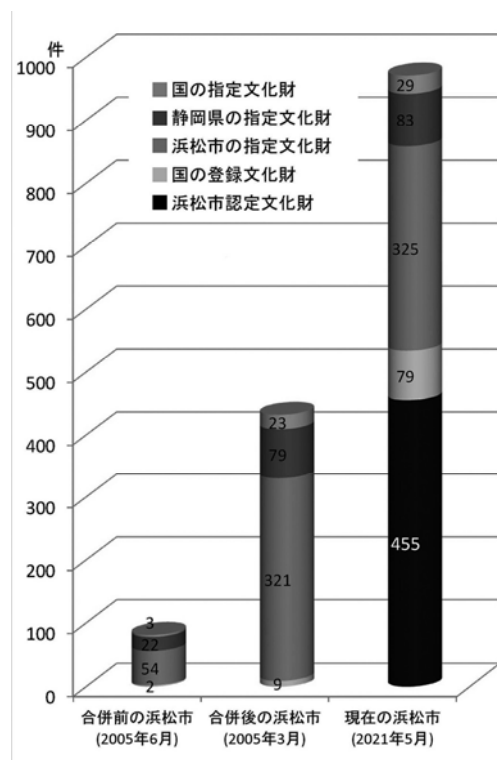


浜松市各区分 指定文化財等件数（令和 3 年 3 月 31 日現在）

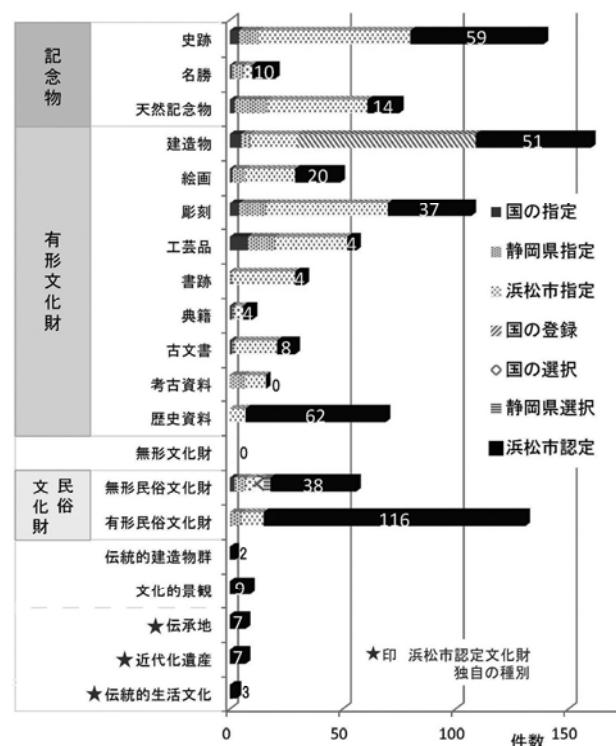
令和2年度の認定文化財の特徴 浜北区の郷土史研究団体（複数）から、地域の道標・秋葉山常夜燈・野仏などをとりまとめた申請があった。調査成果の集大成ともいえるべきものだが、地区ごとに一括して登録し、個別の文化財にそれぞれ認定書を発行することにした。浜北区内では約100件の常夜灯や道標が単年度で認定された。中区の肴町発展会は静岡大学と連携して城下町から続くわが町の歴史と文化を再調査されており、店舗の歴史を示すものなどが申請されてきた。また大安寺の「酉の市（とりのいち）」にも注目されている。天竜区春野町からは、葬送の棺桶を運んだ龕（がん）と呼ばれる用具が各自治会他から同時期に申請されてきた。中区の旧萩の原開拓村と北区の白沼開拓村の区画は、戦後の三方原開拓に入植した集落の景観が、文化的景観として認定された。

今後の課題 認定された地域遺産は、翌年度に浜松市地域遺産センターにて開催される文化財速報展にて概要を紹介してきた。本誌でも報告している。一部は広報紙等に掲載しているが、455件という個々の特色を十分に紹介できるところまで至っていない。種別ごとに見れば、これまで指定文化財としては少なかった歴史資料、有形民俗文化財などでも認定件数が増加し、指定実績のない伝統的建造物群、文化的景観もが少しずつ認定を増やしている。認定文化財独自の種別である近代化遺産や伝承地、伝統的生活文化も認定が得られている。しかしながら、保持者の死去によってしばらく指定件数が0となっている無形文化財は、認定文化財の種別にあってもまだ推薦がない。

浜松市は、合併前の各市町村が指定した文化財をすべて引き継ぎ、当時423件の指定文化財と9件の国の登録文化財が所在する都市となった。それ以降も令和2年度末現在で、国・県・市の指定436件、国の登録79件と文化財を漸増してきた。さらに、認定文化財は制度導入以後の5年間で455件を認定し、ようやく指定文化財の件数に追いついたところである。これまでの事例を参考に、市内の各地域でさらに地域の歴史文化遺産が掘り起こされ、今後も申請が継続されることを期待する。5年間の運用を踏まえ、認定された文化財の検証と必要な再調査への取り組み、また認定文化財の中から次の指定文化財候補の選出なども今後の課題である。



文化財等件数の増加



種別ごとの文化財等件数

令和2年度 浜松地域遺産（浜松市認定文化財）一覧（1）

番	区	町	名称	種別	所有者等	備考
1	中区	肴町	不二丘料理店主屋	建造物	個人	事前連絡
2	中区	肴町	間淵商店主屋	建造物	株間淵商店	非公開
3	中区	肴町	三米商店主屋	建造物	株三米商店	事前連絡
4	中区	肴町	林麴製造所土蔵	建造物	個人	事前連絡
5	西区	舘山寺町	舘山寺町愛宕神社社殿	建造物	愛宕神社	
6	北区	細江町気賀	岩根薬師堂	建造物	岩根振興会	
7	浜北区	平口	平口足立家石蔵	建造物	個人	
8	浜北区	西美蘭	金子家石蔵	建造物	個人	
9	天竜区	横山町	竜川地区忠霊塔	建造物	八幡神社	
10	天竜区	西雲名～小川	雲名秋葉橋	建造物	浜松市	
11	天竜区	春野町領家	領家秋葉橋	建造物	浜松市	
12	天竜区	春野町領家	九里橋	建造物	浜松市	
13	天竜区	春野町堀之内	若身橋	建造物	浜松市	
14	浜北区	内野台一丁目	正壽院絵図	絵画	正壽院	
15	中区	肴町	大安寺阿弥陀如来像	彫刻	大安寺	撮影不可
16	西区	舘山寺町	舘山寺聖観音像	彫刻	舘山寺	
17	浜北区	平口	不動寺今光明経塔	彫刻	不動寺	
18	北区	初生町	兵藤家文書(旧神宮寺村)	古文書	個人	
19	浜北区	内野台一丁目	徳川将軍家朱印状写	古文書	正壽院	
20	東区	薬師町	薬師町八柱神社神社社額 有栖川宮熾仁親王筆 山岡鉄舟筆	書跡	個人	2点
21	北区	細江町気賀	長楽寺扁額(独湛筆) 「光岩山」・「長楽寺」	書跡	長楽寺	2点
22	天竜区	佐久間町浦川	浦川学校扁額(榎本武揚筆)	書跡	浦川小学校	
23	中区	肴町	不二丘料理店関係資料	歴史資料	個人	貸出不可
24	中区	肴町	天ぶらの榊形関係資料	歴史資料	浜松榊形	事前連絡
25	中区	肴町	松作商店関係資料	歴史資料	個人	事前連絡
26	中区	肴町	林麴製造所関係資料	歴史資料	個人	事前連絡
27	中区	肴町	伊東商店関係資料	歴史資料	個人	事前相談
28	中区	肴町	弁いち関係資料	歴史資料	個人	貸出不可
29	西区	雄踏町宇布見	賀茂頼音墓碑	歴史資料	神道会	
30	南区	青屋町	御嶽大神碑	歴史資料	個人	
31	南区	堤町	堤村地券下図	歴史資料	個人	
32	北区	三ヶ日町	内山牛松関係資料	歴史資料	個人	
33	北区	三ヶ日町	日野屋関係資料	歴史資料	個人	
34	浜北区	内野台一丁目	八王子千人数の墓碑	歴史資料	正壽院	
35	浜北区	平口姥ヶ谷	姥ヶ谷の半僧坊里程石	歴史資料	個人	
36	浜北区	平口姥ヶ谷	姥ヶ谷の道標	歴史資料	(公開不可)	非公開
37	浜北区	平口姥ヶ谷	姥ヶ谷植林記念碑	歴史資料	個人	
38	浜北区	平口	平口の道標群	歴史資料	個人	1件認定
39	浜北区	北浜地区	北浜の道標群 西美蘭中の道標 西美蘭中の道標 西美蘭中の道標 西美蘭中の道標 西美蘭中の道標 西美蘭中の道標 貴布祢4区の道標 上小林の道標 東美蘭の道標 貴布祢1区の道標 下小林の道標 上小林の道標 上小林の道標 上小林の道標 西美蘭上の道標 西美蘭上の道標 西美蘭上の道標 西美蘭大上の道標 永島の道標 善地の道標 善地の道標 永島の道標	歴史資料	(各地一括)	21件認定
40	浜北区	中瀬	中瀬畜産祭り関係資料	歴史資料	中瀬郷土史の会	
41	浜北区	中瀬	第1回全日本豚共進会記念碑	歴史資料	個人	
42	浜北区	中瀬	中瀬大平の道標	歴史資料	中瀬3区自治会	
43	浜北区	根堅	根堅の道標群 岩水寺里程標 於呂神社のぼんじぎ	歴史資料	(各地一括)	9件認定

令和2年度 浜松地域遺産（浜松市認定文化財）一覧（2）

番	区	町	名称	種別	所有者等	備考
			秋葉街道道標			
			岩水寺道標			
			御大典記念道標			
			岩水寺道標			
			半僧坊道標			
			雲岩寺西の道標			
			雲岩寺東の道標			
44	浜北区	根堅	山下青厓記徳碑	歴史資料	岩水寺	
45	浜北区	宮口	宮口の道標群	歴史資料	(各地一括)	2件認定
			本通の道標			
			野口の辻			
46	浜北区	東美蘭	東美蘭の道標	歴史資料	個人	
47	天竜区	二俣町	二俣諏訪神社祭典記録	歴史資料	浜松市	閲覧不可
48	天竜区	二俣町	清瀧寺寺領絵図	歴史資料	個人	公開不可
49	天竜区	春野町堀之内	高札(五榜の掲示第五札)	歴史資料	個人	
50	西区	舞阪町舞阪	岐佐神社の赤猪石(あかいし)	有形民俗	(宗)岐佐神社	
51	浜北区	内野	真光寺の鳥樞沙摩明王像	有形民俗	真光寺	
52	浜北区	内野	真光寺の地藏菩薩像	有形民俗	真光寺	
53	浜北区	内野	内野小島の如意輪観音像	有形民俗	内野小島町内会	
54	浜北区	内野	福王寺の北向観音堂	有形民俗	福応寺	
55	浜北区	内野	内野小島の三十三観音像	有形民俗	内野小島町内会	
56	浜北区	内野	内野小島の阿弥陀如来像	有形民俗	内野小島町内会	
57	浜北区	内野台一丁目	正壽院の一字一石塔	有形民俗	正壽院	
58	浜北区	平口	平口新田の地藏菩薩像	有形民俗	平口新田自治会	
59	浜北区	平口	徳生寺の地藏菩薩像	有形民俗	徳生寺	
60	浜北区	平口	西福寺の弁財天像	有形民俗	西福寺	
61	浜北区	平口	不動寺の松尾芭蕉句碑	有形民俗	不動寺	
62	浜北区	平口	平口新田の観音堂及び六地藏堂	有形民俗	平口新田自治会	
63	浜北区	平口	平口の馬頭観音像	有形民俗	(各地一括)	2件認定
			平口法師軒の馬頭観音			
			平口本村の馬頭観音			
64	浜北区	平口	平口新田の秋葉山常夜灯	有形民俗	平口新田自治会	
65	浜北区	寺島	大伝寺の弘法大師像	有形民俗	大伝寺	
66	浜北区	北浜地区	北浜の秋葉山常夜灯群	有形民俗	(各地一括)	36件認定
			上善地の常夜灯			
			永島長野神社の常夜灯			
			永島の常夜灯			
			高蘭の常夜灯			
			高蘭竜南の常夜灯			
			高蘭竜南の常夜灯			
			高蘭竜南の常夜灯			
			善地の龍灯			
			貴布祢1区の常夜灯			
			貴布祢2区の常夜灯			
			貴布祢4区の常夜灯			
			貴布祢5区の常夜灯			
			貴布祢6区の常夜灯			
			貴布祢7区の常夜灯			
			沼の龍灯			
			道本の常夜灯			
			小林上の常夜灯			
			小林下の常夜灯			
			本沢合南の常夜灯			
			油一色の常夜灯			
			東美蘭の常夜灯			
			横須賀の常夜灯			
			横須賀上の常夜灯			
			西美蘭大上の常夜灯			
			西美蘭上の常夜灯			
			西美蘭中の常夜灯			
			西美蘭中の常夜灯			
			西美蘭下の常夜灯			
			中条東の常夜灯			
			中条西の常夜灯			
			中条北の常夜灯			
			中条北の常夜灯			
			高畑東の常夜灯			
			高畑西の常夜灯			
			高畑西の常夜灯			
			高蘭竜南の常夜灯			
67	浜北区	北浜地区	北浜の馬頭観音像群	有形民俗	(各地一括)	10件認定

令和2年度 浜松地域遺産（浜松市認定文化財）一覧（3）

番	区	町	名称	種別	所有者等	備考
			善地の馬頭観音			
			中条の馬頭観音			
			横須賀東の馬頭観音			
			横須賀上の馬頭観音			
			高畑東の馬頭観音			
			西美蘭中の馬頭観音			
			西美蘭大上の馬頭観音			
			東美蘭の馬頭観音			
			本沢合東の馬頭観音			
			本沢合東の馬頭観音			
68	浜北区	中条	中条の山の神像	有形民俗	個人	
69	浜北区	上島	上島の秋葉山常夜灯	有形民俗	上島自治会	2件認定
			上島の常夜灯			
			中川の常夜灯			
70	浜北区	中瀬	中瀬の秋葉山常夜灯群	有形民俗	(各地一括)	10件認定
			大野の常夜灯			
			弁当野の常夜灯			
			揚見の常夜灯			
			天神野の常夜灯			
			中瀬東組の常夜灯			
			中瀬清水の常夜灯			
			中瀬南の常夜灯			
			中瀬中通北の常夜灯			
			若宮の常夜灯			
			西中瀬の常夜灯			
71	浜北区	中瀬	中瀬の石仏	有形民俗	個人	
72	浜北区	中瀬	中瀬の弘法大師像	有形民俗	個人	
73	浜北区	四塔	四塔の観音堂及び道標	有形民俗	個人	
74	浜北区	中瀬	中瀬の馬頭観音像	有形民俗	個人	
75	浜北区	中瀬	中瀬の延命地藏像	有形民俗	個人	
76	浜北区	中瀬	中瀬の観音菩薩像	有形民俗	個人	
77	浜北区	中瀬	中瀬の地藏菩薩像	有形民俗	個人	
78	浜北区	於呂	於呂のごうりん様	有形民俗	赤佐4区自治会	
79	浜北区	赤佐地区	赤佐の秋葉山常夜灯群	有形民俗	(各地一括)	8件認定
			赤佐4区の常夜灯			
			赤佐6区の常夜灯			
			山住神社境内の常夜灯			
			木製常夜灯			
			雲岩寺の龍灯			
			尾野上町の常夜灯			
			本村、新田の常夜灯			
			東原、新屋の常夜灯			
80	浜北区	根堅	根堅の馬頭観音像	有形民俗	個人	
81	浜北区	根堅	根堅の双体道祖神像	有形民俗	岩水寺	
82	浜北区	根堅	根堅の耳足地藏像	有形民俗	六所神社	
83	浜北区	根堅	根堅の大原御前祠	有形民俗	個人	
84	浜北区	根堅	岩水寺の松島十湖句碑	有形民俗	岩水寺	
85	浜北区	根堅	岩水寺の賀茂真淵歌碑	有形民俗	岩水寺	
86	浜北区	根堅	岩水寺の松尾芭蕉句碑	有形民俗	岩水寺	
87	浜北区	尾野	尾野の馬頭観音像	有形民俗	尾野の昔を語る会	
88	浜北区	尾野	養徳寺地藏堂の石仏	有形民俗	養徳寺	
89	浜北区	宮口	宮口の馬頭観音像	有形民俗	個人	
90	浜北区	宮口	宮口の秋葉山常夜灯群	有形民俗	(各地一括)	8件認定
			大屋敷7班の常夜灯			
			土取の金属製常夜灯			
			大屋敷5班の金属製常夜灯			
			大屋敷3班の常夜灯			
			庚申寺の鞘堂			
			陽泰院の鞘堂			
			井泉組の鞘堂			
			野口の辻の鞘堂			
91	浜北区	宮口	藤村観音堂の石仏	有形民俗	個人	
92	浜北区	堀谷	堀谷洞窟の不動明王像	有形民俗	堀谷町内会	
93	浜北区	堀谷	堀谷の秋葉山常夜灯	有形民俗	堀谷町内会	2件認定
			東谷の常夜灯			
			堀谷の常夜灯			
94	浜北区	堀谷	堀谷の馬頭観音像	有形民俗	堀谷町内会	2件認定
			心石の馬頭観音			
			半沢の馬頭観音			
95	浜北区	西美蘭大上	西美蘭の延命地藏像	有形民俗	西美蘭大上自治会	
96	浜北区	西美蘭大上	西美蘭の常盤稲荷堂	有形民俗	西美蘭大上自治会	

令和2年度 浜松地域遺産（浜松市認定文化財）一覧（4）

番	区	町	名称	種別	所有者等	備考
97	浜北区	東美蘭	東美蘭の不動堂	有形民俗	個人	
98	浜北区	竜南	竜南の地藏菩薩像	有形民俗	個人	
99	浜北区	八幡	八幡庚申堂の石仏	有形民俗	個人	
100	浜北区	上善地	上善地の青面金剛童子像	有形民俗	上善地自治会	
101	天竜区	春野町堀之内	行者山の役行者像	有形民俗	犬居自治会	
102	天竜区	春野町堀之内	瑞雲院の龕(がん)	有形民俗	(宗)瑞雲院	事前連絡
103	天竜区	春野町堀之内	静修地区の龕(がん)	有形民俗	意昌庵	
104	天竜区	春野町	和泉平地区の龕(がん)	有形民俗	和泉平自治会	
105	天竜区	春野町	筏戸大上地区の龕(がん)	有形民俗	筏戸組	
106	天竜区	春野町花島	花島地区の龕(がん)	有形民俗	個人	
107	天竜区	春野町宮川	宮川里原地区の龕(がん)	有形民俗	個人	
108	天竜区	春野町豊岡	春野町豊岡篠原地区の龕(がん)	有形民俗	春野町篠原自治会	
109	天竜区	春野町豊岡	春野町豊岡野尻地区の龕(がん)	有形民俗	春野町野尻自治会	
110	中区	肴町	大安寺の酉の市	無形民俗	大安寺	
111	西区	舞阪町舞阪	宝珠院の海苔供養祭	無形民俗	宝珠院	
112	北区	引佐町井伊谷	井伊谷二宮神社の先囃子	無形民俗	二宮神社	
113	天竜区	佐久間町大井	和泉及び鮎釣の神楽	無形民俗	和泉・鮎釣神楽保存会	
114	西区	館山寺町	弘法穴古墳	史跡	館山寺	
115	南区	青屋町	水晶六所神社境内	史跡	六所神社	
116	浜北区	平口	平口不動寺境内	史跡	不動寺	
117	浜北区	平口	平口八幡神社境内	史跡	平口八幡神社	
118	浜北区	中瀬	中瀬ドンボ跡「愛さのドンボ跡」	史跡	個人	
119	浜北区	於呂	於呂柳神社境内	史跡	個人	
120	浜北区	於呂	於呂八幡神社境内	史跡	赤佐1区自治会	
121	浜北区	根堅	人形山3号墳	史跡	個人	事前連絡
122	浜北区	根堅	將軍塚古墳	史跡	岩水寺	
123	浜北区	根堅	岩水寺八幡神社境内	史跡	岩水寺	
124	浜北区	尾野	高根山古墳	史跡	個人	
125	浜北区	堀谷	堀谷六所神社境内	史跡	堀谷町内会	
126	浜北区	堀谷	堀谷荒鍾(あらはばき)神社境内	史跡	堀谷町内会	
127	浜北区	堀谷	堀谷清水井戸跡	史跡	堀谷町内会	
128	浜北区	根堅	座禅岩	名勝	龍泉寺	
129	浜北区	根堅	上臈岩及び御座岩	名勝	静岡県	立入禁止
130	天竜区	春野町豊岡	明神峽	名勝		
131	浜北区	根堅	岩水寺鍾乳洞	天然記念物	岩水寺	立入禁止
132	浜北区	根堅	根堅鍾乳洞	天然記念物	岩水寺	立入禁止
133	天竜区	春野町堀之内	堀之内静修のヤマザクラ	天然記念物	浜松市	
134	天竜区	春野町堀之内	意昌庵のヤマザクラ	天然記念物	意昌庵	
135	天竜区	春野町堀之内	意昌庵のサルスベリ	天然記念物	意昌庵	
136	天竜区	春野町	大時のシダレザクラ	天然記念物	個人	
137	天竜区	龍山町大嶺	白倉諏訪神社のエドヒガンザクラ	天然記念物	白倉諏訪神社	
138	天竜区	龍山町大嶺	龍山町平沢のヤマザクラ	天然記念物	浜松市	
139	天竜区	佐久間町浦川	浦川小学校のシラカシ	天然記念物	浦川小学校	
140	浜北区	根堅	根堅石灰窯跡	近代化遺産	個人	
141	天竜区	春野町豊岡	旧気田森林鉄道小石間トンネル	近代化遺産	浜松市	
142	中区	葵西六丁目	旧萩の原開拓村の区画	文化的景観	葵西自治会	
143	天竜区	只来	只来の集落景観	文化的景観	—	
144	北区	都田町	白昭開拓村の区画	文化的景観	白昭自治会	
145	北区	三ヶ日町	才の神宿場の景観	文化的景観	—	
146	天竜区	二俣町	二俣の小路(しょうな)景観	文化的景観	—	
147	中区	肴町	山口屋寿司店のかまど炊き	伝統的生活	個人	店外見学

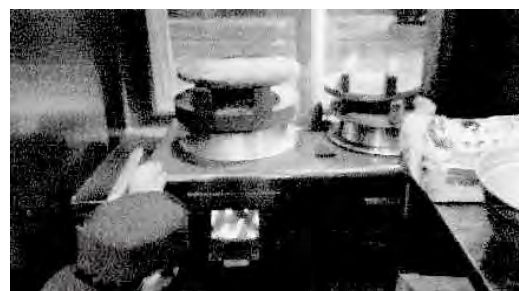
種別の略称 有形民俗：有形民俗文化財 無形民俗：無形民俗文化財 伝統的生活：伝統的生活文化

令和元年度認定分に追加

1	東区	有玉北町	近世近代浜松関係資料	歴史資料	個人	追加10点
2	浜北区	中瀬	袖ヶ浦三十三観音霊場	有形民俗	個人	四番霊場



144 白昭開拓村の区画



147 山口屋寿司店のかまど炊き

第3章 浜松市地域遺産センター年報

1 施設の概要

(1) 施設の概要

地域遺産センターは、埋蔵文化財の調査や整理事業を行うほか、歴史・文化的な資料の保管、文化財全般の普及啓発、情報発信などを担う文化財保護の拠点施設である。市施設の再編によって空きが生じることとなった3階建て建物の1・2階を改修して平成29年1月に開館しており、市文化財課の職員が常駐している。

また、施設の所在する北区引佐町井伊谷は歴史豊かな地域であり、周辺に残る三岳城跡（国史跡）、龍潭寺庭園（国名勝）、遠江のひよんどりとおくない（国重要無形民俗文化財）、滑伊神社境内遺跡（県史跡）、井伊谷城跡（市史跡）など豊富な文化財のサイトミュージアム的な役割も担っている。

(2) 施設の構造・設備

構 造 本体：鉄筋コンクリート造 地上3階建

トラックヤード棟：鉄骨造 平屋建

面 積 建築面積 1,239.91 m²、延床面積 3,115.71 m²

収蔵庫 24時間の温湿度管理を行っている。

トラックヤード・荷捌場 4tトラックが入庫可能。

展示室 各種資料の展示を行う。開館時間中の温湿度管理を行うことができる。

ガイダンスコーナー 大型スクリーンを備え、映像の放映、講座、展示等多目的な事業を行うことができる。

エントランスホール 顔出しボード、飲料自動販売機、コインロッカー、アンケートコーナー等を備え、展示や体験のスペースにも利用される。

ロビー 休憩スペース、案内カウンター、ショップ、大河ドラマメモリアルコーナー、チラシ等を配架した情報コーナー等を備え、展示や体験のスペースにも利用される。（※キッズコーナー、VRコーナー、図書閲覧コーナーは新型コロナウイルス感染防止の観点から、令和4年3月現在休止中）

事務室・作業室 職員が常駐して施設運営業務と埋蔵文化財保護業務を行う。

駐車場 64台（隣接する引佐協働センターと共用）

エレベーター 1基

便 所 3箇所（うち1箇所多目的トイレ）

授乳室 おむつ交換台、給湯可能な洗面台を備える。



施設外観



展示室



ガイダンスコーナー

2 管理運営業務

(1) 運営体制

浜松市地域遺産センターの運営は、文化財課職員が埋蔵文化財業務を行いながら直営で実施した。展示公開エリアの案内・販売・日常清掃等は（公社）浜松市シルバー人材センターへ委託し、設備保守管理等は民間業者へ委託した。また、館内外の案内はボランティアガイドにご協力いただいた。



受付スタッフとボランティアガイド

(2) 開館日時・観覧料等

開館時間 午前9時から午後5時（最終入館午後4時30分）

休館日 毎週月曜日（祝日の場合翌平日）、年末年始、展示更新・設備点検に伴う臨時休館

観覧料 無料。ただし、体験事業等で材料を必要とする場合には参加料を徴収

(3) 建物・設備の保全

当施設は竣工から35年以上が経過した建物を改修しているため、各所に老朽化が目立っている。建物の長寿命化を図る対策の一つとして、給水設備改修工事を行った。

(4) 図書やグッズの販売

2階の受付カウンター付近に販売コーナーを設け、文化財課で制作した刊行物のほか、旧引佐町において発行された刊行物、浜松市博物館の図録など図書を販売した。また、浜松の伝統産業である綿織物製品や注染染めの手ぬぐい、歴史関連の文具や雑貨などもあわせて販売した。

3 埋蔵文化財保護業務

2階の事務室・作業室にて埋蔵文化財の調整・調査・整理作業等の業務を行った。（詳細は第1部第1章6及び第2部を参照）

4 公開普及業務

(1) 展示

常設展「戦国の井伊谷」

展示室にて、戦国時代を中心とした中世の井伊氏や井伊谷にかかわる展示を継続して行った。ジオラマへのプロジェクションマッピングと音声で解説する「井伊谷戦国絵巻」や、中世の井伊谷の遺跡出土品、井伊氏ゆかりの笛のレプリカなどを展示している。また、井伊谷へ史跡見学等に訪れる方のガイダンス機能も果たしている。

企画展「はままつ文化財速報展 2020」（6月6日～8月28日・ガイダンスコーナー）

浜松市内で行われた文化財保護の取り組みの成果や出来事を紹介するため開催した。新指定・登

録文化財の概要、文化財の修理事業や保存伝承事業の取り組みの紹介、市認定文化財「浜松地域遺産」に認定された文化財の紹介のほか、同時開催「浜松市発掘調査速報展」では、別所前遺跡（東区市野町）、上新屋遺跡（東区上新屋町）、城山遺跡（中区南伊場町）、梶子遺跡（中区西伊場町）、浜松城跡（中区元城町）などの出土遺物を展示した。期間中の観覧者は1,401人であった。

その他の展示

中・小規模なコーナー展示をガイダンスコーナーやロビーなどで開催したほか、市内の図書館やなど外部での出張展示も行った（一部再掲）。



速報展会場の様子

会 期	名 称	概 要	来場者数
8月1日～23日	「記念物100年と浜松」	記念物保護制度100年記念事業	1,401人
8月4日～	「引佐の文化財」(静岡銀行引佐支店)	地域の文化財をパネルで紹介	未計測
12月15日～1月24日	「川名ひよんどり アート写真展」	川名のひよんどの写真を展示	381人
1月8日～31日	「ズームイン！文化財」(引佐図書館)	浜松の文化財をパネルで紹介	未計測
1月30日～2月28日	「こどもたちの郷土学習」	小中学生による郷土学習成果の展示	414人
2月5日～28日	「ズームイン！文化財」(細江図書館)	浜松の文化財をパネルで紹介	未計測
3月5日～28日	「ズームイン！文化財」(三ヶ日図書館)	浜松の文化財をパネルで紹介	未計測

(2) 講 座

地域遺産センターは講座室を有していないため、隣接する引佐協働センター等を利用して開催したほか、依頼に応じて外部へ講師を派遣した。詳細は第1章6を参照いただきたい。

(3) 現地見学会

幅広い年代層に各種の文化財等をわかりやすく紹介するために、見学会「へりさんぽ ～ Heritage Walk～」を企画したが、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。

(4) 体験事業・その他イベント

夏休みに「いいのや夏の陣を」開催し、こども向けのクラフト体験や謎解き探検、発掘や整理作業の模擬体験などを実施した。実施状況は第1章6や本項(1)を参照いただきたい。



てぬぐいづくり体験

(5) 情報発信

チラシ・広報紙等の紙媒体 年2回発行するイベントカレンダーや各事業のポスター・チラシを、市内外の公共施設や学校、民間施設等に配布した。また、「広報はままつ」で事業の周知を図った。

インターネット 市ホームページ、フェイスブック、ツイッターを活用したほか、外部のウェブサイトにも施設やイベント等の情報の掲載を依頼した。

マスメディア等への対応 以下の通りラジオ等マスメディアの取材を受けた。また、事業の開催情報の周知について依頼し、新聞、雑誌等で取り上げられた。

時 期	メディア	概 要
6 月 10 日	K-Mix (FM ラジオ)	企画展「はままつ文化財速報展 2020」の紹介
6 月 19 日	浜松ケーブルテレビ	企画展「はままつ文化財速報展 2020」の紹介
7 月 31 日	SBS ラジオ (AM ラジオ)	夏の体験学習「井伊谷夏の陣」の紹介
1 月 21 日	K-Mix (FM ラジオ)	コーナー展示「こどもたちの郷土学習」の紹介
2 月 2 日	浜松ケーブルテレビ	コーナー展示「こどもたちの郷土学習」の紹介

5 利用状況

(1) 入館者数と傾向

令和2年度の入館者数は前年比4割弱の減となった。新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛等の影響を強く受けたものとみられる。引き続き感染症対策に留意しつつ、来館者増加に繋げるための事業展開が求められる。

	令和2年度		令和元年度		前年比	
	入館者 (人)	人/日	入館者 (人)	人/日	入館者 (人)	比率 (人/日)
計	4,229	16	7,339	26	-3,110	62%
累計	123,258					

(2) 団体利用

学校をはじめ団体等の利用に際して、説明などの対応を行った。

月 日	団体利用者名・人数	月 日	団体利用者名・人数
5 月 26 日	井伊谷小学校 59 人	11 月 10 日	新津小学校 43 人
10 月 16 日	井伊谷小学校 3 人	11 月 19 日	井伊谷小学校 60 人
10 月 20 日	郷土の歴史を学ぶ 20 人	12 月 4 日	湖東中学校 71 人

(3) 資料・画像等の提供・資料熟覧対応

資料熟覧や資料撮影への対応などを行った。

対応日	種 別	申請者	内 容
8 月 6 日	資料熟覧・撮影	個人	刊行物掲載のため、富岡古墳群出土鉄器の熟覧と写真撮影
10 月 20 日	資料熟覧	個人	調査研究のため、蜷塚遺跡発掘調査報告書の熟覧
12 月 16 日	資料熟覧	出版社	調査研究のため、浜松における中世城館の調査成果を熟覧

6 今後の課題

(1) 施設の管理

本センターは、建設から35年以上経過した建物を改修して再活用しているため、各所で老朽化が進行している。今後は不具合箇所の緊急性や優先度を考慮した修繕計画を策定し実施していく必要がある。また、未改修である3階部分の活用による、資料保管場所やボランティア等市民協働の活動場所の確保や、開館当初の大河ドラマ仕様の展示設備の更新による文化財展示スペースの拡充などが図れるように、館内の改修・更新を検討していく必要がある。

(2) 事業の運営

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、ハンズオン展示等の休止や、講座の中止など、事業への影響が生じている。今後は、オンラインでの情報提供の拡充や、少人数で実施可能な事業の開催など、感染拡大に配慮しながら文化財の魅力が届けられるような運営の工夫が求められる。

第2部 埋蔵文化財調査報告

第1章 埋蔵文化財調査の概要

浜松市では、令和2年度に本発掘調査をはじめとした、埋蔵文化財発掘調査に係る事業を実施した。各事業における実施件数は、以下のとおりである。

(1) 埋蔵文化財本発掘調査事業

開発に伴う事前の発掘調査 17件（内訳は次のとおり）

- ・民間委託による本発掘調査 4件 浜松城跡 34次（中区紺屋町、元城町）ほか
- ・市の直営による本発掘調査 13件 中屋遺跡 15次（浜北区根堅）ほか

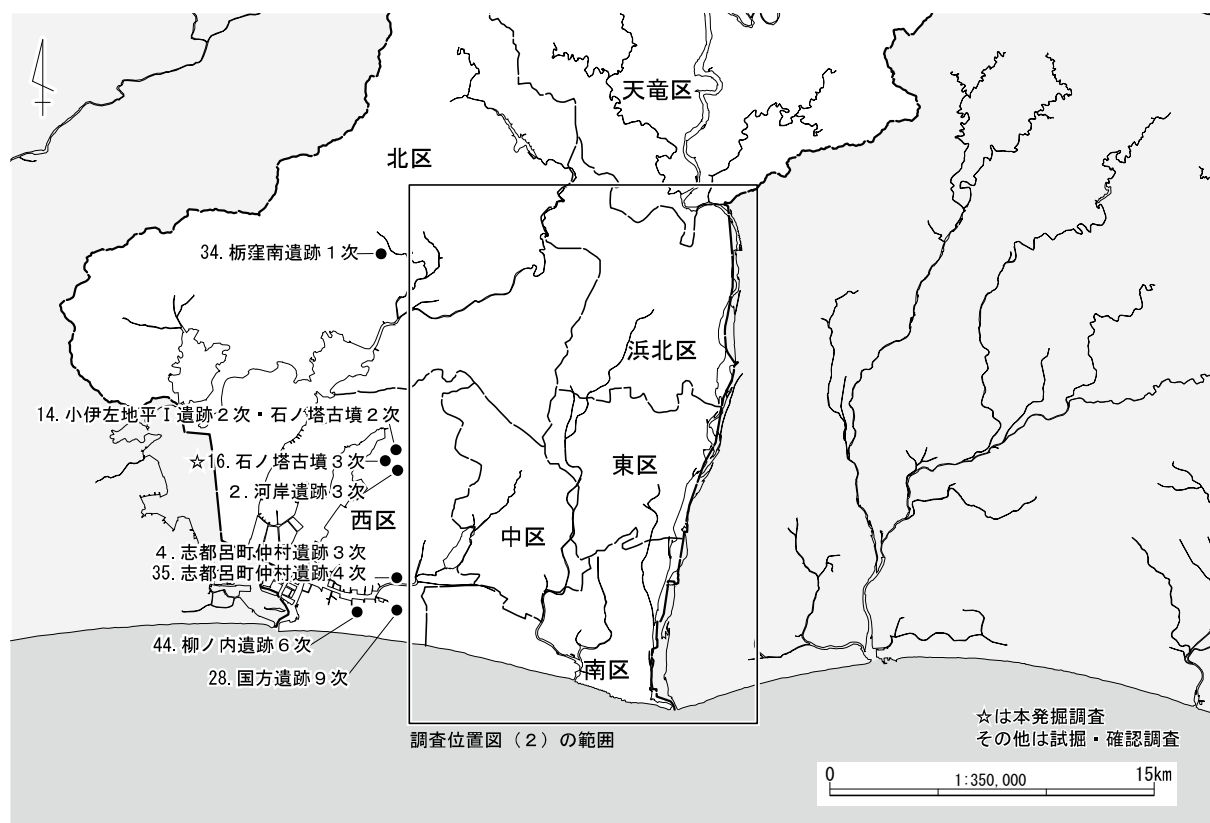
(2) 埋蔵文化財試掘・確認調査、工事立会等調査事業

①調査 45件（内訳は次のとおり）

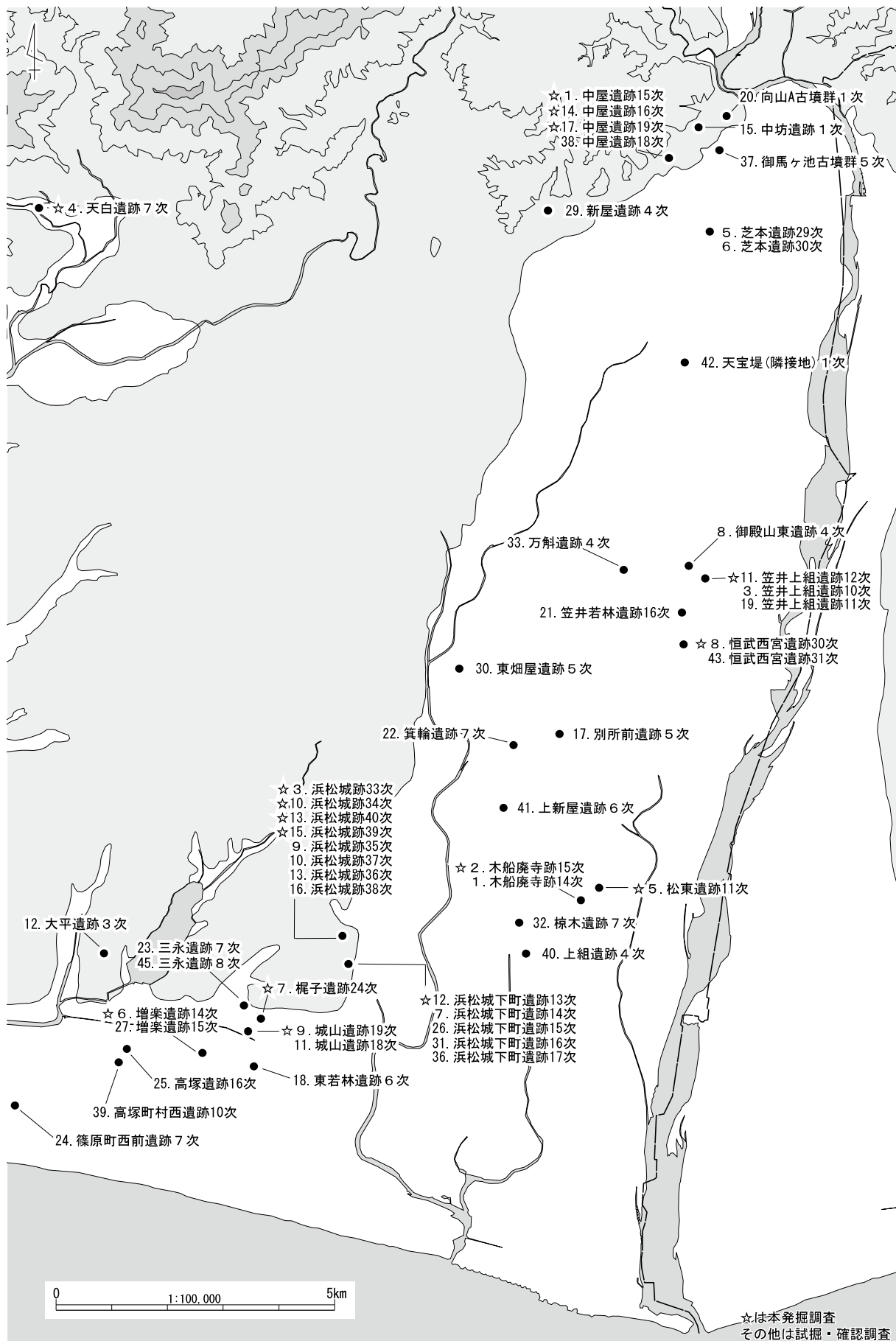
- ・開発に伴う試掘確認調査 44件 木船廃寺跡 14次（東区和田町）ほか
- ・保存目的の確認調査 1件 浜松城跡 35次（中区元城町）ほか

②開発に伴う工事立会い 100件 将監名遺跡（東区将監町）ほか

③踏査 2件 内山貝塚（西区庄内町）ほか



調査位置図(1)



調査位置図 (2)

令和2年度本発掘調査一覧

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 月 日	調 査 原 因	区 分	調査面積 (約㎡)	掲載頁
1	中屋遺跡 15 次	浜北区根堅	2020年4月6日～10日	個人住宅建設	現地作業	88	55
2	木船廃寺跡 15 次	東区和田町	2020年4月7日	個人住宅建設	現地作業	8	55
3	浜松城跡 33 次	中区元城町、紺屋町	2020年4月16日～5月1日	集合住宅建設	現地作業	200	56
4	天白遺跡 7 次	北区引佐町井伊谷	2020年4月21日～24日	個人住宅建設	現地作業	69	56
5	松東遺跡 11 次	東区天龍川町	2020年5月11日～22日	道路改良	現地作業	105	57
6	増楽遺跡 14 次	南区増楽町	2020年5月11日～13日	個人住宅建設	現地作業	71	57
7	梶子遺跡 24 次	中区南伊場町	2020年5月12日～27日	工場設備増設	現地作業	102	58
8	恒武西宮遺跡 30 次	東区恒武町	2020年6月9日、10日、7月28日	店舗建設	現地作業	33	58
9	城山遺跡 19 次	中区南伊場町、南区若林町	2020年6月10日、12日	寄宿舎建設	現地作業	6	59
10	浜松城跡 34 次	中区紺屋町、元城町	2020年6月15日～8月26日	集合住宅建設	現地作業	389	60
11	笠井上組遺跡 12 次	東区笠井上町	2020年8月4日～31日	集合住宅建設	現地作業	187	60
12	浜松城下町遺跡 13 次	中区八幡町	2020年8月17日～10月26日	道路改良	現地作業	450	61
13	浜松城跡 40 次	中区元目町	2020年9月1日～23日	集合住宅建設	現地作業	248	61
14	中屋遺跡 16 次	浜北区根堅	2020年10月8日	個人住宅建設	現地作業	32	62
15	浜松城跡 39 次	中区元城町	2020年11月24日～12月4日	社屋建設	現地作業	110	62
16	石ノ塔古墳 3 次	西区伊左地町	2020年11月25日～2021年3月26日	土砂採取	現地作業	942	63
17	中屋遺跡 19 次	浜北区根堅	2021年3月3日	個人住宅建設	現地作業	16	63



石ノ塔古墳3次 作業状況



笠井上組遺跡12次 作業状況



浜松城下町遺跡13次 作業状況



浜松城跡33次 作業状況

令和2年度試掘・確認調査一覧

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 月 日	調 査 原 因	区 分	調査面積 (約㎡)	掲載頁
1	木船庵寺跡 14 次	東区和田町	2020 年 4 月 6 日	個人住宅建設	現地作業	22	64
2	河岸遺跡 3 次	西区伊左地町	2020 年 4 月 16 日	水道管改修	現地作業	7	64
3	笠井上組遺跡 10 次	東区笠井上町	2020 年 4 月 23 日	個人住宅建設	現地作業	4	65
4	志都呂町中村遺跡 3 次	西区志都呂町	2020 年 4 月 27 日	宅地分譲	現地作業	36	65
5	芝本遺跡 29 次	浜北区於呂	2020 年 5 月 11 日、12 日	集合住宅建設	現地作業	60	67
6	芝本遺跡 30 次	浜北区於呂	2020 年 5 月 21 日	個人住宅建設	現地作業	9	68
7	浜松城下町遺跡 14 次	中区鹿谷町	2020 年 5 月 25 日	個人住宅建設	現地作業	16	69
8	御殿山東遺跡 4 次	東区笠井上町	2020 年 6 月 1 日	個人住宅建設	現地作業	8	69
9	浜松城跡 35 次	中区元城町	2020 年 6 月 1 日～2021 年 3 月 18 日	内容確認	現地作業	1,500	70
10	浜松城跡 37 次	中区元城町	2020 年 6 月 2 日、3 日	宿泊施設建設	現地作業	78	70
11	城山遺跡 18 次	中区南伊場町	2020 年 6 月 9 日、10 日、12 日	寄宿舎建設	現地作業	20	72
12	大平遺跡 3 次	西区入野町	2020 年 6 月 15 日	宅地造成	現地作業	16	72
13	浜松城跡 36 次	中区元城町	2020 年 6 月 15 日	社屋建設	現地作業	29	73
14	小伊左地平 I 遺跡 2 次 / 石ノ塔古墳 2 次	西区伊左地町	2020 年 6 月 17 日	土砂採取	現地作業	45	75
15	中坊遺跡 1 次	浜北区根堅	2020 年 6 月 23 日	浄化槽設置	現地作業	3	76
16	浜松城跡 38 次	中区松城町	2020 年 6 月 23 日、24 日	遺跡残存状況確認	現地作業	35	76
17	別所前遺跡 5 次	東区市野町	2020 年 7 月 15 日、16 日	水道管理設	現地作業	16	78
18	東若林遺跡 6 次	南区若林町	2020 年 7 月 20 日	個人住宅建設	現地作業	5	78
19	笠井上組遺跡 11 次	東区笠井上町	2020 年 7 月 28 日	集合住宅建設	現地作業	34	79
20	向山 A 古墳群 1 次	浜北区於呂	2020 年 9 月 1 日	個人住宅建設	現地作業	9	79
21	笠井若林遺跡 16 次	東区笠井町	2020 年 9 月 24 日	宅地分譲	現地作業	16	80
22	箕輪遺跡 7 次	東区小池町	2020 年 9 月 29 日、30 日	水道管埋設	現地作業	16	80
23	三永遺跡 7 次	中区西伊場町	2020 年 9 月 30 日	個人住宅建設	現地作業	8	81
24	篠原町西前遺跡 7 次	西区篠原町	2020 年 9 月 30 日	個人住宅建設	現地作業	4	81
25	高塚遺跡 16 次	南区高塚町	2020 年 10 月 7 日～2021 年 2 月 4 日	土地区画整理	現地作業	54	82
26	浜松城下町遺跡 15 次	中区三組町	2020 年 10 月 9 日	店舗建設	現地作業	11	84
27	増楽遺跡 15 次	南区増楽町	2020 年 10 月 20 日	個人住宅建設	現地作業	13	85
28	国方遺跡 9 次	西区篠原町	2020 年 10 月 27 日	宅地分譲	現地作業	9	85
29	新屋遺跡 4 次	浜北区宮口	2020 年 10 月 28 日	宅地分譲	現地作業	24	86
30	東畑屋遺跡 5 次	東区有玉南町	2020 年 11 月 9 日～11 日	側溝敷設	現地作業	32	87
31	浜松城下町遺跡 16 次	中区鹿谷町	2020 年 11 月 24 日	個人住宅建設	現地作業	10	87
32	椋木遺跡 7 次	東区子安町	2020 年 12 月 7 日	個人住宅建設	現地作業	8	88
33	万斛遺跡 4 次	東区中郡町	2020 年 12 月 18 日	個人住宅建設	現地作業	5	89
34	板窪南遺跡 1 次	北区引佐町	2021 年 1 月 26 日	個人住宅建設	現地作業	17	89
35	志都呂町中村遺跡 4 次	西区志都呂町	2021 年 1 月 29 日	個人住宅建設	現地作業	15	90
36	浜松城下町遺跡 17 次	中区平田町	2021 年 2 月 4 日	集合住宅建設	現地作業	30	91
37	御馬ヶ池古墳群 5 次	浜北区於呂	2021 年 2 月 16 日	個人住宅建設	現地作業	13	92
38	中屋遺跡 18 次	浜北区根堅	2021 年 2 月 16 日	浄化槽設置	現地作業	2	93
39	高塚町村西遺跡 10 次	南区高塚町	2021 年 2 月 24 日	社務所建設	現地作業	6	93
40	上組遺跡 4 次	南区渡瀬町	2021 年 3 月 1 日	個人住宅建設	現地作業	6	94
41	上新屋遺跡 6 次	東区上新屋町	2021 年 3 月 4 日	個人住宅建設	現地作業	5	94
42	天宝堤（隣接地）1 次	浜北区道本	2021 年 3 月 9 日、10 日	土地区画整理	現地作業	76	95
43	恒武西宮遺跡 31 次	東区貴平町	2021 年 3 月 8 日	浄化槽設置	現地作業	2	95
44	柳ノ内遺跡 6 次	西区馬郡町	2021 年 3 月 22 日	無線基地局設置	現地作業	2	96
45	三永遺跡 8 次	中区西伊場町	2021 年 3 月 29 日	個人住宅建設	現地作業	8	96

令和2年度工事立会一覧（1）

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 月 日	検出遺構／出土遺物	掲載頁
1	将監名遺跡	東区将監町	2020年3月26日、4月8日～6月17日	土坑か／弥生土器、須恵器	97
2	浜松城下町遺跡	中区利町	2020年4月9日	旧諏訪神社南側・西側石垣	—
3	神田遺跡	中区神田町	2020年4月15日	なし	—
4	木船廃寺跡	東区和田町	2020年4月23日	土師器（古代）	—
5	中脇遺跡	西区志都呂二丁目	2020年4月24日	なし	—
6	日晚遺跡	南区高塚町	2020年5月4日	なし	—
7	西畑屋遺跡	東区有玉南町	2020年5月8日、6月9日	なし	—
8	椋木遺跡	東区子安町	2020年5月21日	なし	—
9	日比沢城跡	北区三ヶ日町日比沢	2020年5月22日	なし	—
10	浜松城下町遺跡	中区八幡町	2020年6月8日	なし	—
11	馬領家遺跡	中区領家	2020年6月10日	なし	—
12	御殿山東遺跡	東区笠井上町	2020年6月19日	なし	—
13	芝本遺跡	浜北区於呂	2020年6月20日	なし	—
14	長塚遺跡	西区和地町	2020年6月22日	なし	—
15	浜松城下町遺跡	中区八幡町	2020年6月24日	なし	—
16	河岸遺跡	西区伊左地町	2020年7月1日	なし	—
17	高塚町村中遺跡	南区高塚町	2020年7月2日	なし	—
18	芝本遺跡	浜北区於呂	2020年7月2日	なし	—
19	馬生遺跡	中区和合町	2020年7月8日	なし	—
20	中屋遺跡	浜北区根堅	2020年7月13日	なし	—
21	柳ノ内遺跡	西区馬郡町	2020年7月17日	なし	—
22	中屋遺跡	浜北区根堅	2020年7月28日	溝状遺構もしくは土坑状遺構	—
23	浜松城跡	中区元目町	2020年8月3日	なし	—
24	宝平遺跡	天竜区水窪町	2020年8月18日	なし	—
25	木船廃寺跡	東区和田町	2020年8月20日	なし	—
26	東若林遺跡	南区若林町	2020年8月24日	なし	—
27	浜松城下町遺跡	中区中央一丁目	2020年8月28日	なし	—
28	中屋遺跡	浜北区根堅	2020年9月2日	なし	—
29	増楽町村中遺跡	南区増楽町	2020年9月7日	なし	—
30	高塚町村西遺跡	南区高塚町	2020年9月10日	土師器（古代）	—
31	浜松城下町遺跡	中区尾張町	2020年9月10日	なし	—
32	松東遺跡	東区和田町	2020年9月10日	なし	—
33	木船廃寺跡	東区和田町	2020年9月11日	なし	—
34	浜松城下町遺跡	中区広沢三丁目	2020年9月11日	なし	—
35	寺西遺跡	南区飯田町	2020年9月14日、17日、23日	なし	—
36	芝本遺跡	浜北区於呂	2020年9月28日	なし	—
37	大門西遺跡	浜北区根堅	2020年9月28日、10月6日	なし	—
38	越前遺跡	東区和田町	2020年9月28日	なし	—
39	笠井若林遺跡	東区笠井町	2020年9月28日	須恵器・土師器（古代）	—
40	寺海土遺跡	浜北区根堅	2020年9月29日	なし	—
41	隋国遺跡	東区笠井上町	2020年9月30日	なし	—
42	浜松城跡	中区元城町	2020年10月1日、2日、15日、16日	堀跡／かわらけ、施釉陶器	—
43	増楽遺跡	南区増楽町	2020年10月5日	なし	—
44	大居城跡	天竜区春野町	2020年10月5日、2021年1月19日	なし	—
45	八ツ面遺跡	東区豊町	2020年10月6日	土師器（古代）	—
46	山の神遺跡	東区和田町	2020年10月7日	なし	—
47	笠井下組遺跡	東区笠井町	2020年10月7日	なし	—
48	笠井若林遺跡	東区笠井町	2020年10月19日	土師器、山茶碗、染付（古代、中世）	98
49	柳ノ内遺跡	西区馬郡町	2020年10月22日	なし	—
50	浜田遺跡	西区舞阪町	2020年10月22日	なし	—
51	浜松城下町遺跡	中区鍛冶町	2020年10月27日	土師器（時期不明）	—
52	川久保遺跡	北区細江町中川	2020年10月29日	土師器細片（時期不明）	—
53	篠原町仲村遺跡	西区篠原町	2020年11月4日	なし	—

令和２年度工事立会一覧（２）

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 月 日	検出遺構／出土遺物	掲載頁
54	上新屋遺跡	東区上新屋町	2020年11月4日	なし	—
55	田見合遺跡	東区市野町	2020年11月4日	なし	—
56	恒武西宮遺跡	東区恒武町	2020年11月10日	須恵器坏（奈良時代）	99
57	浜松城下町遺跡	中区常磐町	2020年11月10日	なし	—
58	増楽町村中遺跡	南区増楽町	2020年11月17日	なし	—
59	浜松城下町遺跡	中区鹿谷町	2020年11月24日	なし	—
60	渚園遺跡	西区舞阪町	2020年11月26日	なし	—
61	東前遺跡	西区志都呂一丁目	2020年11月27日	なし	—
62	山林遺跡	浜北区平口	2020年11月27日	なし	—
63	浜松城下町遺跡	中区八幡町	2020年12月2日	なし	—
64	浜松城下町遺跡	中区松城町	2020年12月8日	なし	—
65	熱田平遺跡	北区都田町	2020年12月10日	なし	—
66	東若林遺跡	南区若林町	2020年12月14日	なし	—
67	根堅遺跡（隣接地）	浜北区根堅	2020年12月16日	なし	—
68	向山Ⅰ遺跡	浜北区於呂	2020年12月18日	なし	—
69	西畑屋遺跡	東区有玉南町	2020年12月21日	なし	—
70	内山貝塚	西区庄内町	2020年12月22日	貝殻、近世陶磁器	—
71	浜松城跡・ 浜松城下町遺跡	中区松城町	2021年1月5日	なし	—
72	増楽遺跡	南区若林町	2021年1月7日	なし	—
73	浜田遺跡	西区舞阪町	2021年1月7日	なし	—
74	大塚古墳群	中区住吉五丁目	2021年1月8日	なし	—
75	中屋遺跡	浜北区根堅	2021年1月18日	なし	—
76	浜松城跡	中区元城町、元目町	2021年1月26日～2月12日	なし	—
77	清水遺跡	浜北区新原	2021年1月28日	なし	—
78	東原遺跡	浜北区新原	2021年1月28日	なし	—
79	増楽遺跡	南区若林町	2021年1月29日	土坑／土師器小片	—
80	別所前遺跡	東区市野町	2021年2月4日	土師器（古墳時代）	99
81	旧大通院境内遺跡	南区新橋町	2021年2月5日	なし	—
82	中屋遺跡	浜北区根堅	2021年2月5日	溝（堀）	—
83	篠原町西前遺跡	西区篠原町	2021年2月8日	なし	—
84	若林町村西遺跡	南区若林町	2021年2月9日	なし	—
85	浜松城跡	中区元城町	2021年2月9日、16日	なし	—
86	伊場遺跡	中区東伊場二丁目、南区東若林町	2021年2月10日	なし	—
87	笠井若林遺跡	東区笠井町	2021年2月12日	なし	—
88	東畑屋遺跡	東区有玉南町	2021年2月12日	なし	—
89	中嶋遺跡	北区三ヶ日町上尾奈	2021年2月12日	なし	—
90	高塚町村東遺跡	南区高塚町	2021年2月12日	なし	—
91	東原遺跡	浜北区新原	2021年2月16日	なし	—
92	中屋遺跡	浜北区根堅	2021年2月16日	溝（堀）	—
93	上界土遺跡	天竜区青谷	2021年2月16日	なし	—
94	浜松城下町遺跡	中区旅籠町、平田町	2021年2月16日、19日	整地層か	—
95	東町村中遺跡	南区東町	2021年2月22日	なし	—
96	明野遺跡	天竜区春野町	2021年2月24日	なし	—
97	光明山古墳群	天竜区山東	2021年2月26日	古墳／埴輪	100
98	村裏遺跡	南区東若林町	2021年3月19日、31日	なし	—
99	高塚町村東遺跡	南区高塚町	2021年3月25日	なし	—
100	浜松城跡	中区元目町	2021年3月29日	堀跡／かわらけ、施釉陶器	—

令和２年度踏査一覧

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 月 日	検出遺構／出土遺物	掲載頁
1	内山貝塚	西区庄内町	2020年11月27日	なし	—
2	欠下平遺跡	東区有玉西町	2021年3月17日	磨製石斧（縄文時代）	—

第2章 本発掘調査概要

1 なかやいせき 中屋遺跡15次

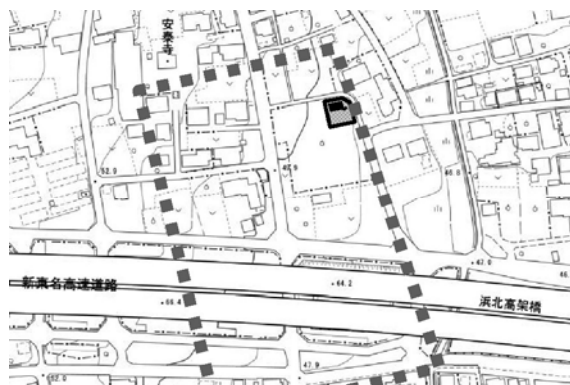
所在地 浜北区根堅

調査期間 2020年4月6日～10日

調査原因 個人住宅建設

調査面積 88 m²

調査概要 13世紀前半頃の堀跡をはじめとした遺構を検出した。堀跡は2～5次調査で検出された方形区画の一部と捉えられる。検出面からの深さは1.6 mである。詳細は、令和3年度文化財調査年報に掲載予定。



位置図 (5,000分の1)



調査区完掘状況



SD01 遺物出土状況

2 きぶねはいじあと 木船廃寺跡15次

所在地 東区和田町

調査期間 2020年4月7日

調査原因 個人住宅建設 調査面積 8 m²

調査概要 戦国時代の土坑を1基確認した。また、包含層中から奈良時代から江戸時代にかけての遺物が出土した。15次調査地は奈良時代には遺跡の縁辺部、戦国時代には集落の一部であったと捉えられる。

詳細は4章1 (101頁に掲載)。



位置図 (2,500分の1)



作業状況



主な出土遺物

3 はままつじょうあと 浜松城跡33次

所在地 中区元城町、紺屋町
調査期間 2020年4月16日～5月1日
調査原因 集合住宅建設
調査面積 200 m²
調査概要 近代以降の地形改変の影響を受けている部分が多いが、近世の遺構が残存していた。調査区南端では遺構が分布しない基盤層の高い部分が認められ、浜松城南端の土塁の痕跡の可能性がある。詳細は『浜松城跡14』に掲載。



位置図 (2,500分の1)



調査区完掘状況 (北西から)

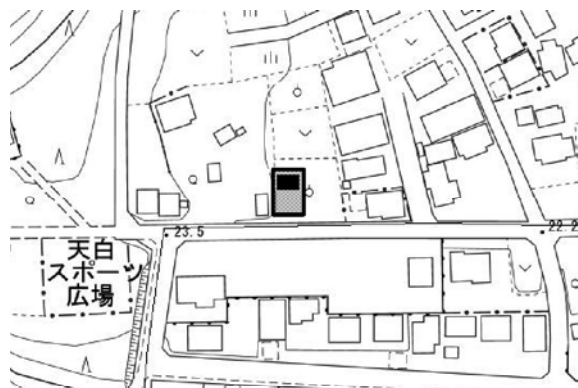


調査区完掘状況 (西から)

4 てんぱくいせき 天白遺跡7次

所在地 北区引佐町井伊谷
調査期間 2020年4月21日～24日
調査原因 個人住宅建設
調査面積 69 m²
調査概要 中世から近世にかけての遺構や遺物を検出した。遺跡の中心的な時期は中・近世と捉えられるが、奈良時代の遺物が一定量出土しており注目できる。

詳細は4章2 (105頁に掲載)。



位置図 (2,500分の1)



調査区南東柱穴群



作業状況

5 まつひがしいせき 松東遺跡11次

所在地 東区天龍川町

調査期間 2020年5月11日～22日

調査原因 道路改良 調査面積 105 m²

調査概要 1次調査区に近接した調査区北端と、3次調査区に近接した調査区南側において弥生時代の集落を確認した。調査区の中央部は低湿地であり、北と南の2つの集落に分かれていた可能性がある。詳細は『松東遺跡4』（2021年3月刊行）に掲載。



位置図 (2,500分の1)



調査区完掘状況 (北から)

6 ぞうらいせき 増楽遺跡14次

所在地 南区増楽町

調査期間 2020年5月11日～13日

調査原因 個人住宅建設

調査面積 71 m²

調査概要 奈良時代から近世にかけての河川を検出した。調査区北西部で河川の肩部を検出した。岸部には古代や中世の包含層があり、調査区の北西方向に集落が展開しているとみられる。詳細は4章3 (109頁に掲載)。



位置図 (2,500分の1)



調査区西遺構検出状況 (東から)

7 ^{かじこいせき} 梶子遺跡24次

所在地 中区南伊場町

調査期間 2020年5月12日～27日

調査原因 工場設備増設

調査面積 102 m²

調査概要 弥生時代後期の環濠や井戸、掘立柱建物跡を検出した。遺構や遺物が高密度に分布し、装飾高坏も含まれることから、集落の中心域にあたると捉えられる。

詳細は『梶子遺跡24』(2021年3月刊行)に掲載。



位置図 (5,000分の1)



主な出土遺物

8 ^{つねたけにしみやいせき} 恒武西宮遺跡30次

所在地 東区恒武町

調査期間 2020年6月9日、10日、7月28日

調査原因 店舗建設

調査面積 33 m²

調査概要 3条の溝跡を検出した。溝跡は6世紀代に埋没したものと捉えられる。また、包含層からは、古墳時代中期(5世紀)から後期(6世紀)にかけての土器が出土しており、当該期の遺跡が展開していると捉えられる。

詳細は4章4 (113頁)に掲載。



位置図 (2,500分の1)



B区完掘状況 (西から)

しろやまいせき
9 城山遺跡19次

所在地 中区南伊場町、南区若林町

調査期間 2020年6月10日、12日

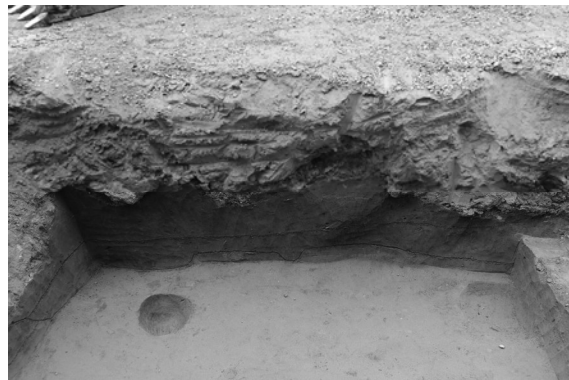
調査原因 寄宿舎建設

調査面積 6 m²

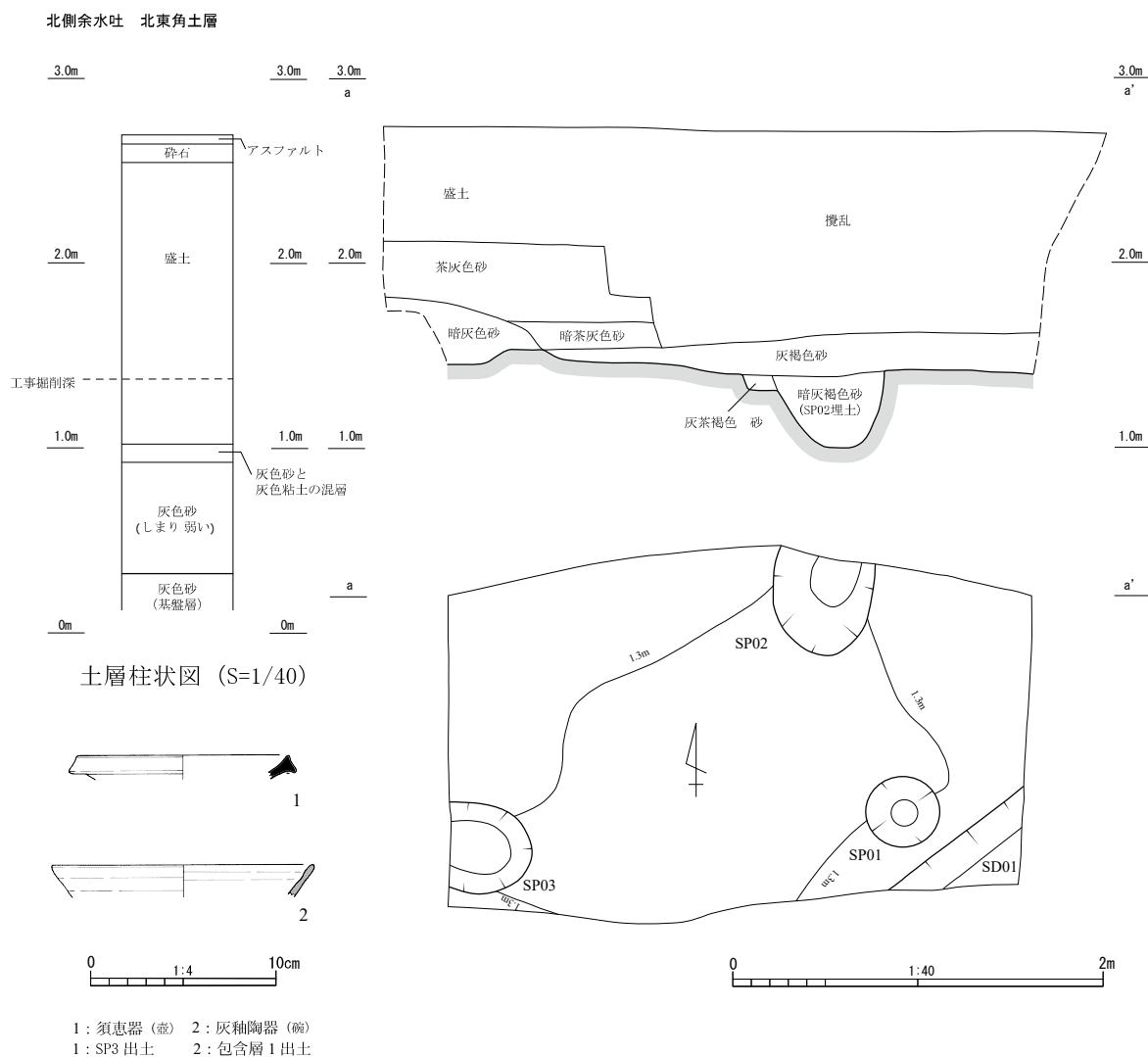


位置図 (2,500分の1)

調査概要 小規模な調査であったが、3基の小穴と1条の溝跡を検出した。また、古代の土師器や須恵器、灰釉陶器が出土した。古代を中心とした時期の遺構と遺物を確認でき、当該期の集落内であると捉えられる。



調査区南壁土層堆積状況



10 はままつじょうあと 浜松城跡34次

所在地 中区紺屋町、元城町

調査期間 2020年6月15日～8月26日

調査原因 集合住宅建設

調査面積 389 m²

調査概要 浜松城南辺の外堀を検出した。外堀の幅は検出面で最大13.6m、深さは検出面から計測すると5m以上あることが明らかになった。桔梗紋をあしらった鬼瓦や九目結紋軒丸瓦等をはじめ大量の瓦や近世陶磁器が出土した。桔梗紋鬼瓦は、南西隅に櫓等の存在をうかがわせるものである点や、出土瓦の特徴から南外堀の堀が瓦葺きになるのは17世紀後半以降のことと捉えられる点は、最も古い内容をもつと推定される絵図と整合的であり、浜松城の変遷をうかがい知るうえでも重要な成果といえる。詳細『浜松城跡14』(2021年3月刊行)に掲載。



浜松城跡34次瓦集合



位置図(2,500分の1)



浜松城跡34次調査全景(南から)

11 かさいかみぐみいせき 笠井上組遺跡12次

所在地 東区笠井上町

調査期間 2020年8月4日～31日

調査原因 集合住宅建設 調査面積 187 m²

調査概要 8世紀の土坑や溝跡などの遺構を検出した。また、8世紀の須恵器や土師器が出土した。笠井上組遺跡において初めて明確な遺構が確認できた調査であり、遺跡の分布状況を知るうえで重要な成果である。

詳細は4章5(117頁に掲載)。



位置図(2,500分の1)



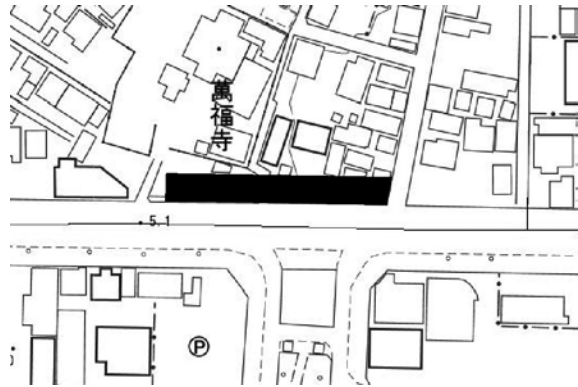
調査区全景(北西から)



SD05 遺物出土状況

はままつじょうかまちいせき
12 浜松城下町遺跡13次

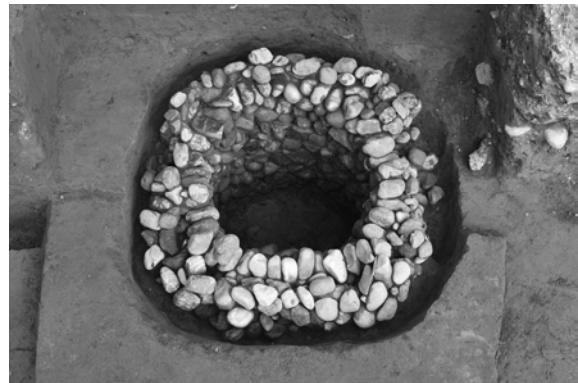
所在地 中区八幡町
調査期間 2020年8月17日～10月26日
調査原因 道路改良
調査面積 450 m²
調査概要 古代から近世にかけての遺構や遺物を確認した。とくに中世の遺構や遺物が充実しており、道路遺構や石組み井戸が特筆できる。
 詳細は『浜松城下町遺跡3』（2021年3月刊行）に掲載。



位置図 (2,500分の1)



A区完掘状況（西から）



SE02 検出状況（南から）

はままつじょうあと
13 浜松城跡40次

所在地 中区元目町
調査期間 2020年9月1日～23日
調査原因 集合住宅建設
調査面積 248 m²
調査概要 浜松城の東外堀を検出した。検出面から堀底までの深さは、2.1 mである。東側肩部が調査区外のため堀の幅は明らかでないが、絵図を参照すると幅20 m程度であったと想定でき、中土手を持つとみられる。

堀底からは、15世紀後半から16世紀前半頃のものと思われる漆器碗が複数個体出土した。また、中世から近世にかけての陶磁器、土師質土器が堀埋土から出土した。堀の構築時期は戦国時代とみられる。堀西側斜面の裾部では直径0.1～0.2 mの木材が1～2 m間隔で打設されていた。根元部分のみの検出であり上部の形状は明らかではないが、土留めや逆茂木、乱れ杭などの可能性がある。堀の上半部は廃城後に基盤層由来の土砂で埋め立てられていることが明らかになった。

詳細は『浜松城跡16』（2022年3月刊行）に掲載。



位置図 (2,500分の1)



調査区1 全景（南東から）

14 ^{なかやいせき} 中屋遺跡16次

所在地 浜北区根堅

調査期間 2020年10月8日

調査原因 個人住宅建設

調査面積 32 m²

調査概要 13世紀前半頃の堀跡をはじめとした遺構を検出した。堀跡は2～5次調査で検出された方形区画の一部と捉えられる。また、方形区画の内側で土坑1基を検出した。

詳細は、令和3年度文化財調査年報に掲載予定。



位置図(5,000分の1)



調査区全景

15 ^{はまつじょうあと} 浜松城跡39次

所在地 中区元城町

調査期間 2020年11月24日～12月4日

調査原因 社屋建設

調査面積 110 m²

調査概要 近世浜松城の三の丸にあたる地点で実施した発掘調査である。近世の瓦積み遺構をはじめとした近世の遺構・遺物に加え、16世紀代の遺構や遺物を確認した。

詳細は『浜松城跡 15』(2022年1月刊行)に掲載。



位置図(2,500分の1)



調査区全景

16 いしのとうこふん 石ノ塔古墳3次

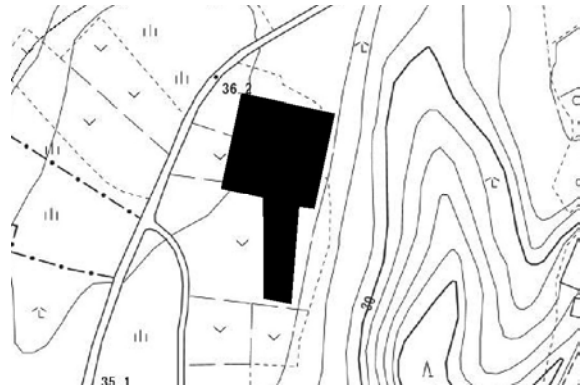
所在地 西区伊左地町

調査期間 2020年11月25日～2021年3月26日

調査原因 土砂採取

調査面積 942 m²

調査概要 7世紀前半に築造された疑似両袖式の横穴式石室を持つ直径15～16mの円墳である。玄室の天井の一部が残存し、大刀や鉄鏃、耳環、鉄釘等が出土した。詳細は『石ノ塔古墳』（2022年3月刊行）に掲載。



位置図（2,500分の1）



石室と区画帯検出状況



石室内遺物出土状況

17 なかやいせき 中屋遺跡19次

所在地 浜北区根堅

調査期間 2021年3月3日

調査原因 個人住宅建設

調査面積 16 m²

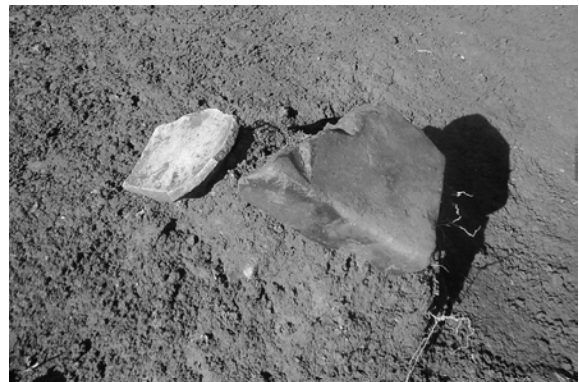
調査概要 13世紀前半頃の堀跡等の遺構を検出した。堀跡は2～5次調査で検出された方形区画の一部と捉えられる。また、方形区画東辺においてはじめて中世瓦や埴が出土した。詳細は、令和3年度文化財調査年報に掲載予定。



位置図（5,000分の1）



調査区土層堆積状況



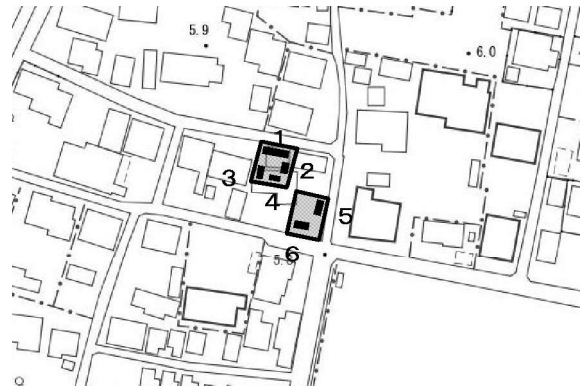
遺物（山茶碗、埴）出土状況

第3章 試掘・確認・立会等調査報告

試掘・確認調査報告

1 ^{きぶねはいじあと}木船廃寺跡 14 次

所在地 東区和田町 264-3
調査期間 2020 年 4 月 6 日
調査原因 個人住宅建設 調査面積 22 m²
検出遺構 小穴、溝
出土遺物 土師器、須恵器、山茶碗、内耳鍋、焙烙、陶器
調査結果 遺構が確認された。当該地は、遺跡の範囲内であり、周囲に遺跡の中心があると考えられる。※詳細は第 4 章 1 (101 頁) に掲載。
調査担当 川西啓喜



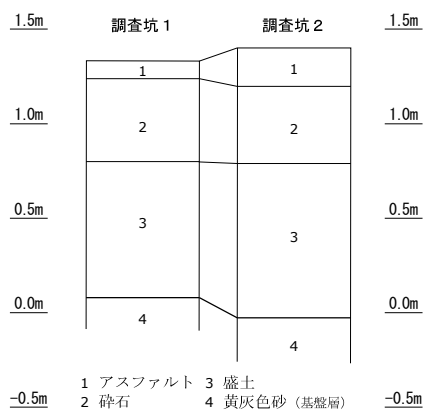
位置図 (2, 500 分の 1)

2 ^{かわぎしいせき}河岸遺跡 3 次

所在地 西区伊左地町地内
調査期間 2020 年 4 月 16 日
調査原因 水道管改修
調査面積 7 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500 分の 1)



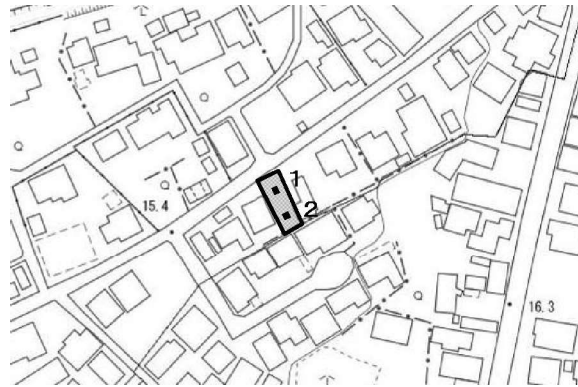
土層柱状図 (S=1/40)



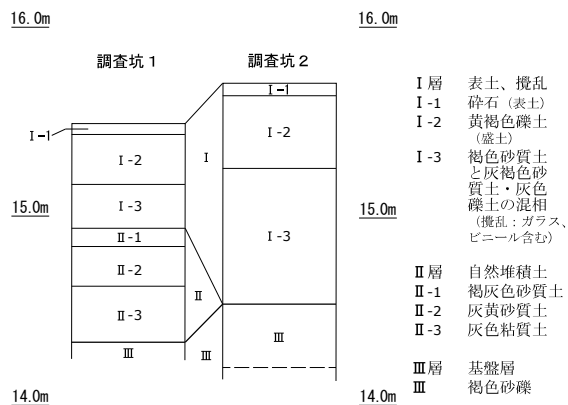
調査坑 1 土層堆積状況

3 かさいかみぐみいせき 笠井上組遺跡 10 次

所在地 東区笠井上町字田原 542-5、542-6 外
調査期間 2020 年 4 月 23 日
調査原因 個人住宅建設 調査面積 4 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当 和田達也



位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



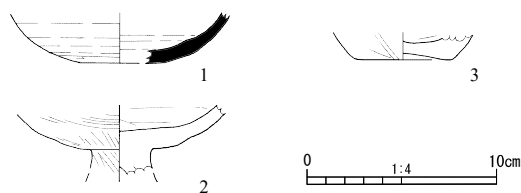
調査坑 1 土層堆積状況

4 しとろちょうなかむらいせき 志都呂町中村遺跡 3 次

所在地 西区志都呂町 1139-1
調査期間 2020 年 4 月 27 日
調査原因 宅地分譲 調査面積 36 m²
検出遺構 溝、土坑、小穴
出土遺物 弥生土器、須恵器、土師器、内耳鍋
調査結果 遺跡の範囲と捉えるが、北東部周辺は、遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500分の1)

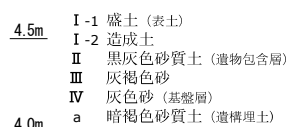
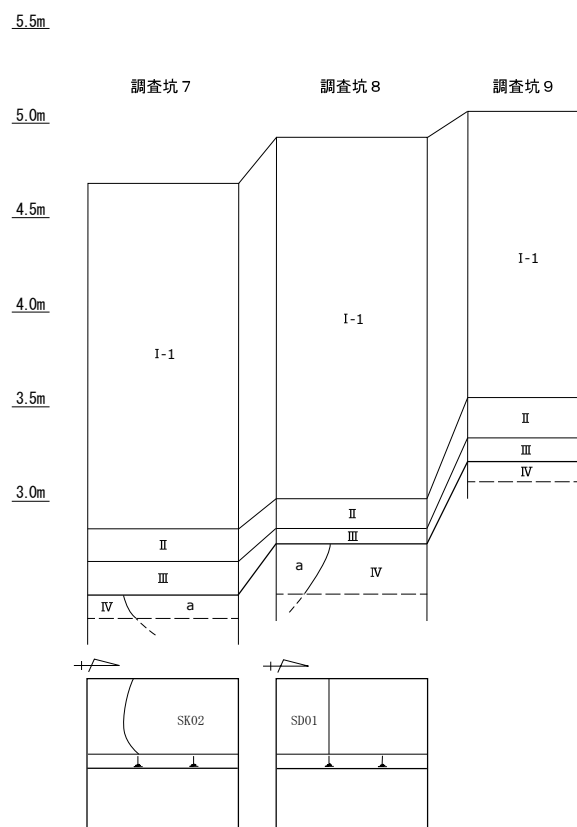


1: 須恵器 (坏身) 2: 土師器 (高坏) 3: 土師器 (甕)
1: 調査坑 4 出土 2~3: 調査坑 9 出土

出土遺物実測図



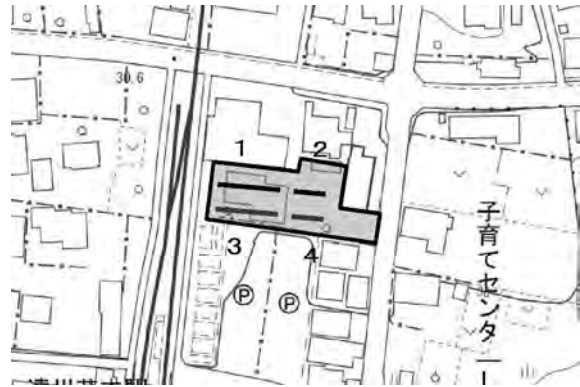
主な出土遺物



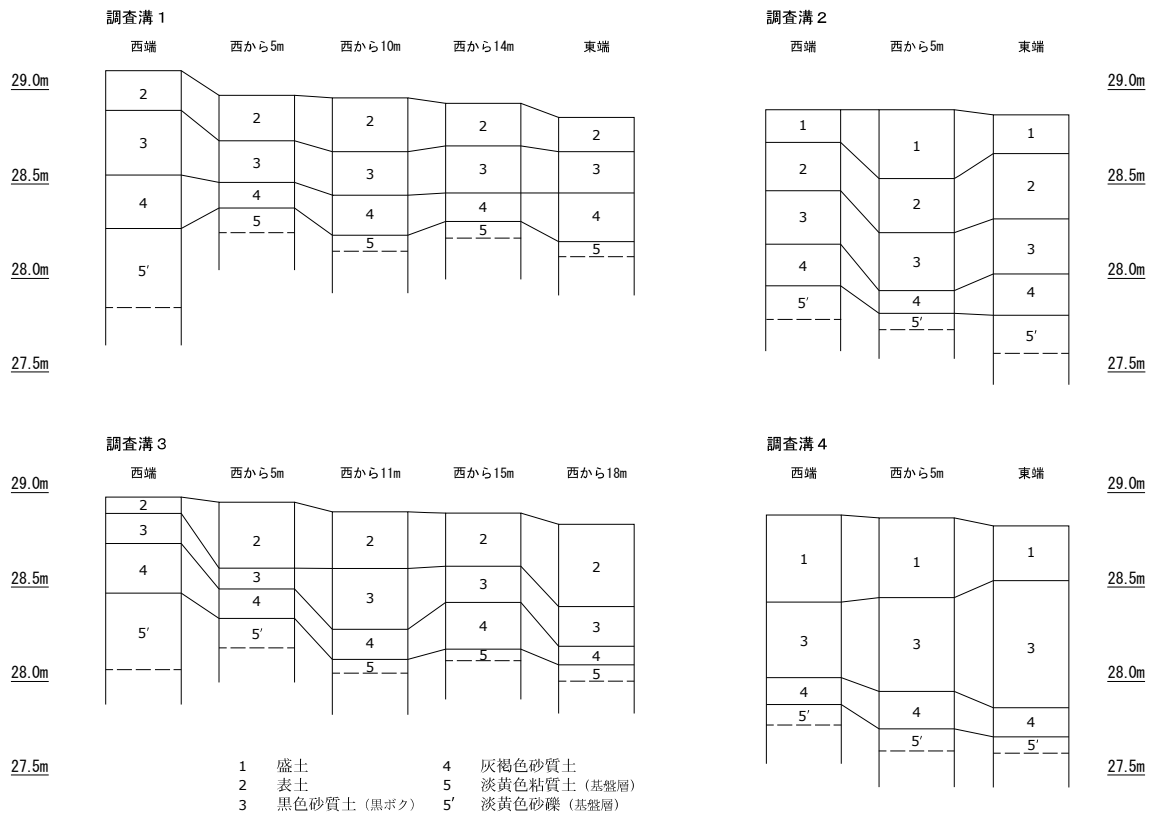
66

5 ^{しばもといせき} 芝本遺跡 29 次

所在地 浜北区於呂 3081-8、3081-11 外
 調査期間 2020 年 5 月 11 日、12 日
 調査原因 集合住宅建設 調査面積 60 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄な地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



調査溝 1 完掘状況



調査溝 2 土層堆積状況

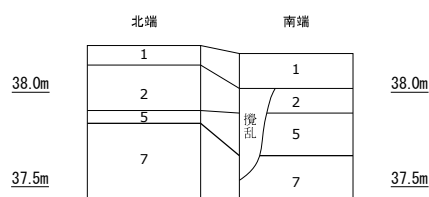
6 ^{しばもとせいせき} 芝本遺跡 30 次

所在地 浜北区於呂字上ノ原 3323-14 外
 調査期間 2020 年 5 月 21 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 9 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 須恵器
 調査結果 6 世紀前半の須恵器が出土した。
 調査担当 栗原雅也、川西啓喜

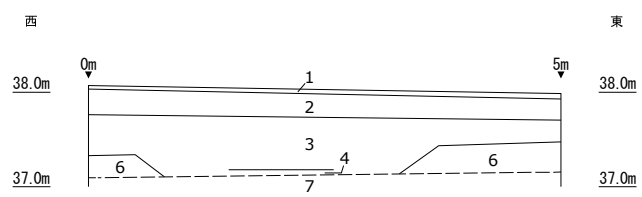


位置図 (2, 500 分の 1)

調査溝 1

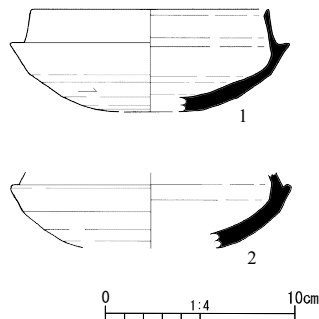


調査溝 2



- | | | |
|----------------------|--------|---------------------|
| 1 碎石敷 | 近代の堆積層 | 5 暗茶褐色粘砂礫 (細礫を含む) |
| 2 暗褐色土 (固く締まる) | | 6 暗黄褐色粘質土 (砂礫は含まない) |
| 3 暗黄褐色粘質土 (黄褐色砂礫を含む) | | 7 地山、固く締まった黄褐色砂礫 |
| 4 暗茶褐色粘砂礫 (近代の瓦を含む) | | |

土層柱状図 (S=1/40) 及び土層模式図 (S=1/80)



1 ~ 2 : 須恵器 (坏身)
 1 ~ 2 : 調査溝 2 出土

出土遺物実測図



調査溝 1 完掘状況



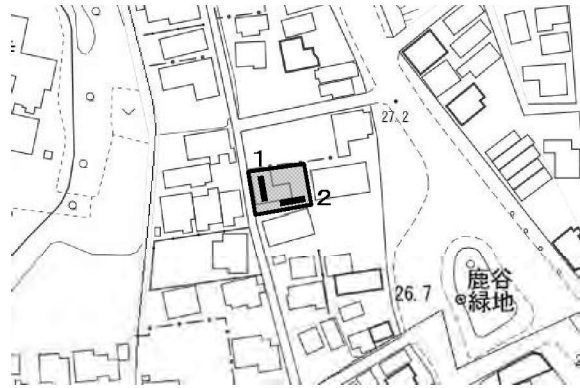
調査溝 2 土層堆積状況



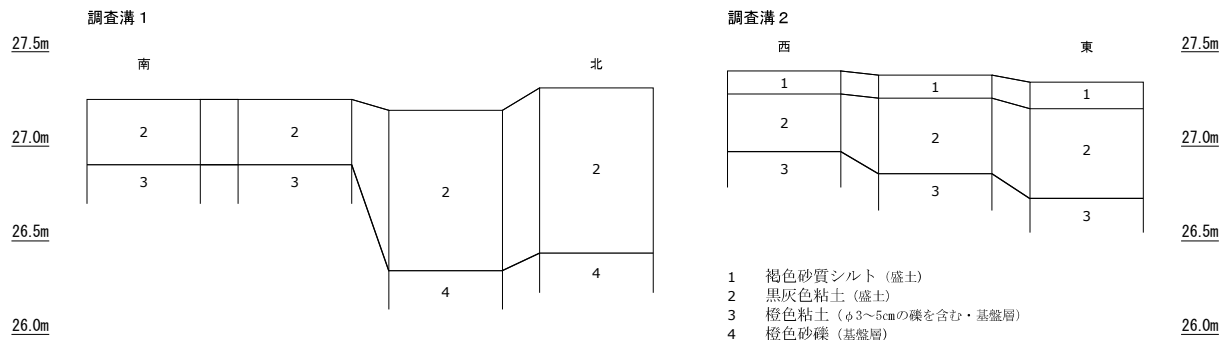
主な出土遺物

7 はままつじょうかまちいせき
浜松城下町遺跡 14 次

所在地 中区鹿谷町 45、45-1 外
調査期間 2020 年 5 月 25 日
調査原因 個人住宅建設 調査面積 16 m²
検出遺構 なし 出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



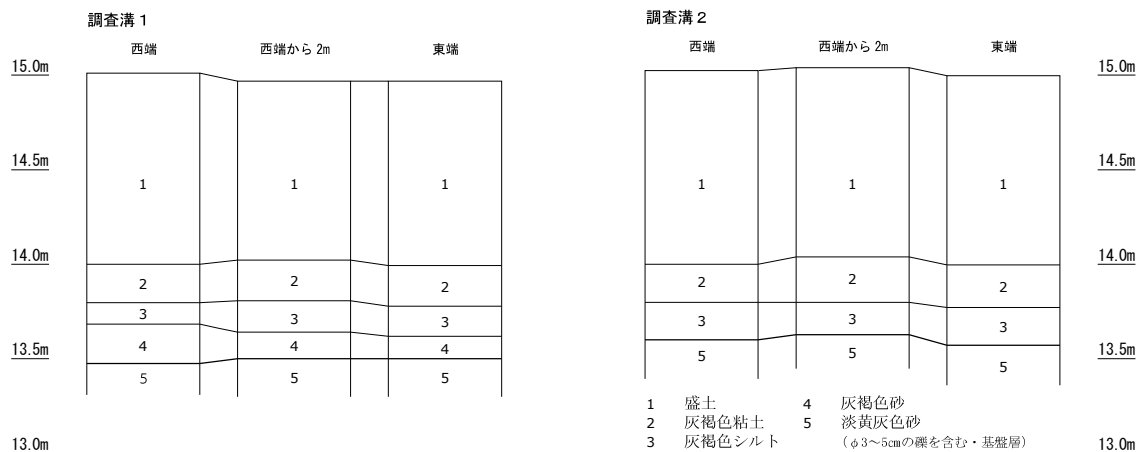
土層柱状図 (S=1/40)

8 ごてんやまひがしいせき
御殿山東遺跡 4 次

所在地 東区笠井上町 633-2
調査期間 2020 年 6 月 1 日
調査原因 個人住宅建設 調査面積 8 m²
検出遺構 なし 出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当 川西啓喜



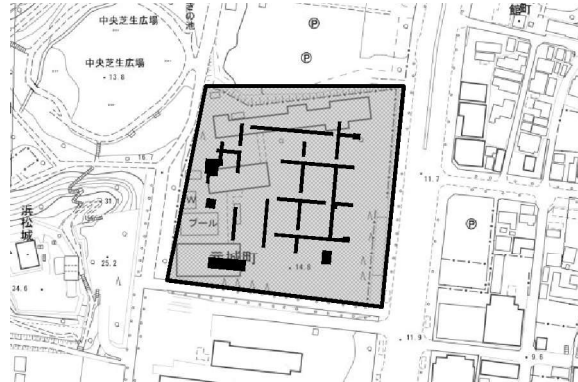
位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

はままつじょうあと
9 浜松城跡35 次

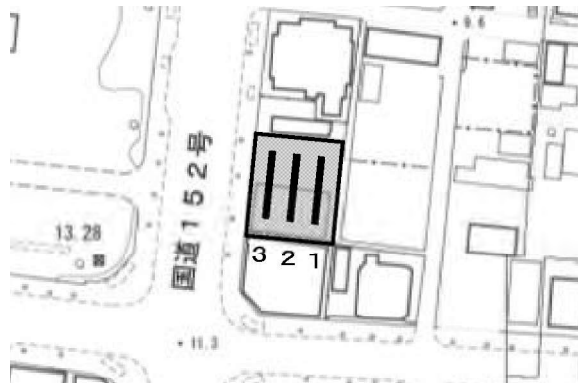
所在地 中区元城町 100-2
調査期間 2020 年 6 月 1 日～2021 年 3 月 18 日
調査原因 確認調査
調査面積 1,500 m²
検出遺構 石垣、堀跡、瓦集積、礎石など
出土遺物 瓦、陶磁器、土師質土器
調査結果 本丸東側の堀と石垣を検出し、本丸の範囲が明らかになった。
調査担当 和田達也



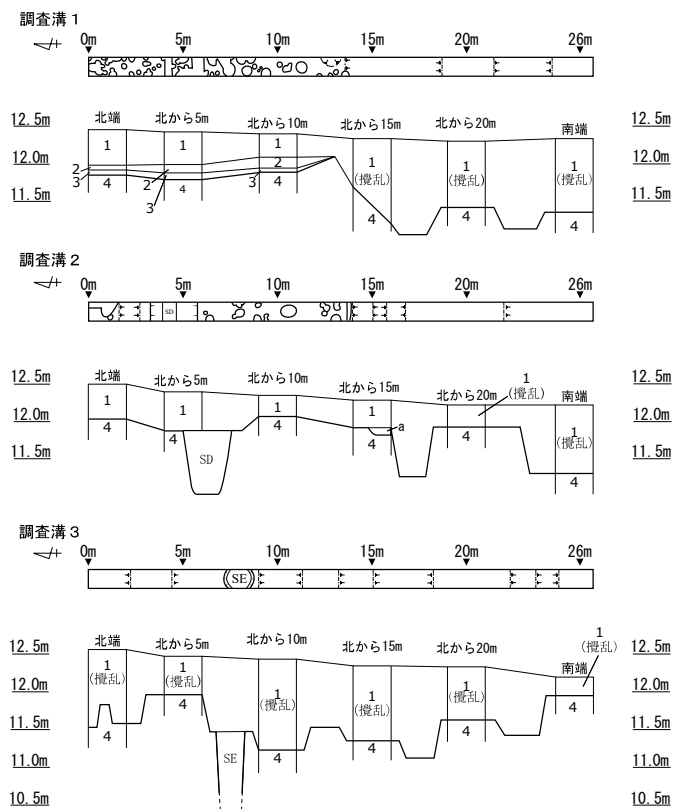
位置図 (5,000 分の 1)

はままつじょうあと
10 浜松城跡37 次

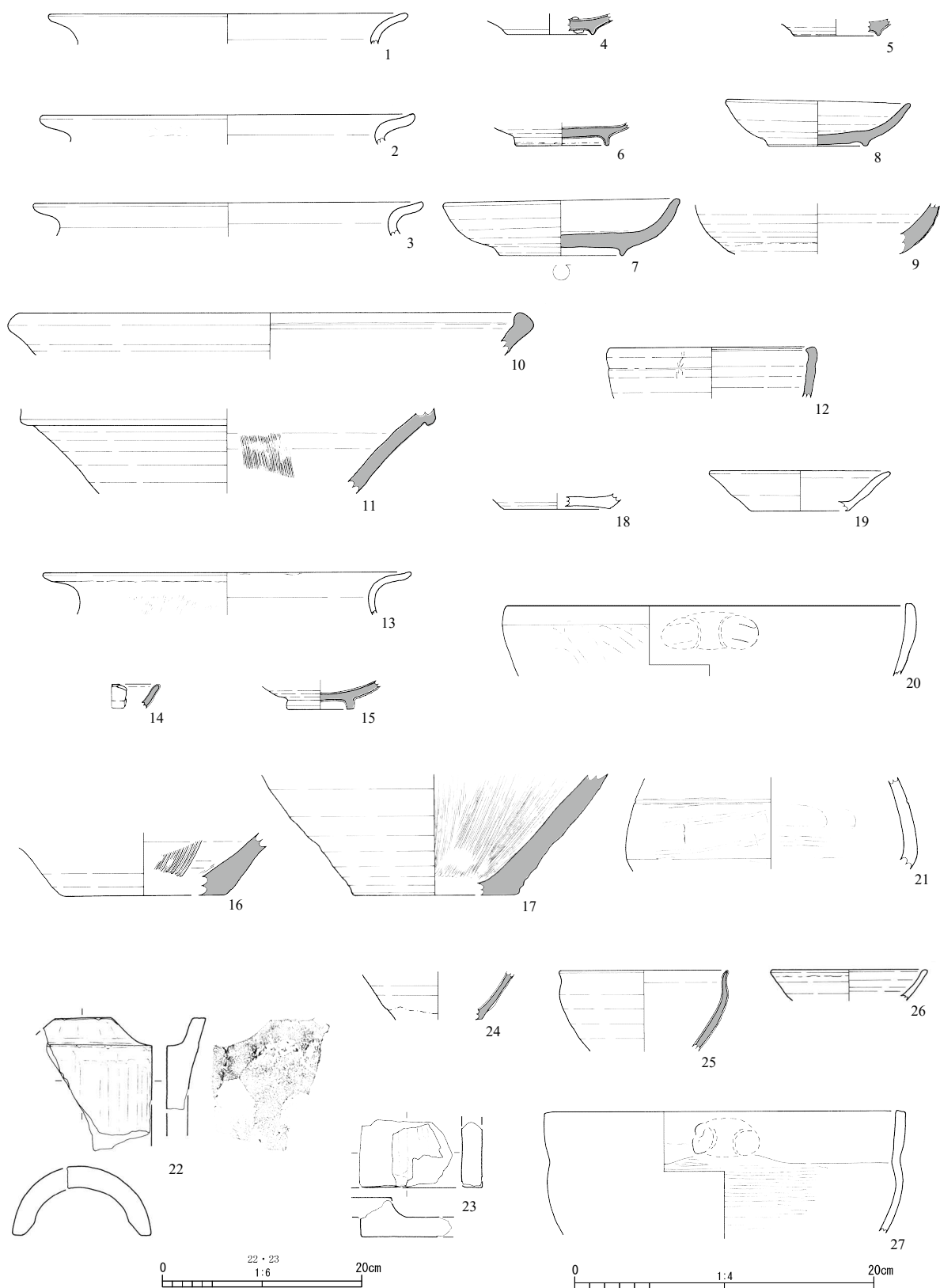
所在地 中区元城町 115-13、115-14
調査期間 2020 年 6 月 2 日、3 日
調査原因 宿泊施設建設 調査面積 78 m²
検出遺構 小穴 (奈良)、小穴 (江戸)、溝、井戸
出土遺物 かわらけ、内耳鍋、施釉陶器、瓦
調査結果 良好に遺構が残存しており、溝や井戸のほか、多数の小穴を確認した。
調査担当 井口智博



位置図 (2,500 分の 1)



土層柱状図 (S=1/100) 及び平面図 (S=1/400)

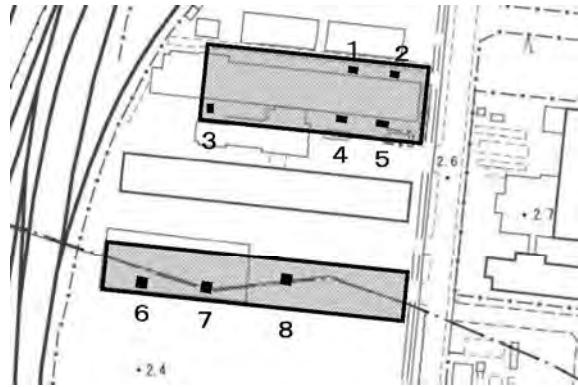


1～3：土師器（甕） 4～6：瀬戸（皿） 7～8：初山（丸皿） 9：瀬戸美濃（徳利） 10～11：瀬戸美濃（描鉢） 12：瀬戸美濃（筒型香炉）
 13：土師（甕） 14：志野端反（皿） 15：瀬戸美濃（丸碗） 16～17：瀬戸美濃（描鉢） 18～19：土師器（かわらけ） 20：土師器（半球形内耳鍋）
 21：土師器（羽釜？） 22～23：瓦（丸瓦） 24～25：瀬戸美濃（天目） 26：土師器（かわらけ） 27：土師器（内湾内耳鍋）
 1～12：調査溝1出土 13～23：調査溝2出土 24～27：調査溝3出土

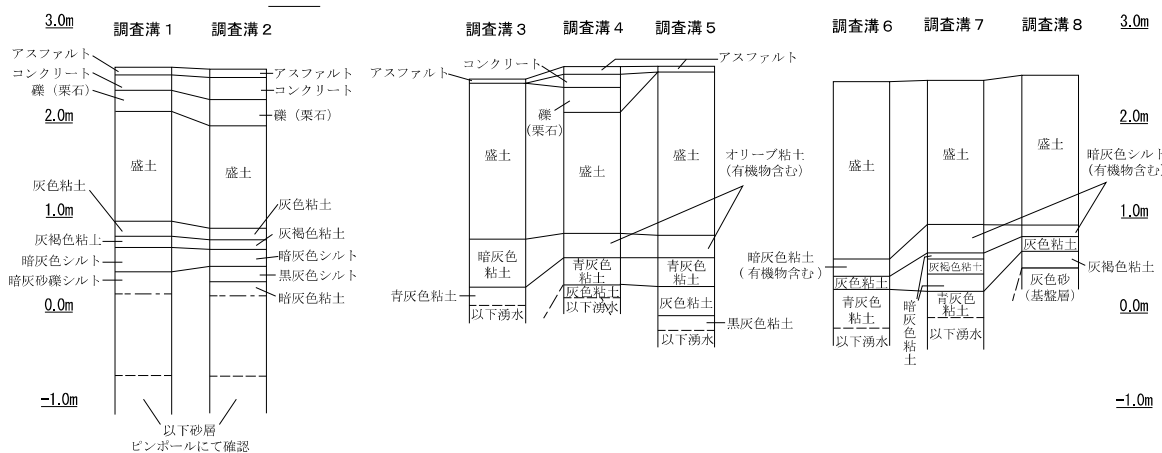
出土遺物実測図

11 しろやまいせき 城山遺跡 18 次

所在地 中区南伊場町 6-2
 調査期間 2020 年 6 月 9 日、10 日、12 日
 調査原因 寄宿舍建設 調査面積 20 m²
 検出遺構 伊場大溝（自然河川）
 出土遺物 土師器、須恵器
 調査結果 一部の調査坑において伊場大溝を確認した。他の調査坑では遺構が認められず、遺物もわずかであった。
 調査担当 川西啓喜、井口智博



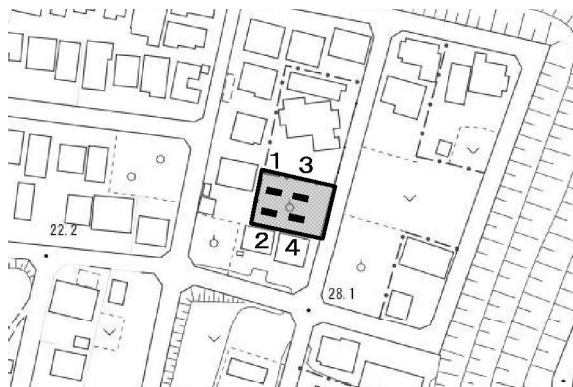
位置図 (5,00分の1)



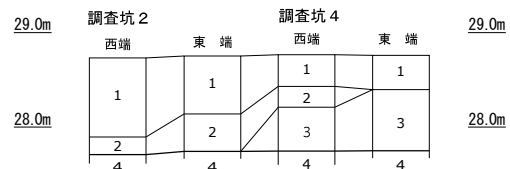
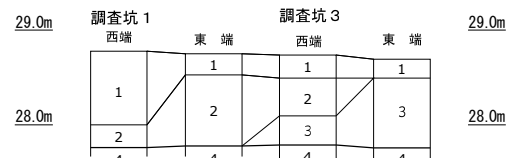
土層柱状図 (S=1/80)

12 おおひらいせき 大平遺跡 3 次

所在地 西区入野町 20025-3、20025-4 外
 調査期間 2020 年 6 月 15 日
 調査原因 宅地造成 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 調査担当 栗原雅也



位置図 (2,500分の1)



- 1 黄褐色土（盛土、耕作土） 3 暗黄褐色土（盛土）
 2 褐色土（盛土） 4 赤褐色粘質土（基盤層）

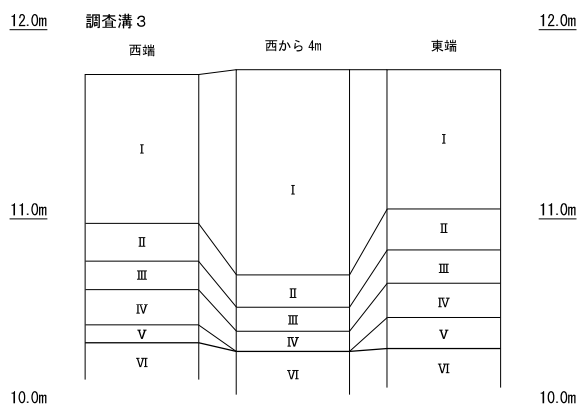
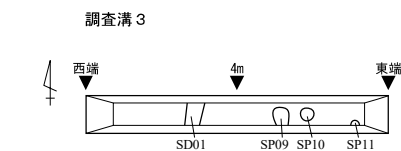
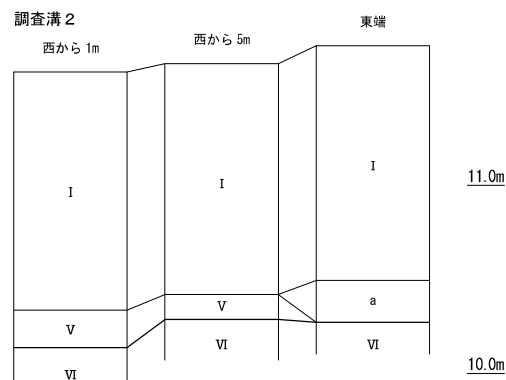
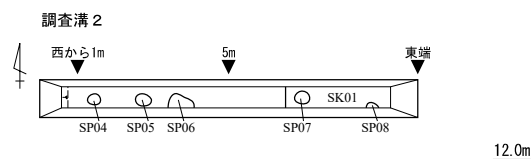
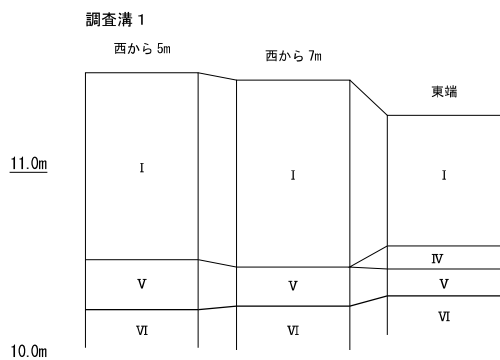
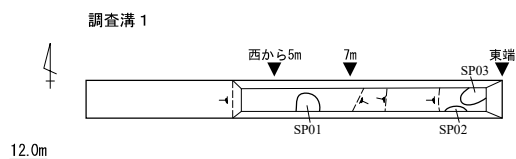
土層柱状図 (S=1/80)

はままつじょうあと
13 浜松城跡36次

所在地 中区元城町 114-8
調査期間 2020年6月15日
調査原因 社屋建設 調査面積 29 m²
検出遺構 小穴、性格不明遺構（戦国時代）
出土遺物 山皿、かわらけ、土師質土器、播鉢
調査結果 遺構・遺物を確認した。当該地は遺跡が良好に残存していると考えられる。
調査担当 川西啓喜

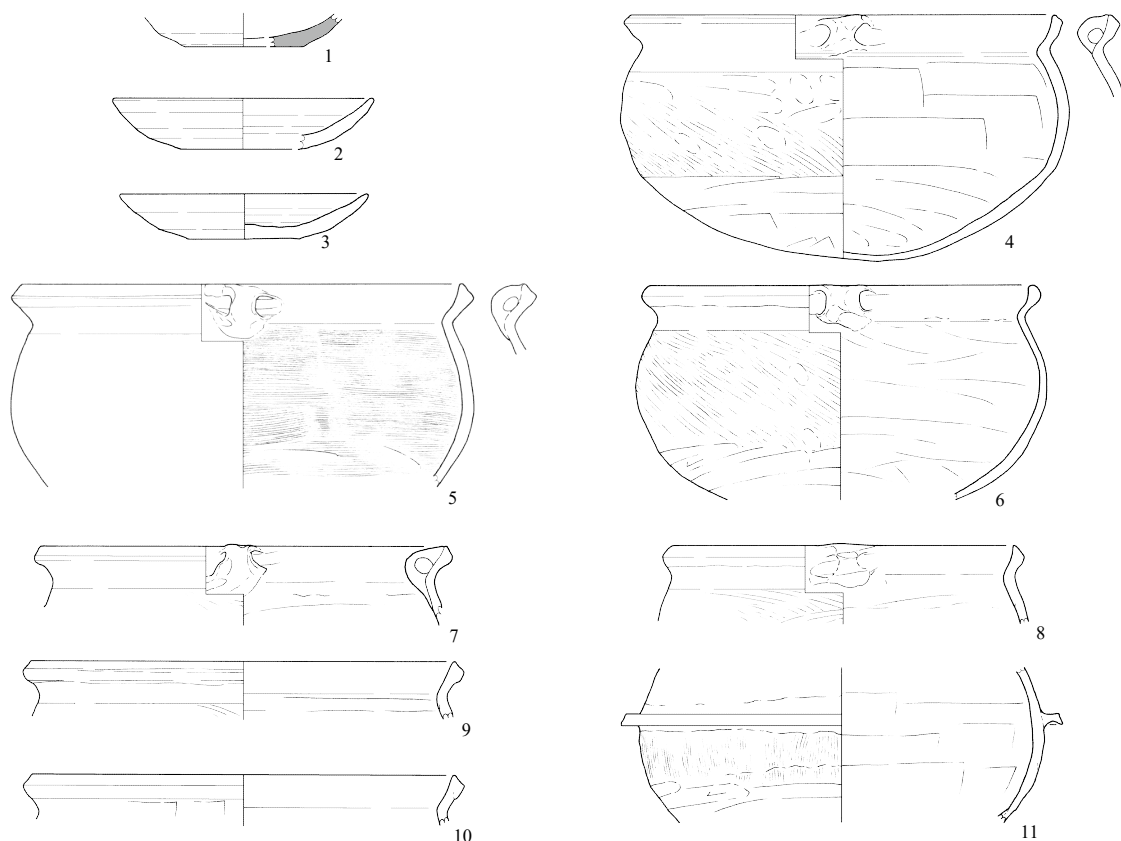


位置図 (2,500分の1)



- I 盛土
- II 褐灰色砂質シルト (近代以降の遺物を含む)
- III 灰褐色砂質シルト (近代瓦を含む)
- IV 暗褐色シルト (近代瓦を含む)
- V 暗褐色粘土
- VI 橙色粘土 (基盤層)
- a 暗褐色粘土 (SX01)

土層柱状図 (S=1/40)



1：中世陶器（山皿） 2～3：土師器（かわらけ） 4～10：土師質土器（内耳鍋） 11：土師質土器（羽付釜）
1～11：調査溝2出土

出土遺物実測図



調査溝1中央土層堆積状況



調査溝2全景



調査溝2東端土層堆積状況



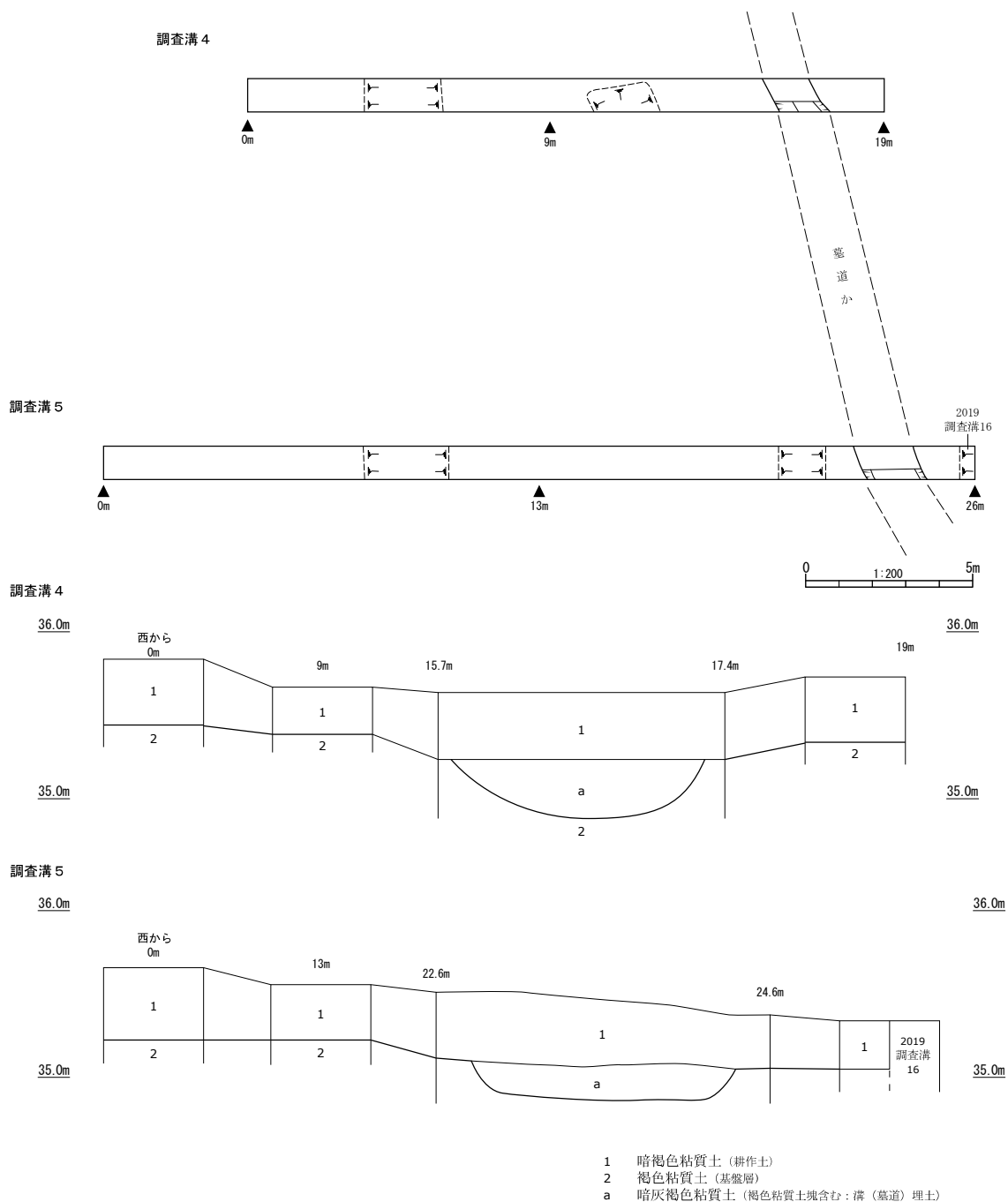
主な出土遺物

14 小伊左地平Ⅰ遺跡2次・石ノ塔古墳2次

所在地 西区伊左地町 7901 外
 調査期間 2020 年 6 月 17 日
 調査原因 土砂採取
 調査面積 45 m²
 検出遺構 溝跡（石ノ塔古墳墓道）
 出土遺物 なし
 調査結果 石ノ塔古墳の墓道が確認された。
 調査担当 和田達也



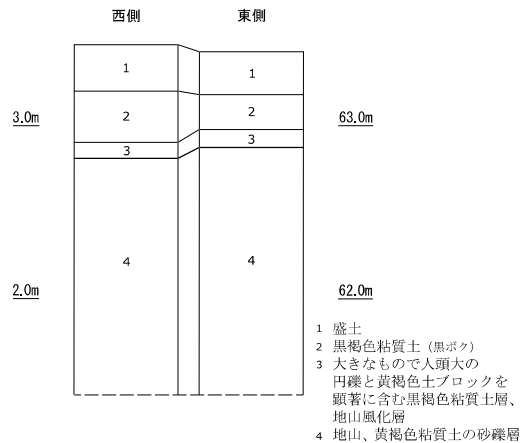
位置図 (5,000分の1)



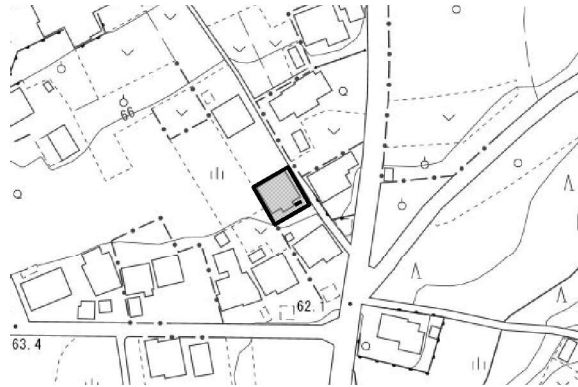
土層柱状図 (S=1/40) 及び調査区配置図 (S=1/200)

なかぼういせき
15 中坊遺跡1次

所在地 浜北区根堅 2144-28
調査期間 2020年6月23日
調査原因 浄化槽設置 調査面積 3 m²
検出遺構 なし 出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
調査担当 栗原雅也



土層柱状図 (S=1/40)



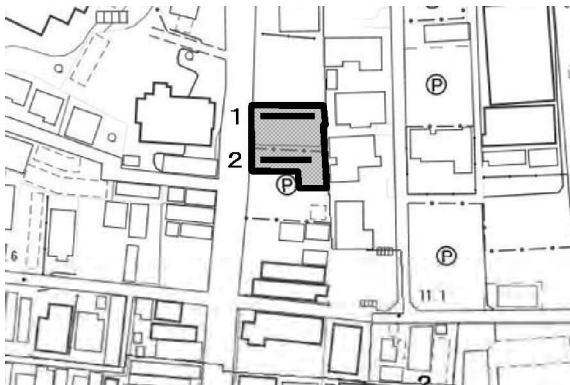
位置図 (2,500分の1)



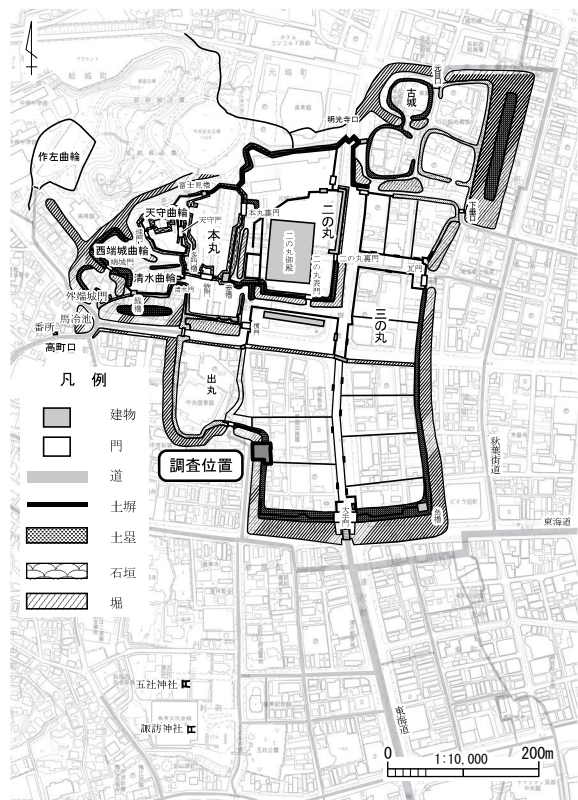
調査区土層堆積状況

はままつじょうあと
16 浜松城跡38次

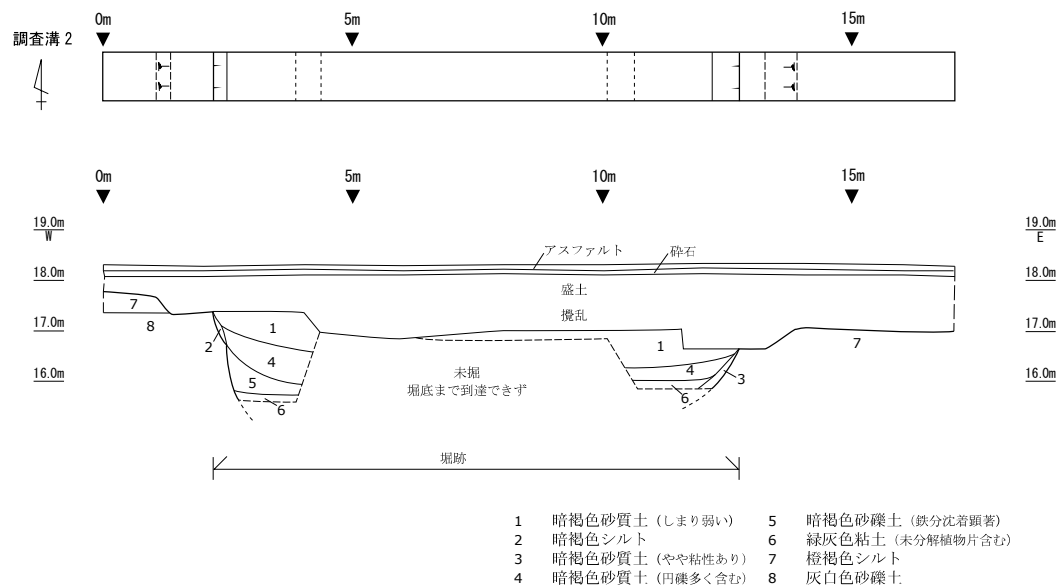
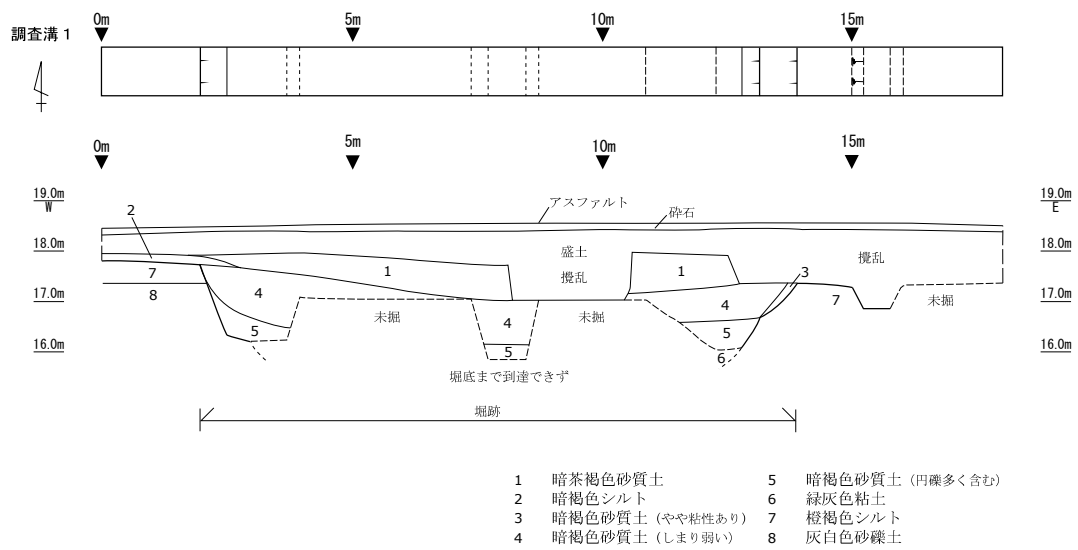
所在地 中区松城町 215-24、215-25 外
調査期間 2020年6月23日、24日
調査原因 遺跡残存状況確認
調査面積 35 m² 検出遺構 堀跡
出土遺物 施釉陶器
調査結果 浜松城跡の堀跡が残存していることを確認した。
調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



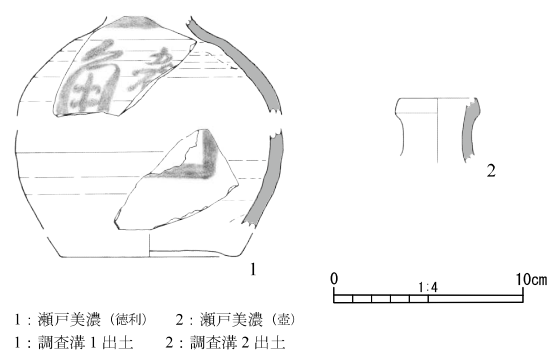
浜松城跡復元図および調査位置図 (10,000分の1)



土層断面図 (S=1/150)



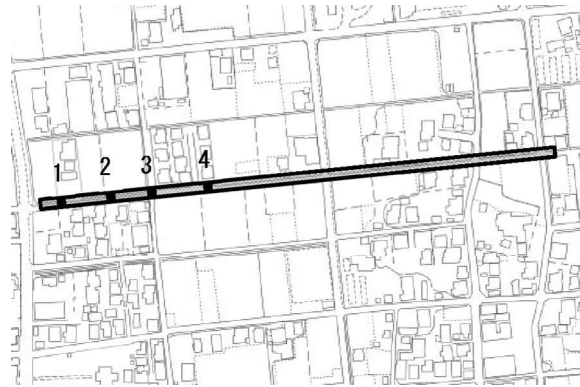
調査溝 2 完掘状況



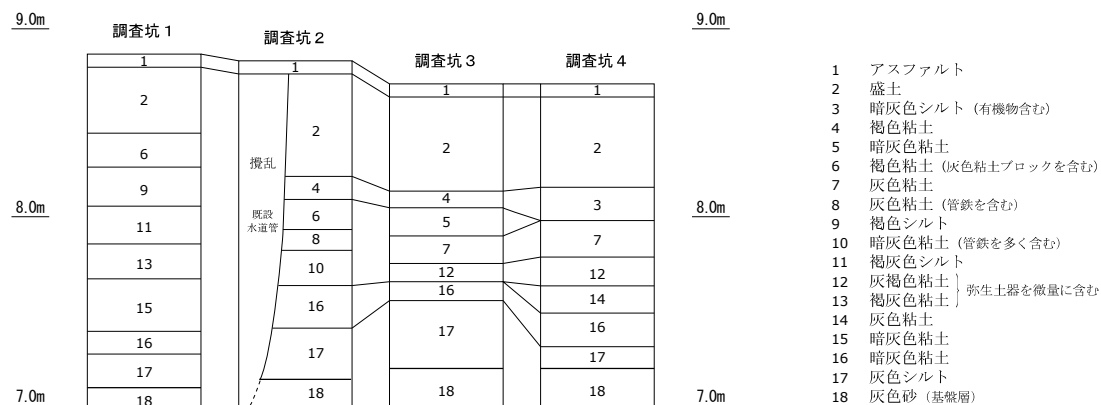
出土遺物実測図

17 別所前遺跡 5次

所在地 東区市野町 2220-1 地先
 調査期間 2020年7月15日、16日
 調査原因 水道管理設 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 弥生土器
 調査結果 遺物はわずかに出土したが、遺構は確認できなかった。遺跡の希薄な地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



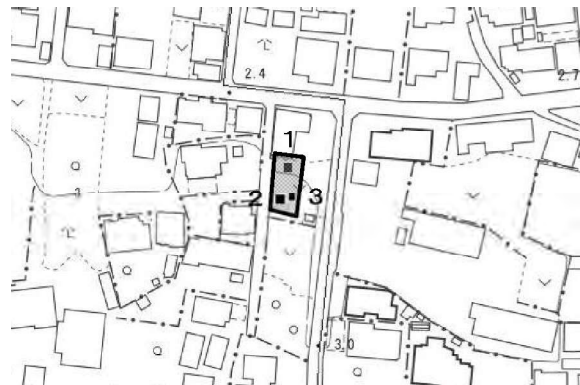
位置図 (5,000分の1)



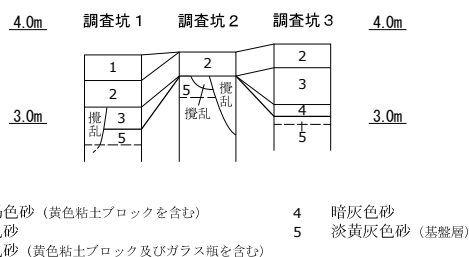
土層柱状図 (S=1/40)

18 東若林遺跡 6次

所在地 南区若林町 771-1
 調査期間 2020年7月20日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 5 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 須恵器、土師器
 調査結果 わずかに遺物が出土したが、明確な遺構は確認できなかった。遺跡の希薄な地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



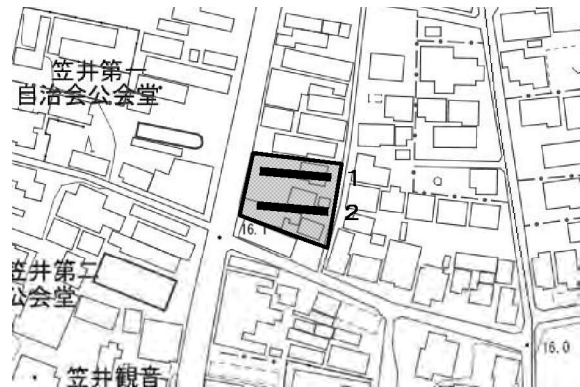
土層柱状図 (S=1/80)



調査坑 2 完掘状況

19 ^{かさいかみぐみいせき} 笠井上組遺跡 11 次

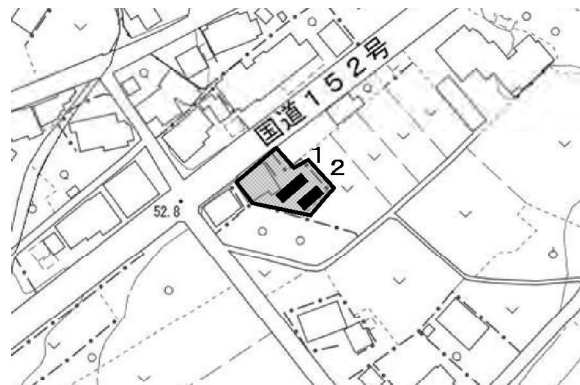
所在地 浜松市東区笠井上町 165-1、166-1 外
 調査期間 2020 年 7 月 28 日
 調査原因 集合住宅建設 調査面積 34 m²
 検出遺構 土坑、溝 出土遺物 須恵器、土師器
 調査結果 わずかではあったが、遺構・遺物を確認した。
 ※詳細は第 4 章 5 (117 頁) に掲載。
 調査担当 鈴木京太郎



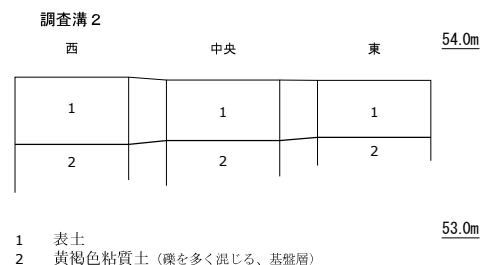
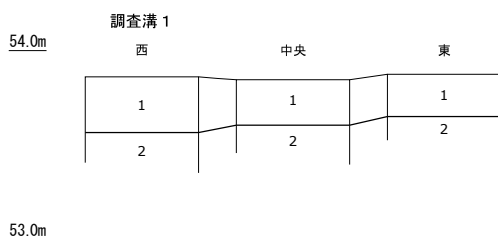
位置図 (2, 500 分の 1)

20 ^{むかいやまへーこふんぐん} 向山 A 古墳群 1 次

所在地 浜北区於呂 4101-3、4103-4 外
 調査期間 2020 年 9 月 1 日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 9 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物及び遺物包含層は確認されなかった。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2, 500 分の 1)



土層柱状図 (S=1/40)



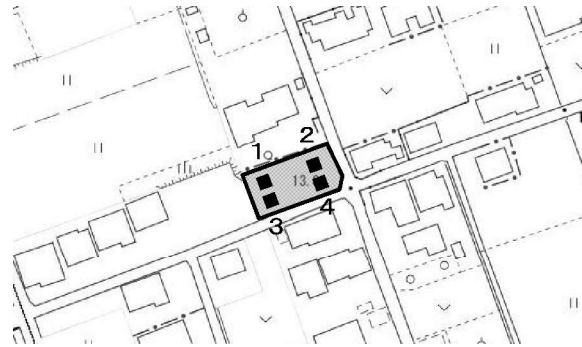
調査溝 2 完掘状況



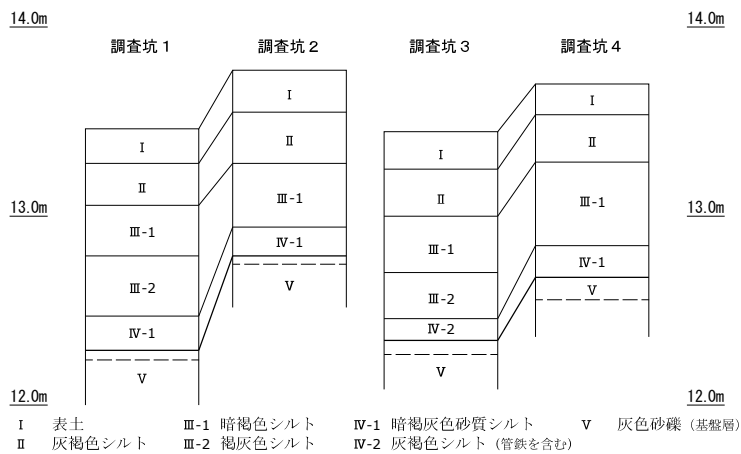
調査溝 2 土層堆積状況

21 笠井若林遺跡 16 次

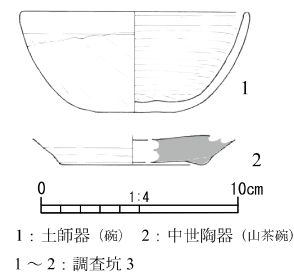
所在地 東区笠井町字若林 1583
 調査期間 2020 年 9 月 24 日
 調査原因 宅地分譲 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器、山茶碗
 調査結果 わずかに遺物が出土した。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500 分の 1)



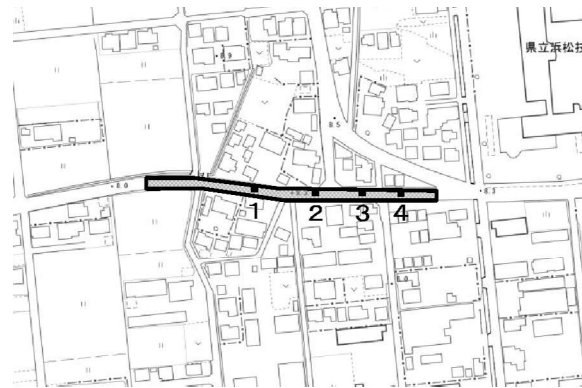
土層柱状図 (S=1/40)



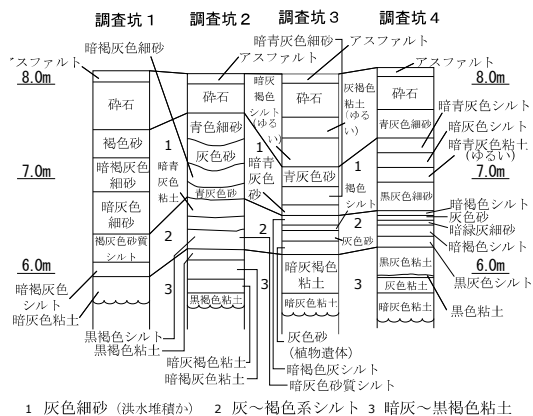
1: 土師器 (碗) 2: 中世陶器 (山茶碗)
 1 ~ 2: 調査坑 3

22 箕輪遺跡 7 次

所在地 東区小池町 2493、2594 地先
 調査期間 2020 年 9 月 29 日、30 日
 調査原因 水道管埋設 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄な地点と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図 (5, 000 分の 1)



土層柱状図 (S=1/80)

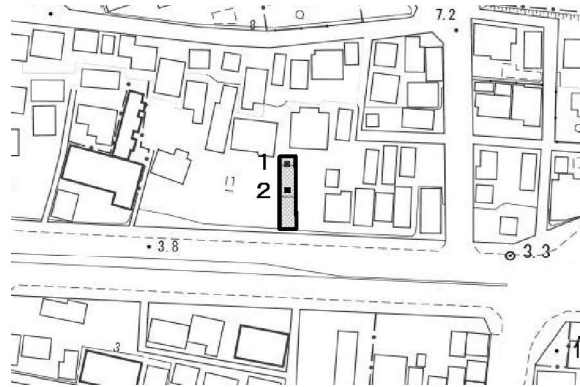


調査坑 3 土層堆積状況

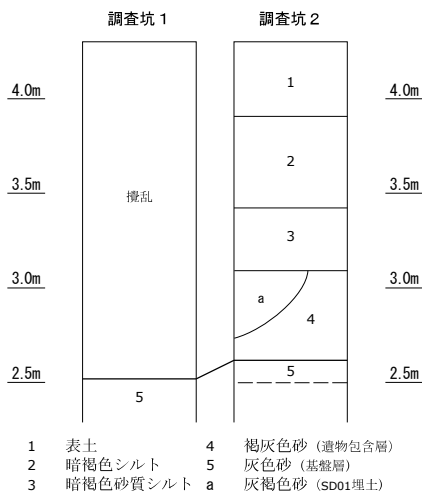
調査坑 4 土層堆積状況

23 さんえいいせき 三永遺跡 7次

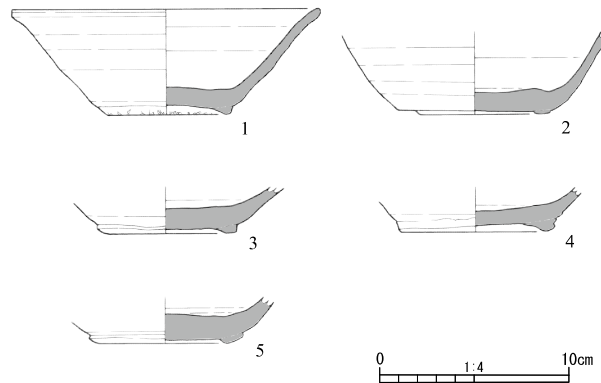
所在地 中区西伊場町 3947-2、3948-1
 調査期間 2020年9月30日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 8 m²
 検出遺構 溝か
 出土遺物 須恵器、土師器、山茶碗
 調査結果 古代～中世の遺構・遺物を確認した。
 遺跡の範囲内と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

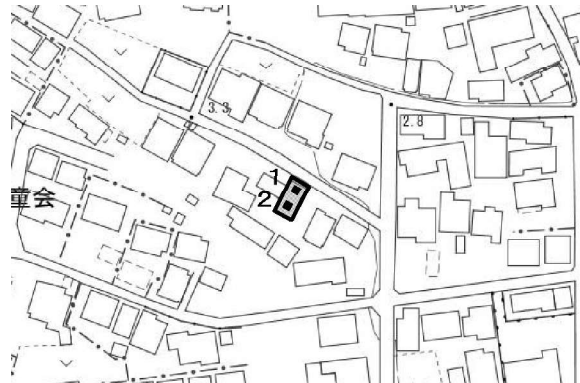


1～5: 中世陶器 (山茶碗)
 1～5: 調査坑 2 出土

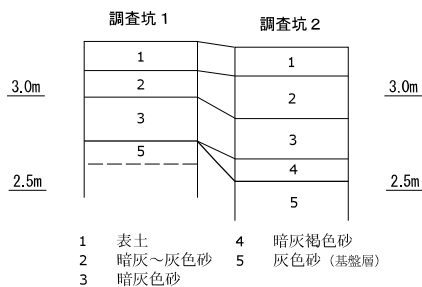
出土遺物実測図

24 しのはらちょうにしまえいせき 篠原町西前遺跡 7次

所在地 西区篠原町 10561-2
 調査期間 2020年9月30日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 4 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の希薄な地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



調査坑 1 土層堆積状況

たかつかいせき

所在地 南区高塚町 765-6 外

調査期間 2020年10月7日～2021年2月4日

調査原因 土地区画整理

調査面積 54 m²

検出遺構 溝（古墳時代と戦国～江戸時代）

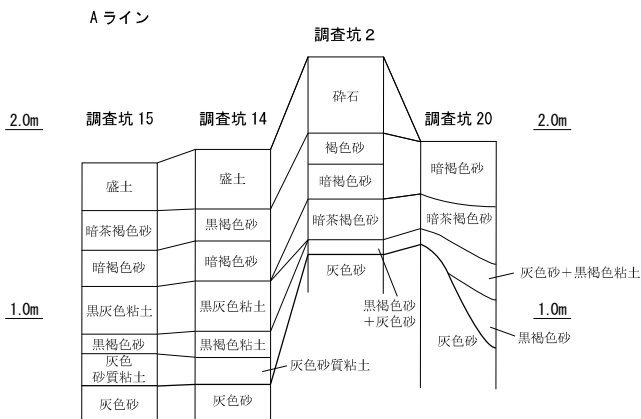
出土遺物 土師器（古墳時代と奈良時代）、
かわらけ、内耳鍋、陶器

調査結果 対象地の一部において遺構と遺物を確認した。

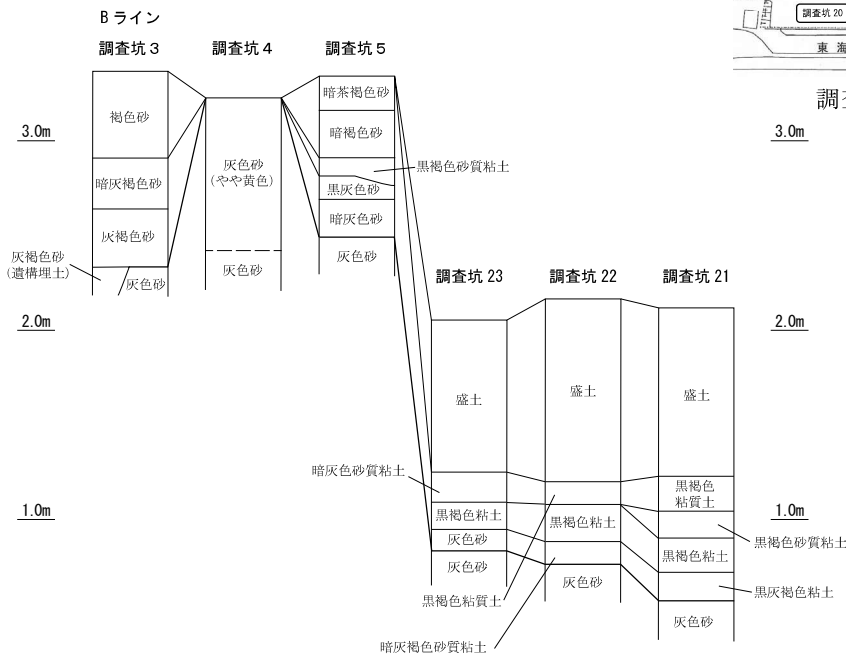
調査担当 井口智博



位置図 (5,000分の1)

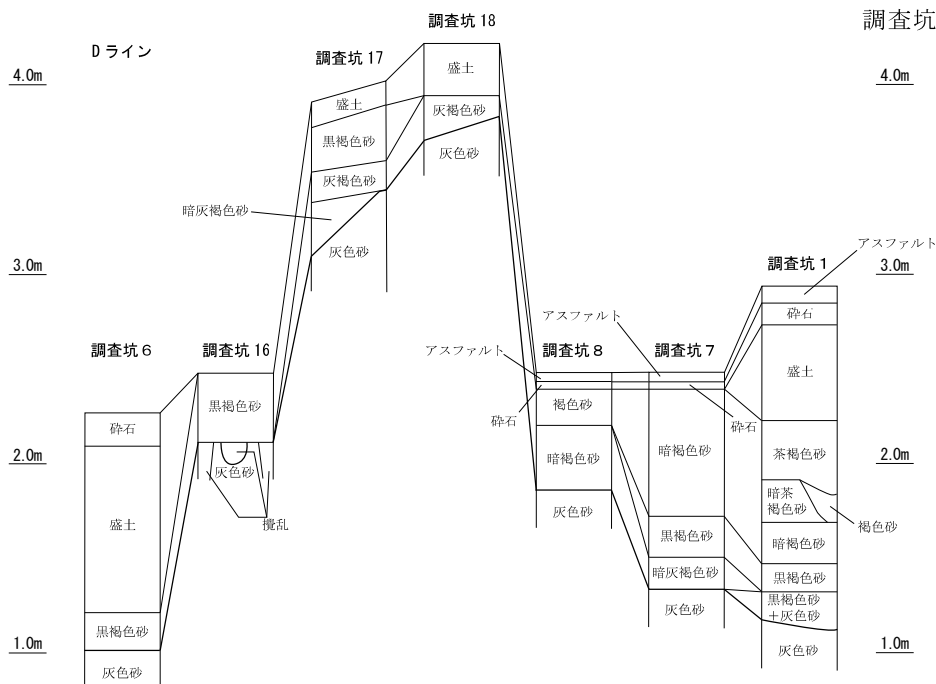
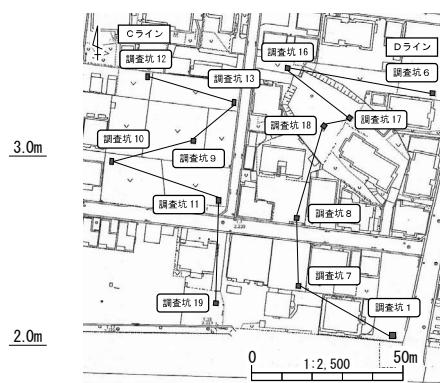
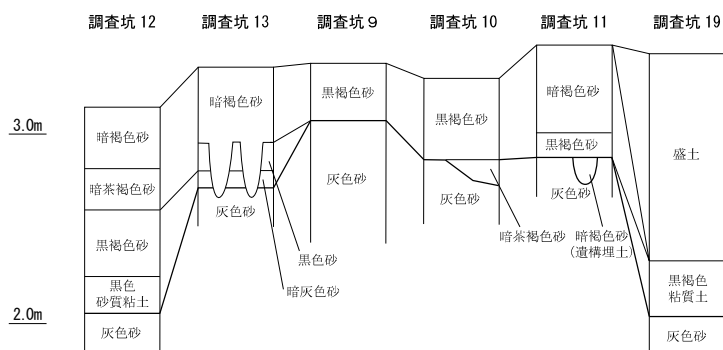


調査坑配置図 (2,500 分の1)

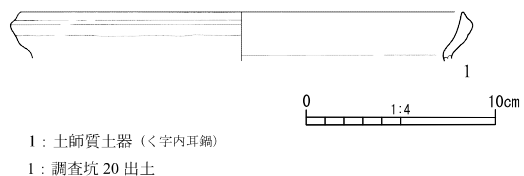


土層柱状図 (S=1/40)

Cライン



土層柱状図 (S=1/40)



出土遺物実測図



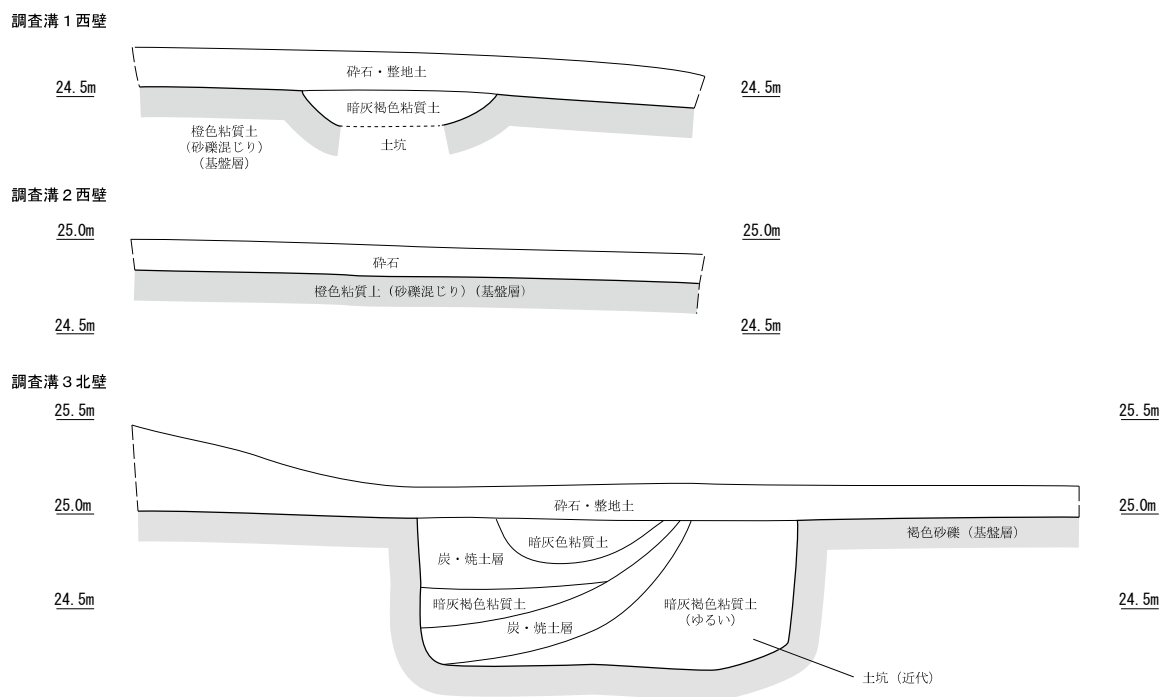
調査坑 11 完掘状況

26 はままつじょうかまちいせき
浜松城下町遺跡 15 次

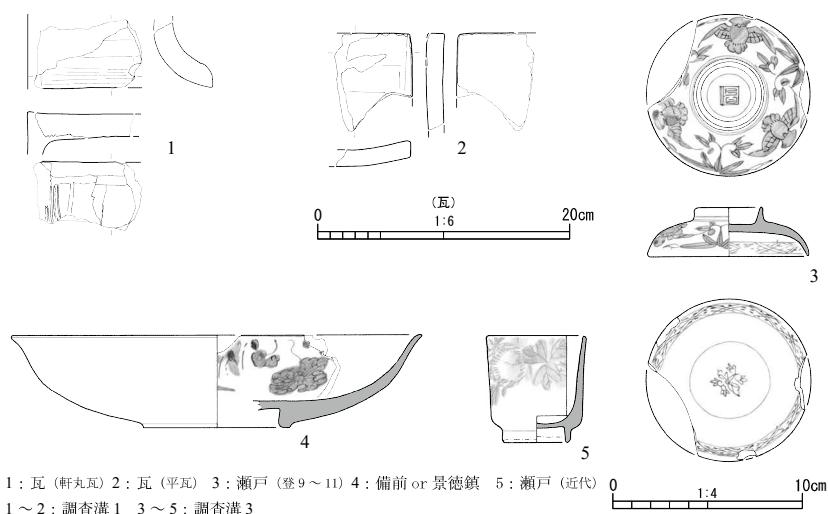
所在地 中区三組町 3、3-3 外
調査期間 2020 年 10 月 9 日
調査原因 店舗建設 調査面積 11 m²
検出遺構 土坑
出土遺物 丸瓦、平瓦、磁器
調査結果 近世に遡る遺構の一部は残存していると考えられる。
調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2, 500 分の 1)



土層柱状図 (S=1/40)



1: 瓦 (軒丸瓦) 2: 瓦 (平瓦) 3: 瀬戸 (登 9 ~ 11) 4: 備前 or 景德鎮 5: 瀬戸 (近代)
1 ~ 2: 調査溝 1 3 ~ 5: 調査溝 3

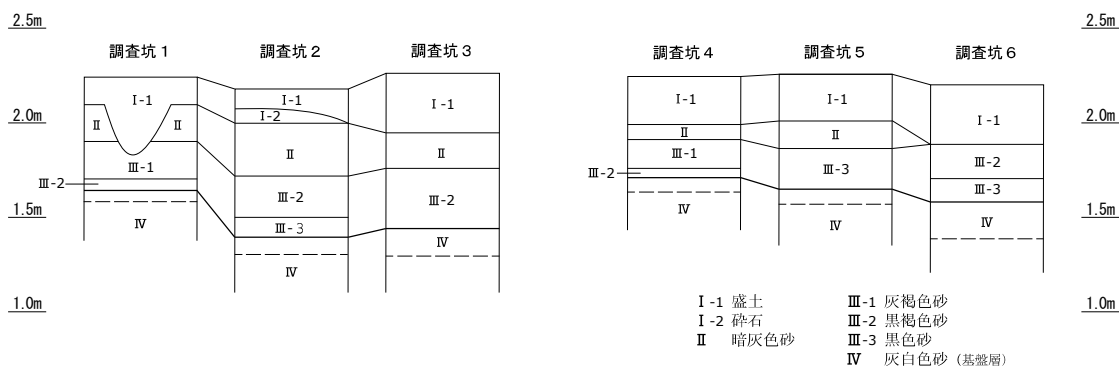
出土遺物実測図

27 増楽遺跡 15 次

所在地 南区増楽町 1368-1
 調査期間 2020 年 10 月 20 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 13 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 弥生土器、内耳鍋
 調査結果 わずかに遺物が出土した。遺跡の希薄な地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



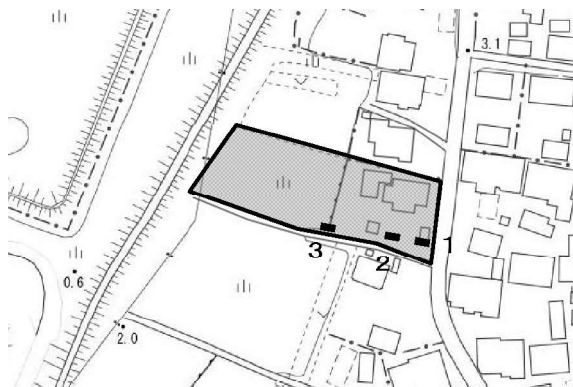
位置図 (2,500分の1)



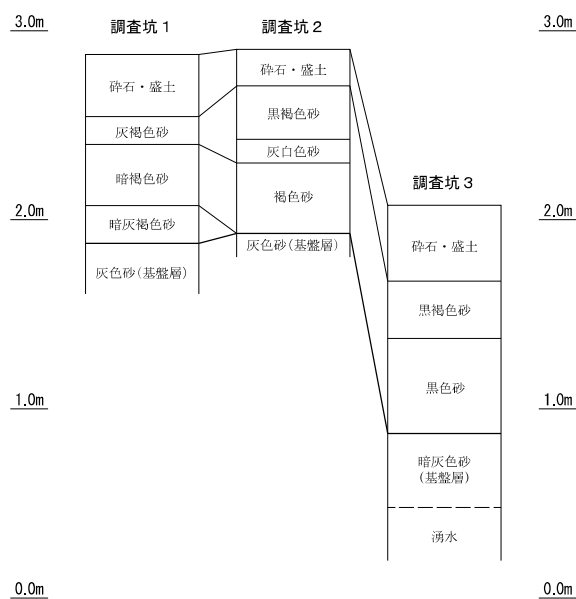
土層柱状図 (S=1/40)

28 国方遺跡 9 次

所在地 西区篠原町 9302- 1、2
 調査期間 2020 年 10 月 27 日
 調査原因 宅地分譲 調査面積 9 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



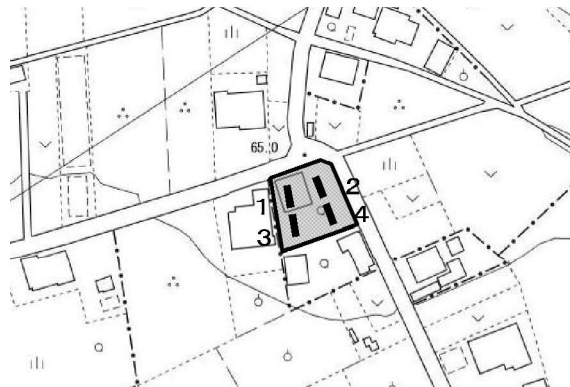
位置図 (2,500分の1)



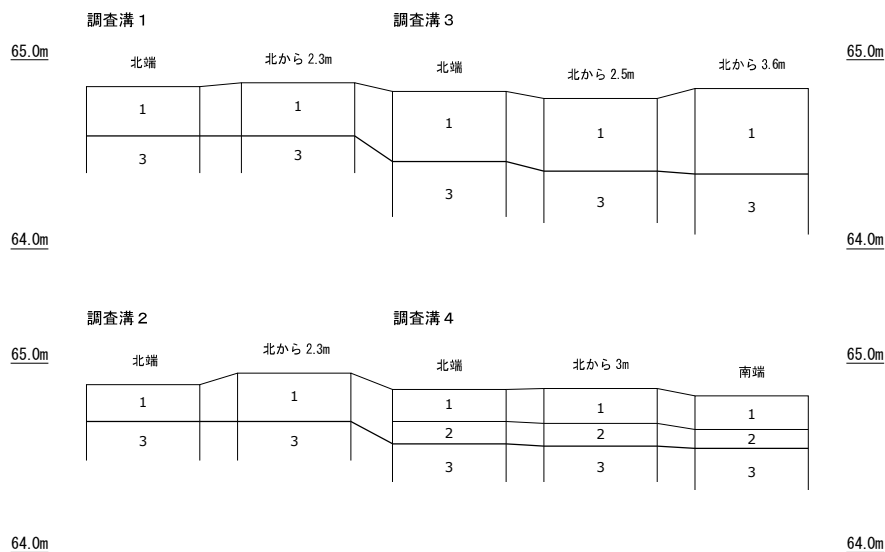
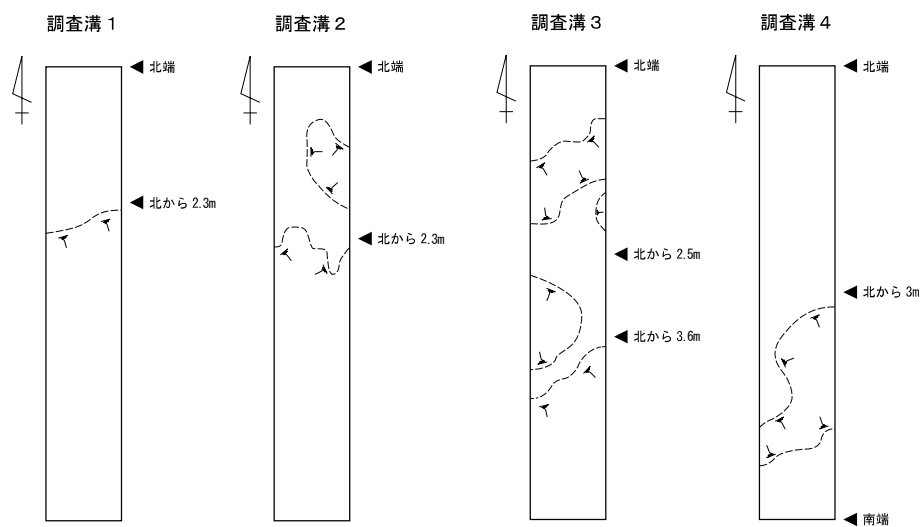
土層柱状図 (S=1/40)

29 ^{あらやいせき}新屋遺跡 4次

所在地 浜北区宮口 312-8
 調査期間 2020 年 10 月 28 日
 調査原因 宅地分譲 調査面積 24 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



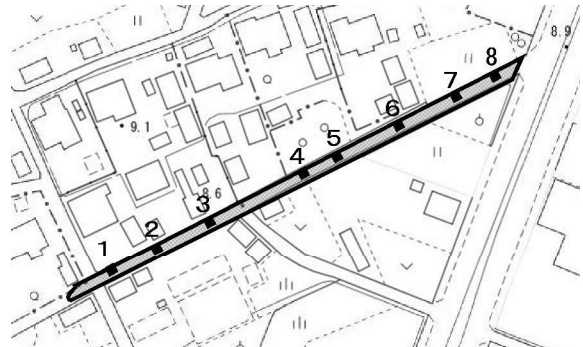
位置図 (2, 500分の1)



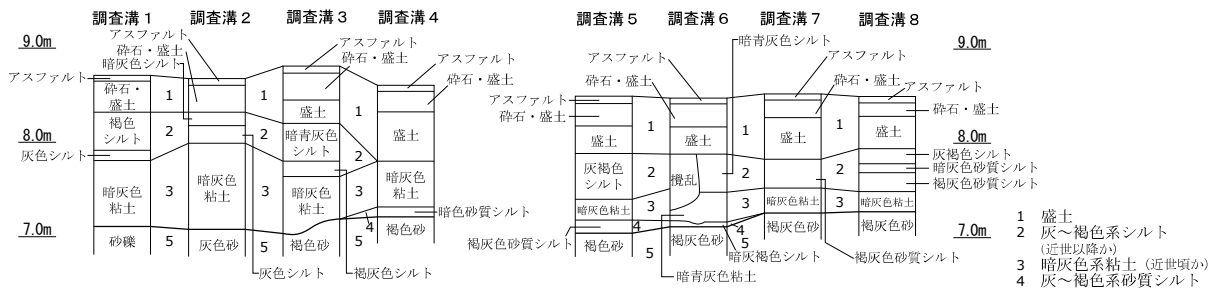
土層柱状図 (S=1/40)

30 ひがしはたやいせき 東畑屋遺跡 5 次

所在地 東区有玉南町 1311 付近
調査期間 2020 年 11 月 9 日～11 日
調査原因 側溝敷設 調査面積 32 m²
検出遺構 なし
出土遺物 灰釉陶器、山茶碗、土師器、陶器
調査結果 遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2, 500分の1)



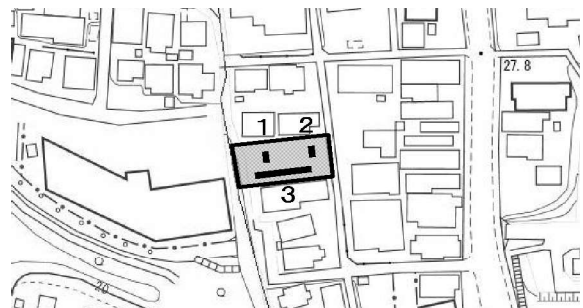
土層柱状図 (S=1/80)



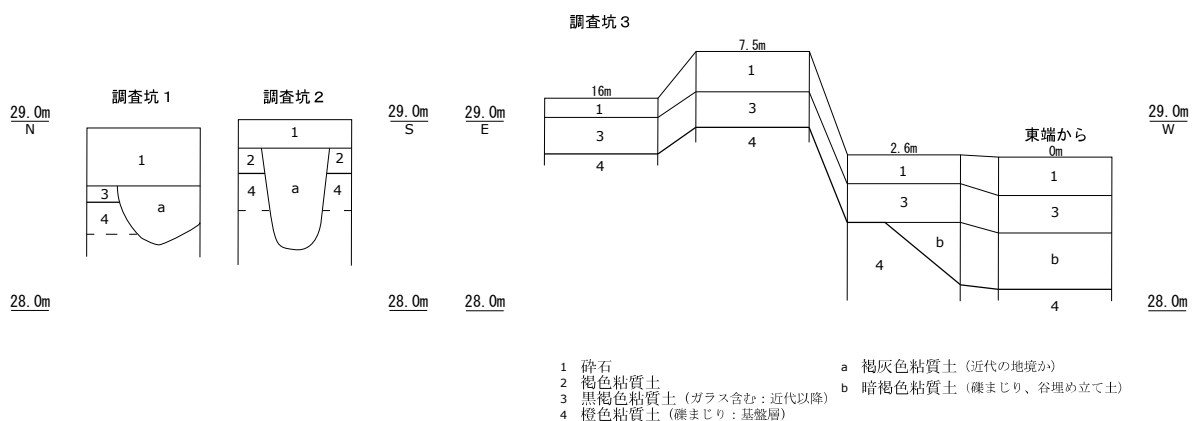
出土遺物実測図

31 はままつじょうかまちいせき 浜松城下町遺跡 16 次

所在地 中区鹿谷町 60 ー 5
調査期間 2020 年 11 月 24 日
調査原因 個人住宅建設 調査面積 10 m²
検出遺構 なし 出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
調査担当 和田達也



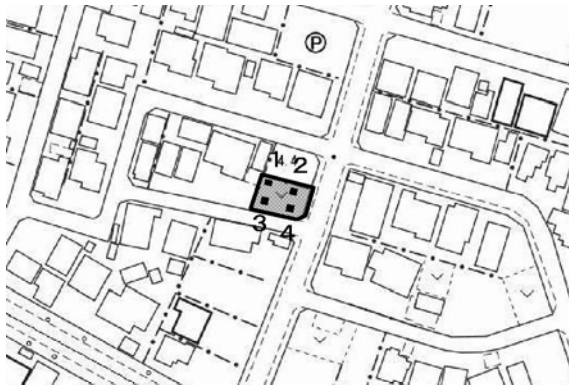
位置図 (2, 500分の1)



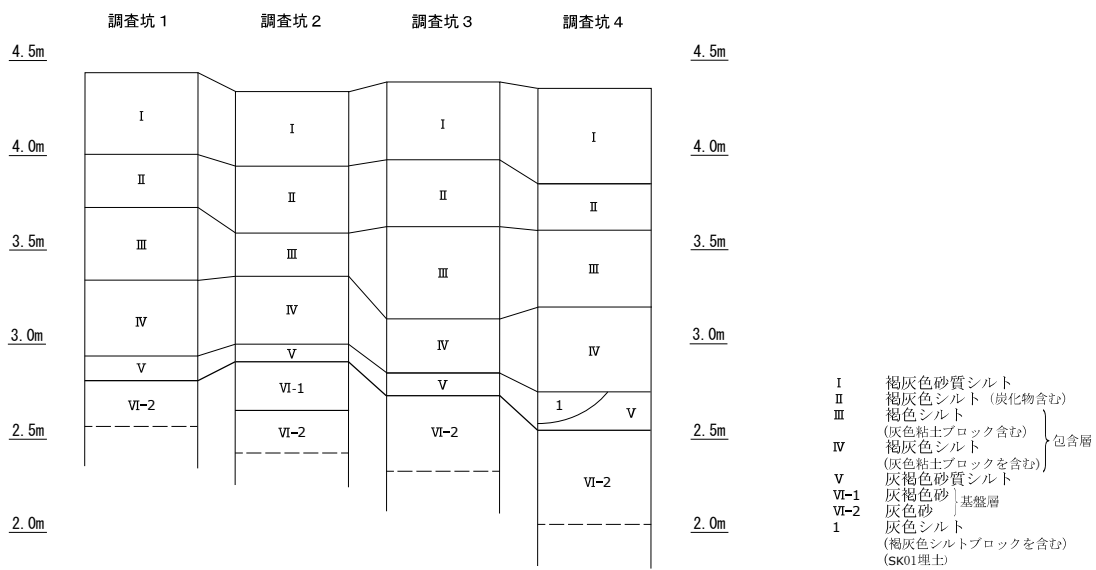
土層柱状図 (S=1/40)

32 ^{むくぎいせき}
棕木遺跡 7次

所在地	東区子安町 304-7 の一部		
調査期間	2020 年 12 月 7 日		
調査原因	個人住宅建設	調査面積	8 m ²
検出遺構	土坑		
出土遺物	土師器、灰釉陶器、山茶碗		
調査結果	遺構・遺物を確認した。遺跡の範囲内と考えられる。		
調査担当	川西啓喜		



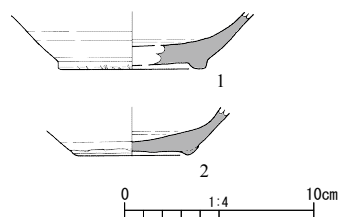
位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



調查坑 4 土層堆積狀況



1～2：中世陶器（山茶碗）
1：調査坑2出土 2：調査坑4出土

出土遺物実測図



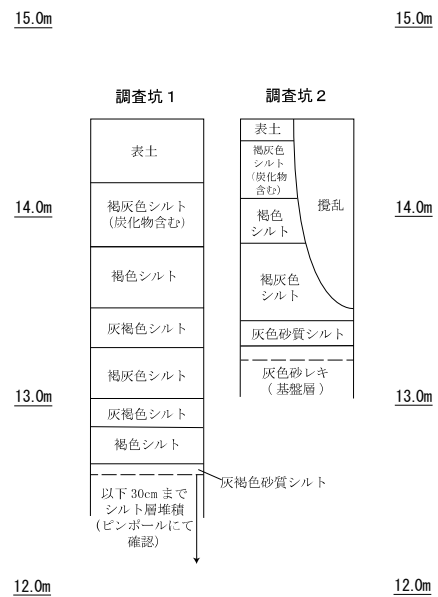
主な出土遺物

33 まんごくいせき 万斛遺跡 4 次

所在地 東区中郡町字万斛東 1552
調査期間 2020 年 12 月 18 日
調査面積 個人住宅建設 調査原因 5 m²
検出遺構 なし 出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)



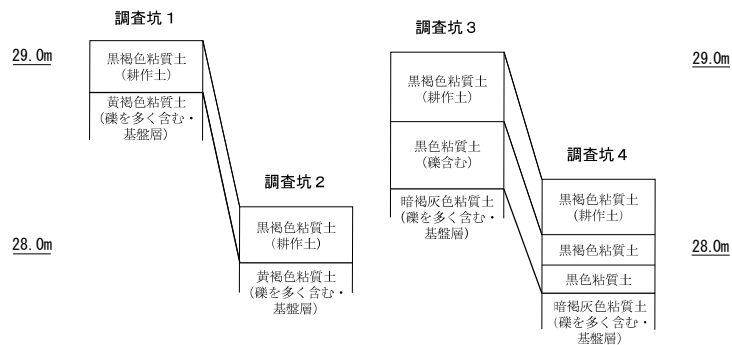
土層柱状図 (S=1/40)

34 とちくばみなみいせき 栃窪南遺跡 1 次

所在地 北区引佐町栃窪字窪屋 318-1
調査期間 2021 年 1 月 26 日
調査原因 個人住宅建設
調査面積 17 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺構、遺物ともに確認できなかった。
調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2,500分の1)



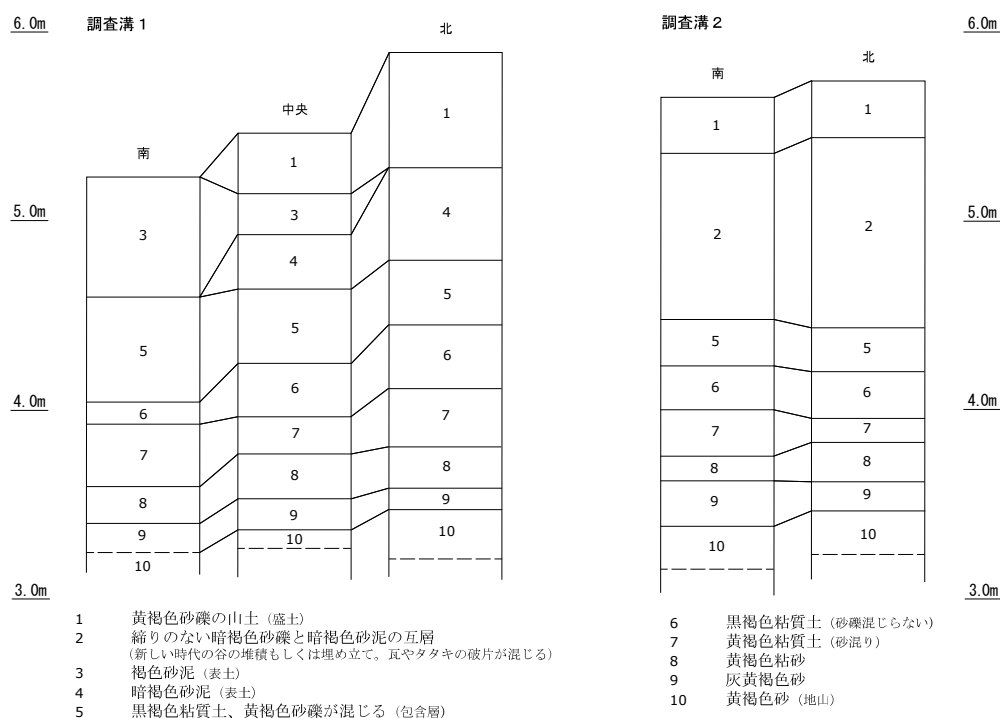
土層柱状図 (S=1/40)

35 ^{しとろちょうなかむらいせき} 志都呂町中村遺跡 4次

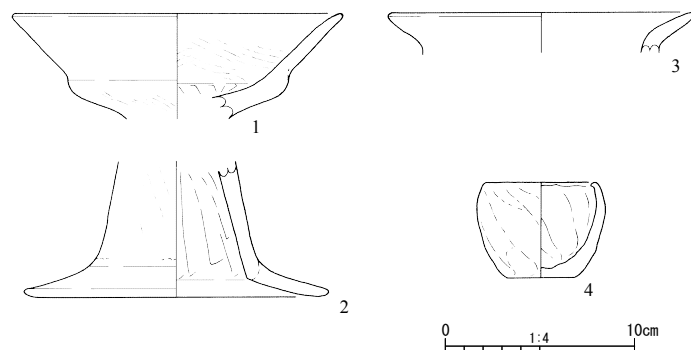
所在地 西区志都呂町字宮西 1107-1
 調査期間 2021年1月29日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 15 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器（壺、甕、高坏、手づくね土器ほか）、須恵器
 調査結果 遺構は確認されなかった。遺物の量、内容、出土状況から、遺跡範囲内であると考えられる。
 調査担当 栗原雅也



位置図 (2, 500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



1～2: 土師器 (高坏) 3: 土師器 (甕) 4: 土師器 (手づくね)
 1～4: 調査溝 2 出土

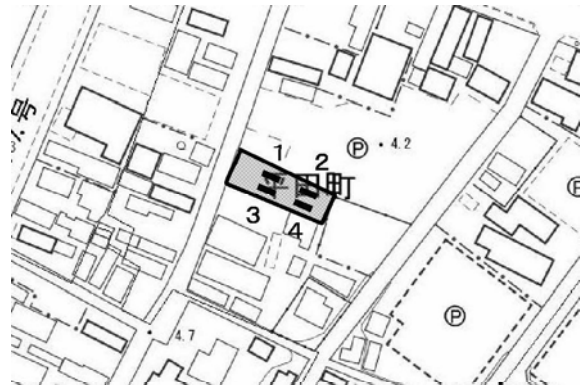
出土遺物実測図



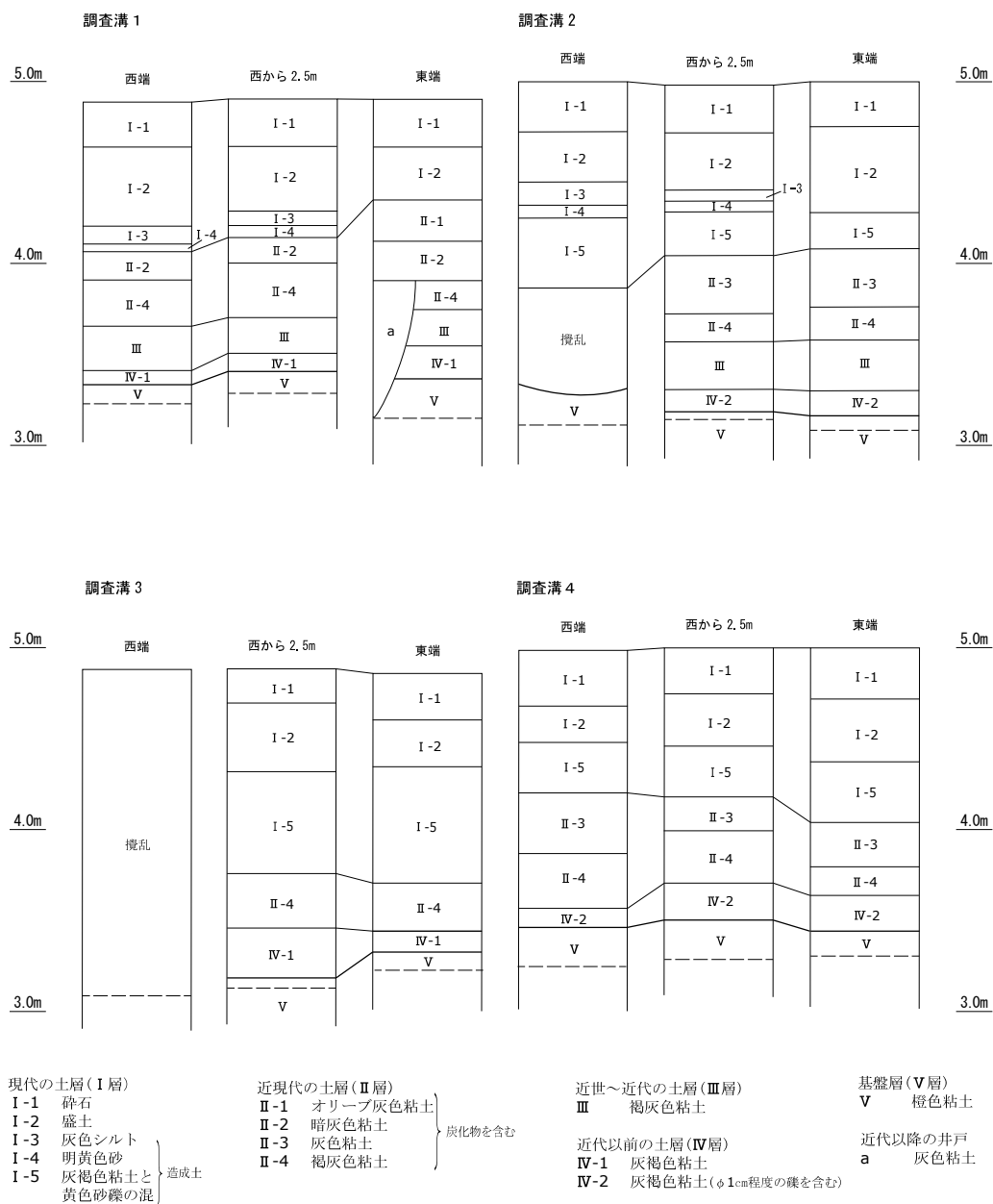
調査溝 1 完掘状況

36 はままつじょうかまちいせき
浜松城下町遺跡 17 次

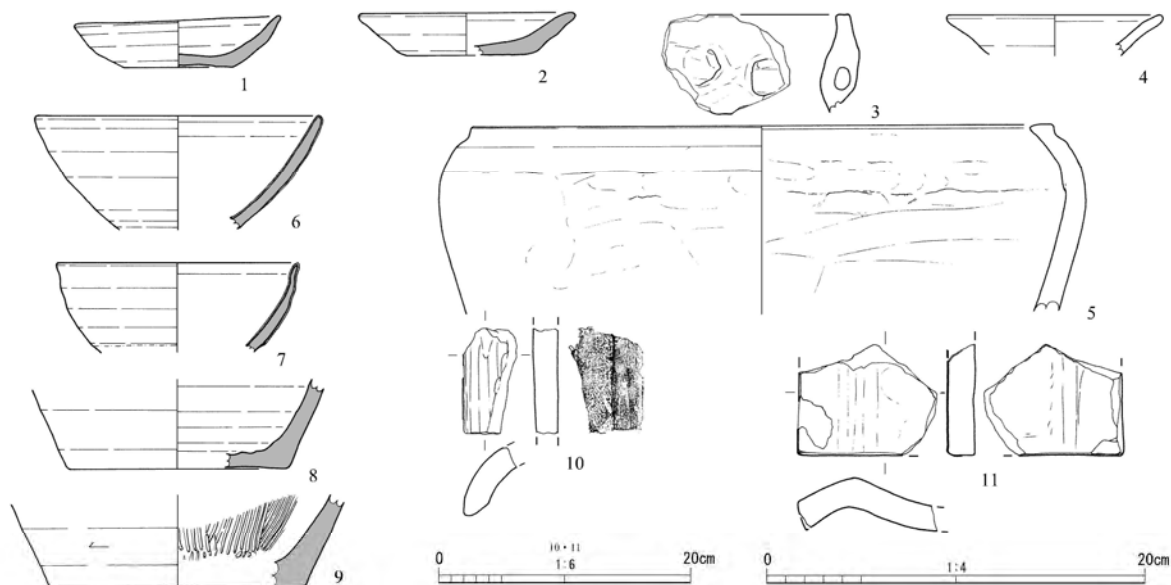
所在地 中区平田町 28、28-1 外
調査期間 2021 年 2 月 4 日
調査面積 集合住宅建設 調査原因 30 m²
検出遺構 なし
出土遺物 かわらけ、焙烙、瓦、すり鉢
調査結果 近世の遺物が確認されたが、遺構は
確認できなかった。遺跡の希薄な地
点と考えられる。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500 分の 1)



土層柱状図 (S=1/40)



1～2：中世陶器（山皿） 3：土師質土器（内耳鍋） 4：土師器（かわらけ） 5：土師質土器（鉢）
6：陶器（平碗） 7：陶器（天目茶碗） 8：陶器（壺） 9：陶器（楯鉢） 10：瓦（丸瓦） 11：瓦（平瓦）
1～11：調査溝2出土

出土遺物実測図



調査溝2西端土層堆積状況



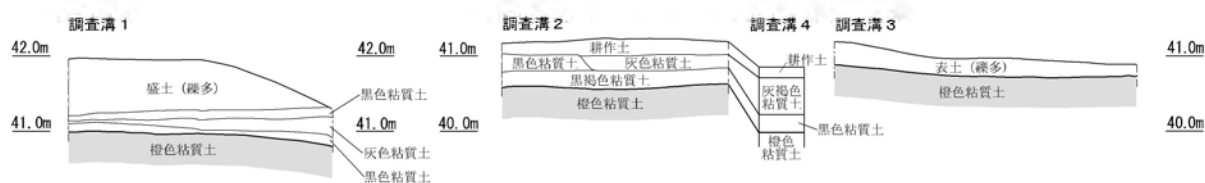
主な出土遺物

37 おんまがいけこふんぐん 御馬ヶ池古墳群5次

所在地 浜北区於呂 3520-1
調査期間 2021年2月16日
調査原因 個人住宅建設
調査面積 13 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
調査担当 鈴木京太郎



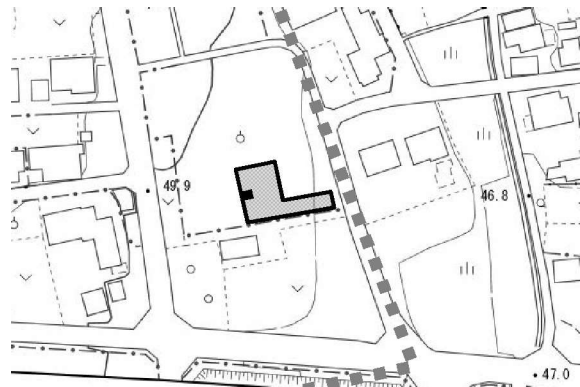
位置図 (2,500分の1)



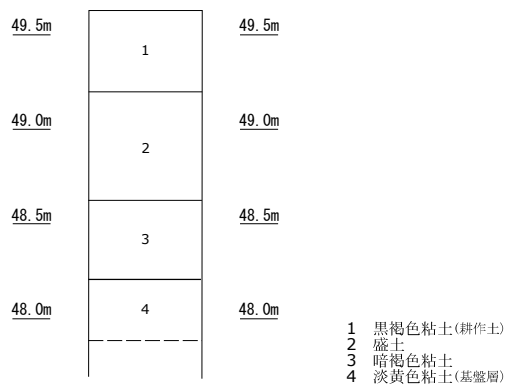
土層柱状図 (S=1/100)

なかやいせき
38 中屋遺跡 18 次

所在地 浜北区根堅字中屋 249-15
調査期間 2021 年 2 月 16 日
調査原因 浄化槽設置 調査面積 2 m²
検出遺構 なし 出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500 分の 1)



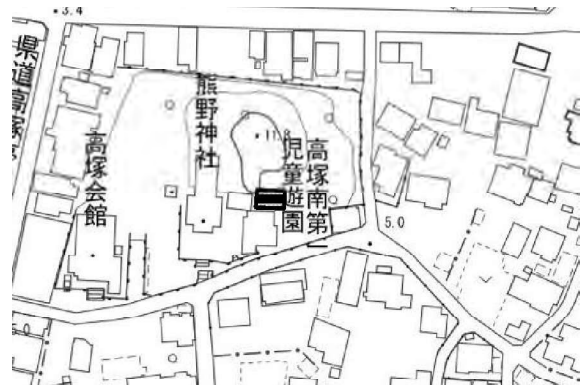
土層柱状図 (S=1/40)



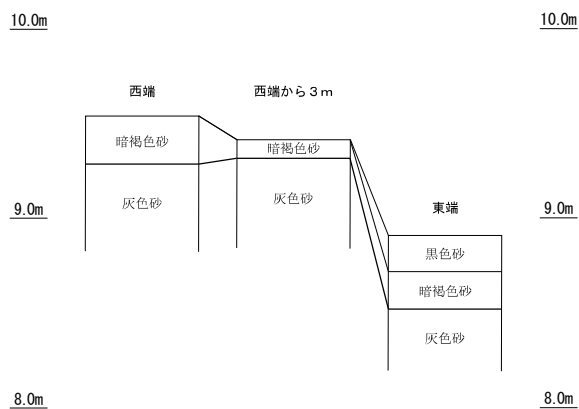
調査坑土層堆積状況

たかつかちょうむらにしいせき
39 高塚町村西遺跡 10 次

所在地 南区高塚町 4708
調査期間 2021 年 2 月 24 日
調査原因 社務所建設 調査面積 6 m²
検出遺構 なし 出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
調査担当 井口智博



位置図 (2, 500 分の 1)



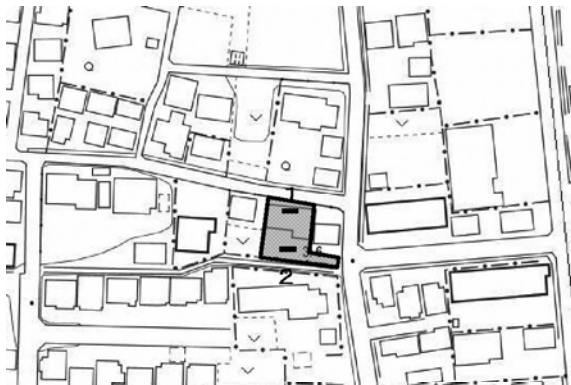
土層柱状図 (S=1/40)



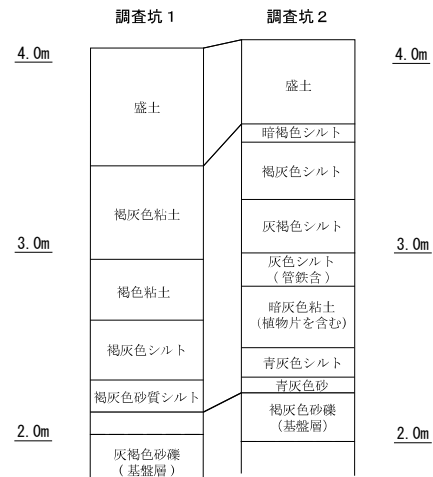
調査溝完掘状況

40 ^{かみぐみいせき} 上組遺跡 4 次

所在地 南区渡瀬町字村中 377-1 外
 調査期間 2021 年 3 月 1 日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 6 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 中世陶器、土師器土器
 調査結果 当該地は遺跡の縁辺部にあたると考
 えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500 分の 1)



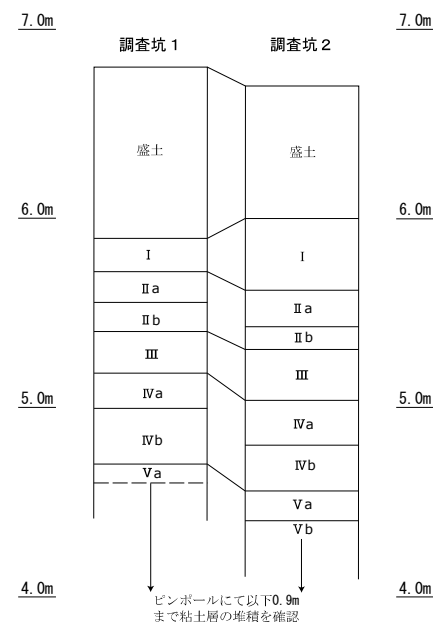
土層柱状図 (S=1/40)

41 ^{かみあらやいせき} 上新屋遺跡 6 次

所在地 東区上新屋町 200-14
 調査期間 2021 年 3 月 4 日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 5 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器
 調査結果 土師器は出土したが、遺構は確認で
 きなかった。遺跡の希薄な地点と考
 えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500 分の 1)



I 灰色粘土
 II a 褐色粘土
 II b 暗褐色粘土
 III 灰褐色粘土
 IV a 褐色砂
 IV b 灰色砂
 V a 灰色シルト
 V b 灰色粘土

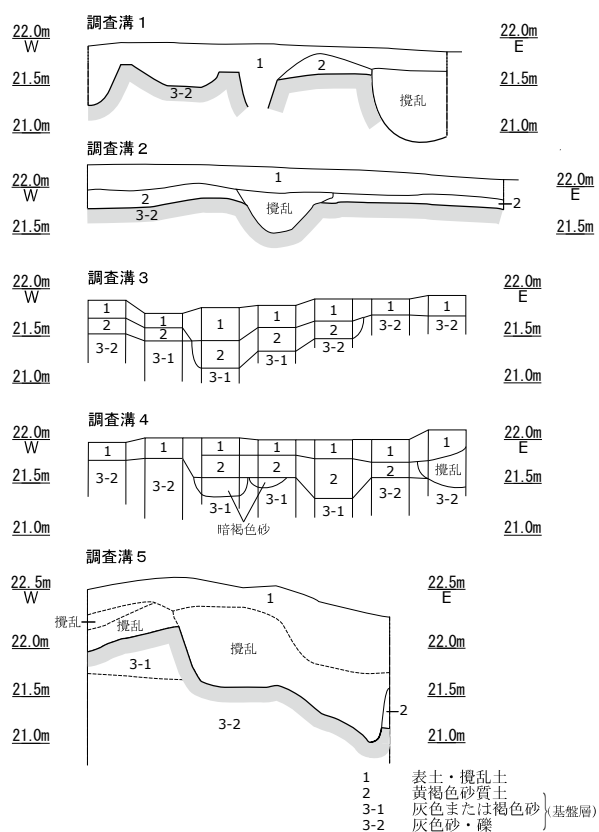
土層柱状図 (S=1/40)

42 天^{てん}宝^{ぼう}堤^{づつみ}（隣^{りん}接^{せつち}地）1次

所在地 浜北区道本地内
調査期間 2021年3月9日、10日
調査原因 土地区画整理
調査面積 76 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺構、遺物ともに確認できなかった。
調査担当 鈴木京太郎



位置図（5,000分の1）



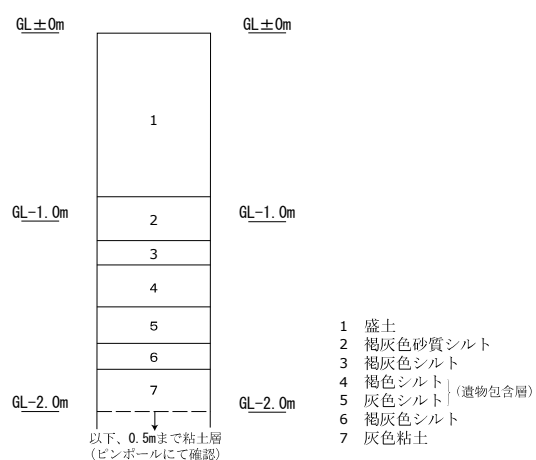
土層柱状図 (S=1/80)

43 恒^{つね}武^{たけ}西^{にし}宮^{みや}遺^い跡^{せき} 31次

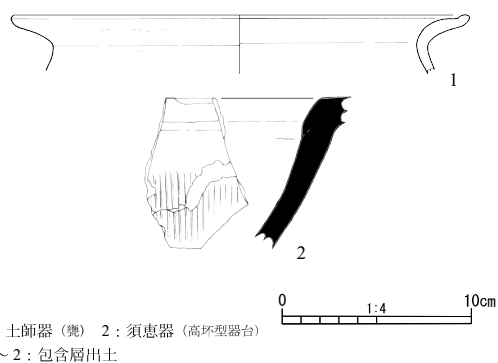
所在地 東区貴平町字東屋敷 1614、1615 外
調査期間 2021年3月8日
調査原因 浄化槽設置
調査面積 2 m²
検出遺構 なし
出土遺物 土師器、須恵器
調査結果 遺物はわずかに出土したが、遺構は確認できなかった。
調査担当 川西啓喜



位置図（2,500分の1）



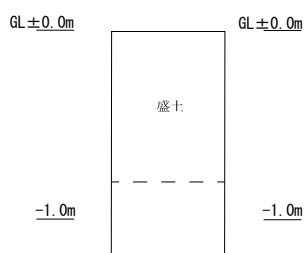
土層柱状図 (S=1/40)



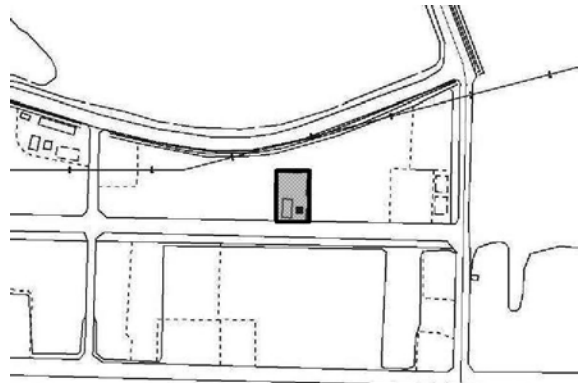
出土遺物実測図

44 やなぎのうちいせき 柳ノ内遺跡 6次

所在地 西区馬郡町字八幡池 5504 番
調査期間 2021 年 3 月 22 日
調査原因 無線基地局設置
調査面積 2 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当 鈴木京太郎



土層柱状図 (S=1/40)



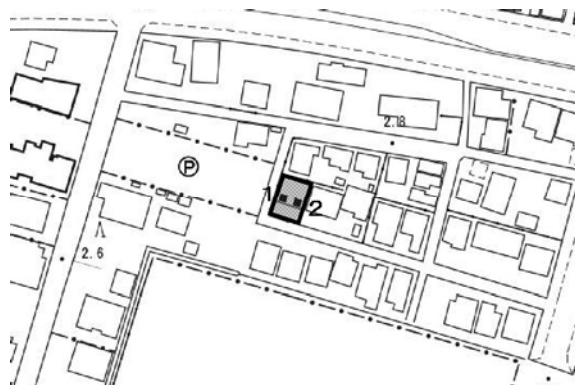
位置図 (2, 500分の1)



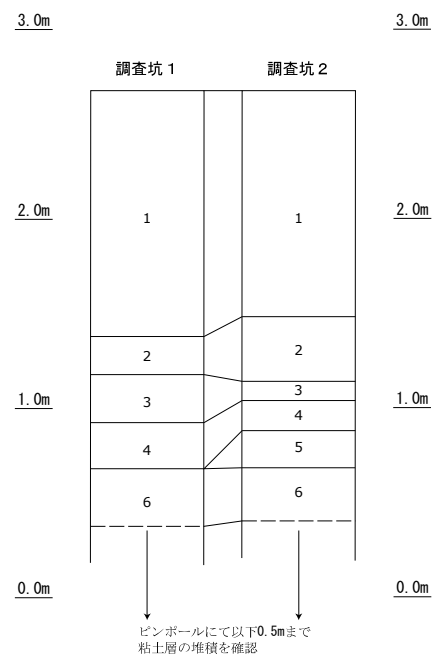
調査坑完掘状況

45 さんえいいいせき 三永遺跡 8次

所在地 中区西伊場町 2067-11
調査期間 2021 年 3 月 29 日
調査原因 個人住宅建設
調査面積 8 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2, 500分の1)



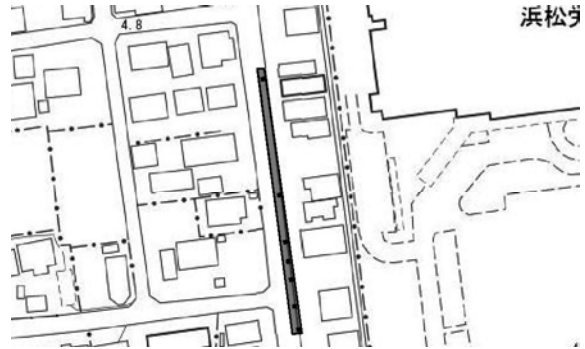
- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 盛土 | 4 灰色粘土 (植物片を含む) |
| 2 暗灰色粘土 | 5 青灰色粘土 |
| 3 黒色シルト (植物片を多量に含む) | 6 黒灰色粘土 |

土層柱状図 (S=1/40)

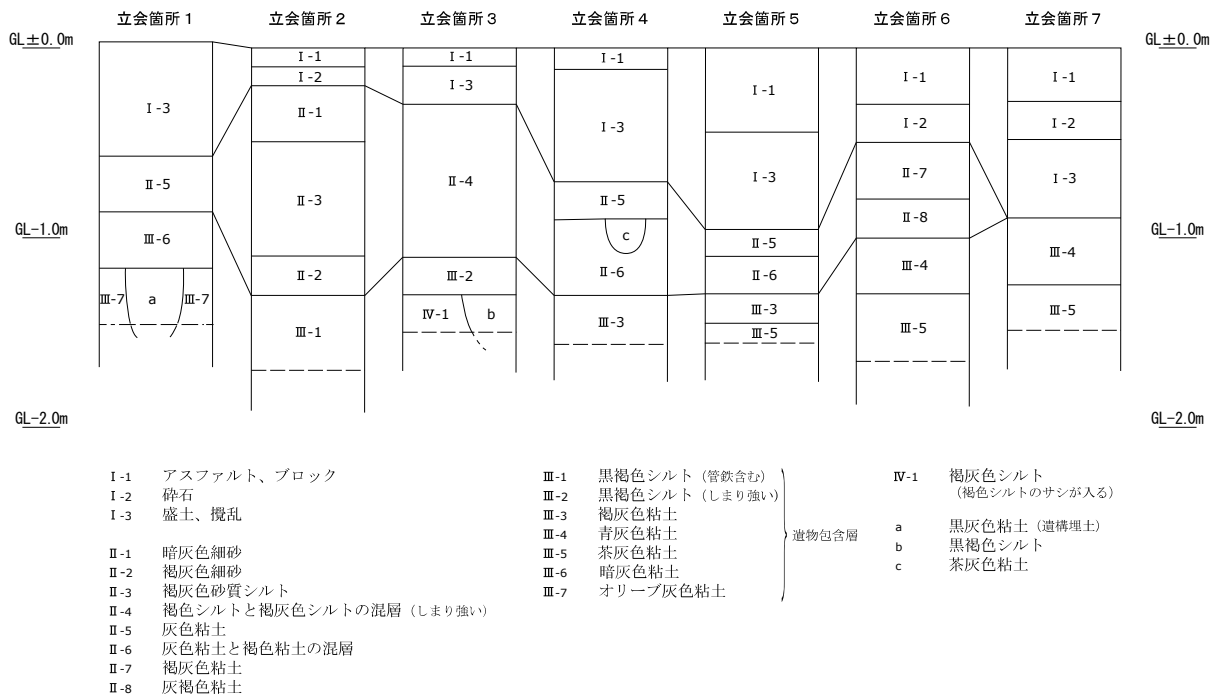
工事立会報告

1 しょうげんみょういせき 将監名遺跡

所在地 東区将監町 16-1 地先
立会日 2020年3月26日、4月8日～6月17日
調査原因 側溝改良
検出遺構 土坑か
出土遺物 弥生土器、須恵器
立会結果 全ての立会箇所において、弥生土器を確認した。



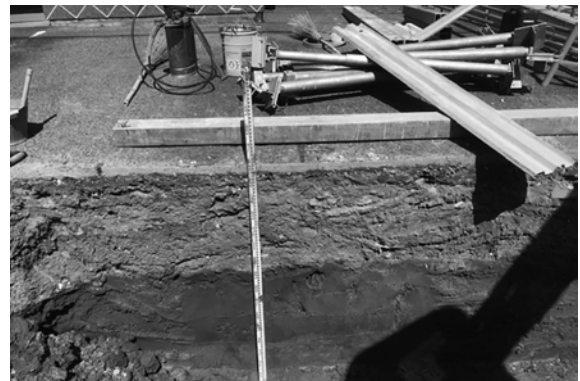
位置図 (2,500分の1)



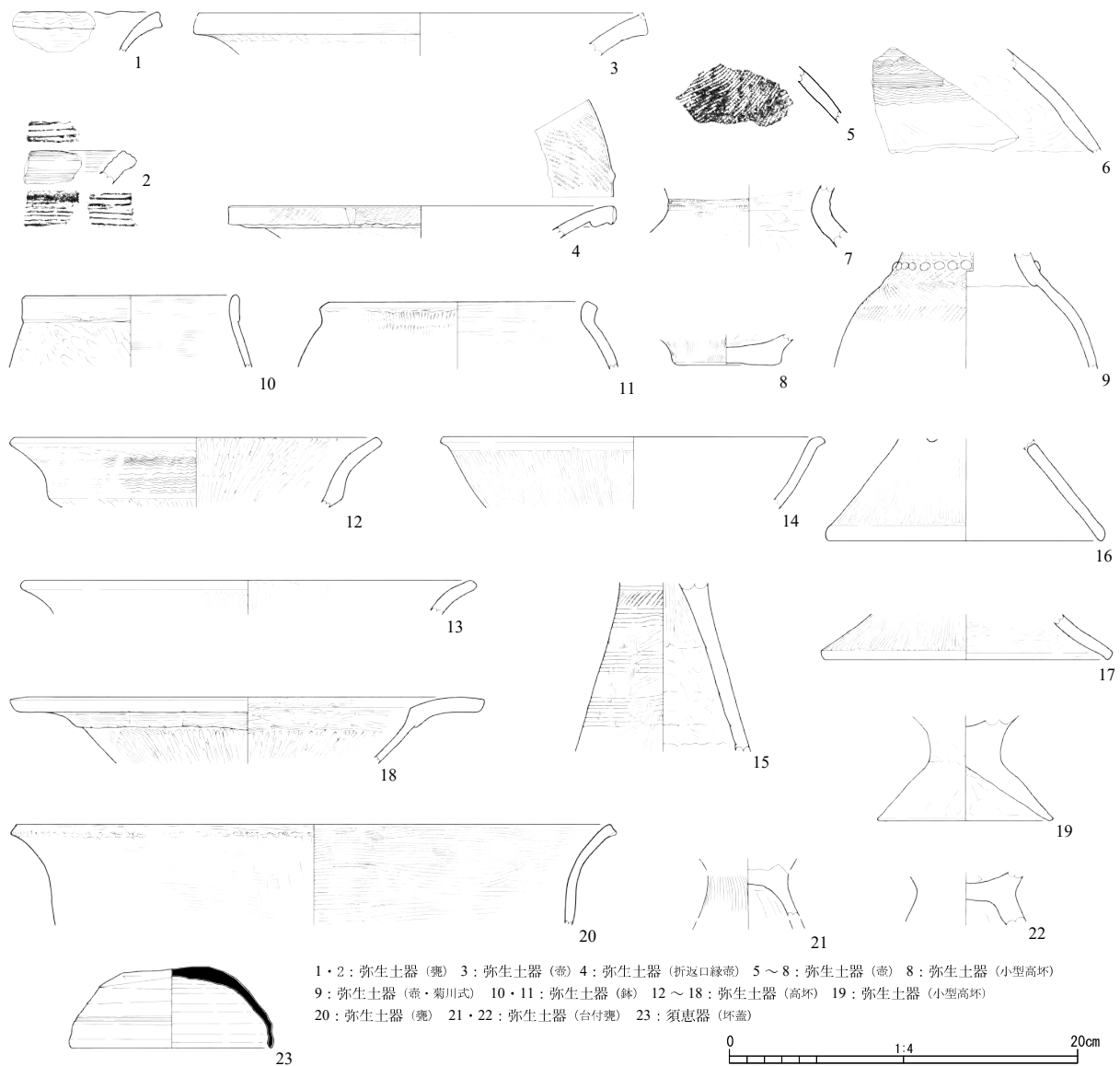
土層柱状図 (S=1/40)



立会箇所 2 土層堆積状況



立会箇所 3 土層堆積状況



出土遺物実測図

48 笠井若林遺跡

所在地 東区笠井町字若林 1496-1

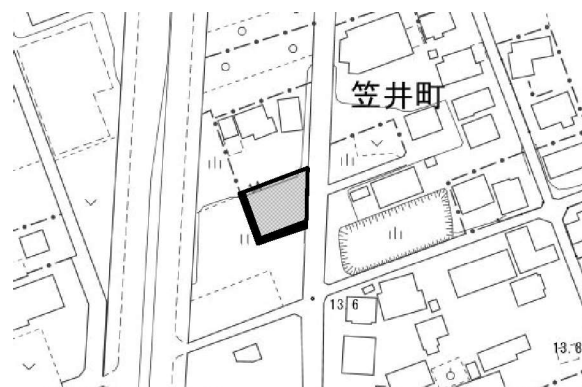
立会日 2020年10月19日

調査原因 擁壁設置

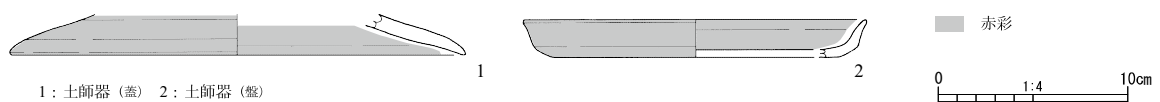
検出遺構 なし

出土遺物 土師器、山茶碗、染付

立会結果 今回の立会調査で確認した3層は、当該地から南に50m離れた8次調査の3層（古代）と同じ層と捉えられる。



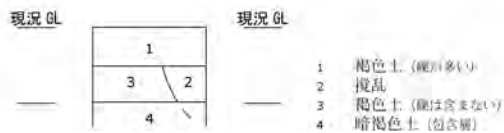
位置図 (2,500分の1)



出土遺物実測図

56 つねたけにしみいせき
恒武西宮遺跡

所在地 東区恒武町字蔵前 245-1
立会日 2020年11月10日
調査原因 個人住宅建設
検出遺構 なし
出土遺物 須恵器の坏（奈良時代）
立会結果 古代、中世の包含層を確認した。



土層柱状図 (S=1/40)



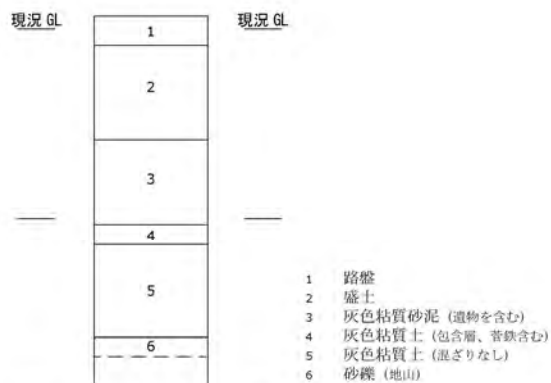
位置図 (2,500分の1)



出土遺物実測図

80 べっしょまえいせき
別所前遺跡

所在地 東区市野町 2220-1 地先
立会日 2021年2月4日
調査原因 水道管埋設
検出遺構 なし
出土遺物 土師器（古墳時代）
立会結果 周知の別所前遺跡の範囲の北側で包含層を確認した。



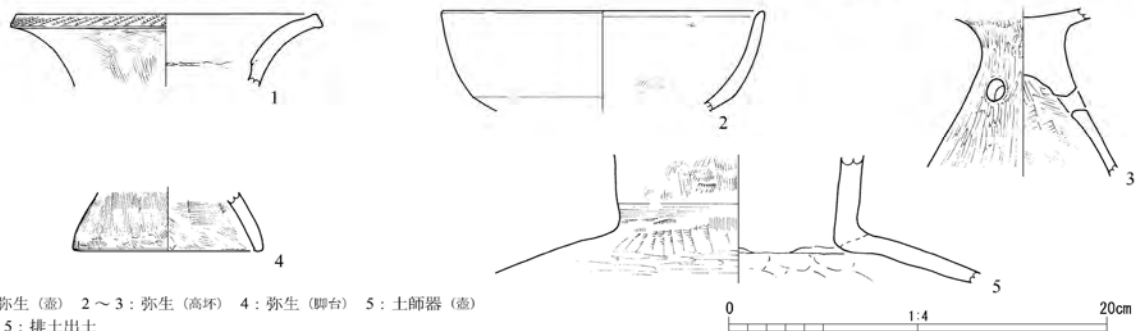
土層柱状図 (S= 1/40)



位置図 (2,500分の1)



遺物出土状況



出土遺物実測図

97 こうみょうさんこふんぐん
光明山古墳群

所在地 天竜区山東 2878

立会日 2021年2月26日

調査原因 工作物撤去

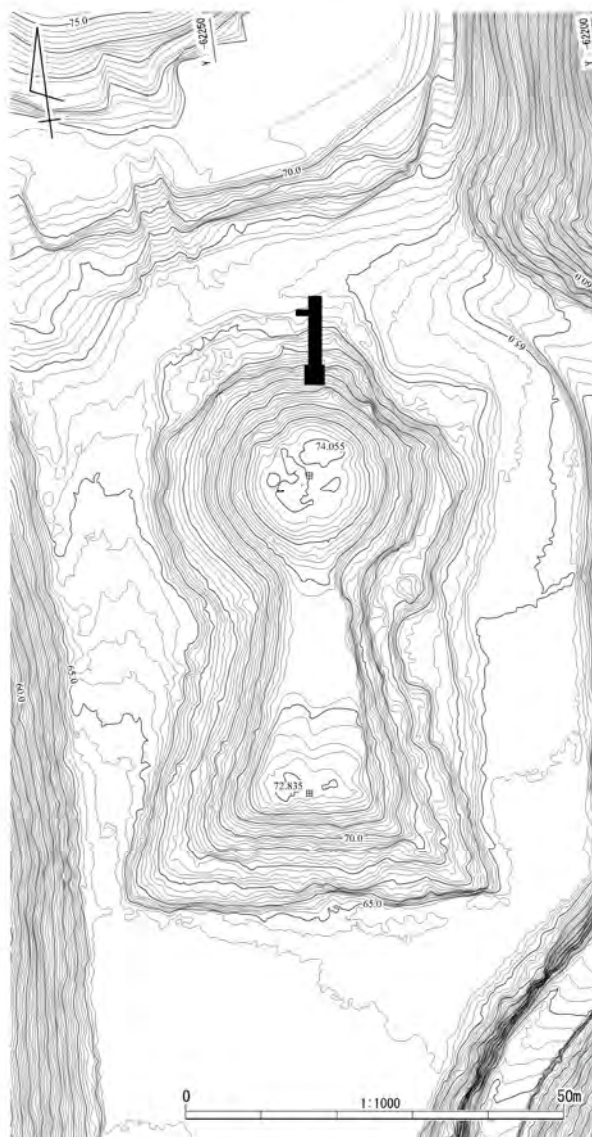
検出遺構 古墳

出土遺物 埴輪

立会結果 円筒埴輪の破片を確認した。円筒埴輪のうち底部片は段を有さない構造のものである。



位置図 (2,500分の1)



光明山古墳群埴丘墓



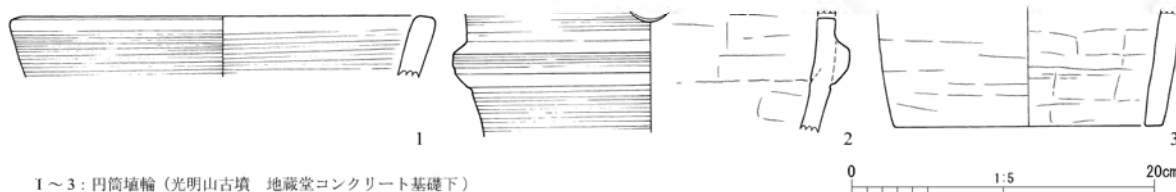
着手前 (北から)



完了後 全景 (北から)



完了後 近景 (北から)



1～3: 円筒埴輪 (光明山古墳 地藏堂コンクリート基礎下)

出土遺物実測図

第4章 詳細報告

1 木船廃寺跡 14・15 次調査報告

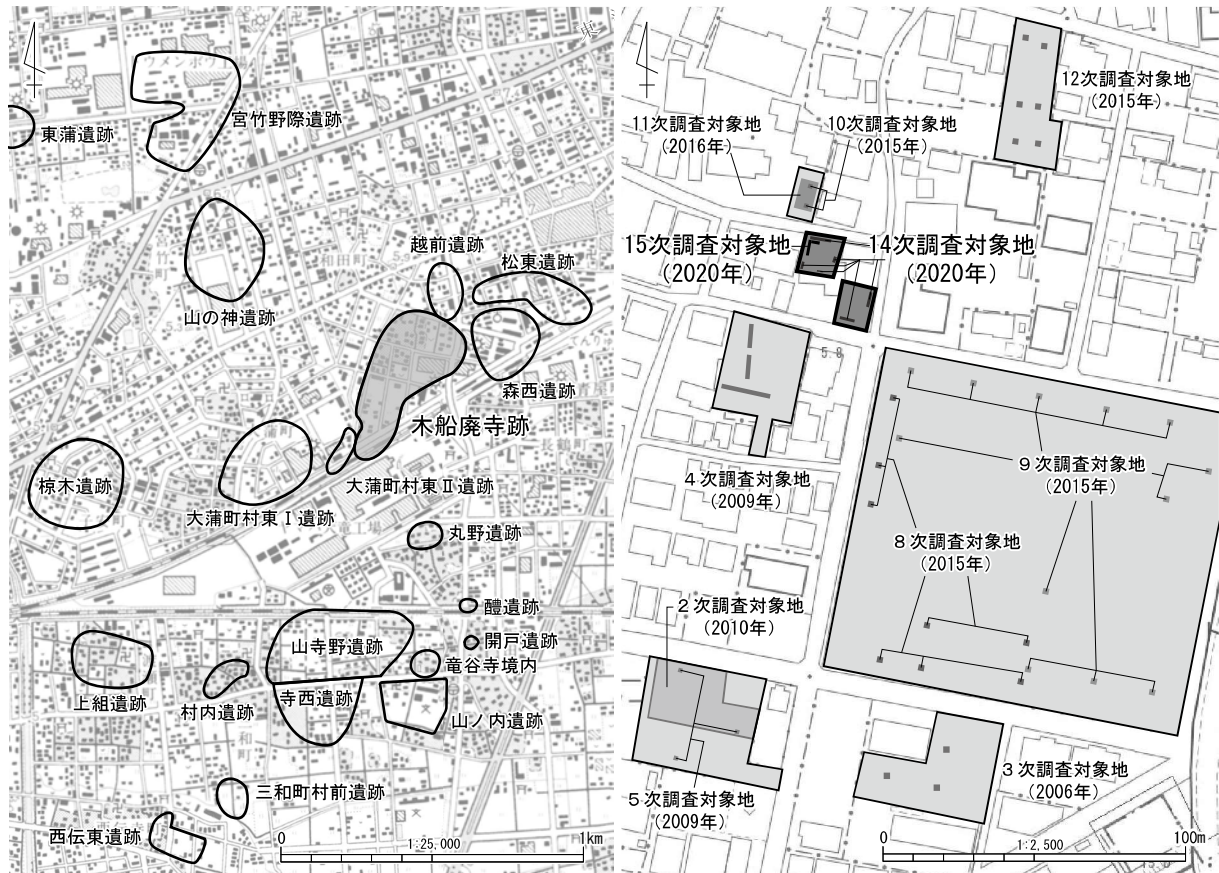
(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要 木船廃寺跡は、天竜川右岸に広がる沖積平野上に展開する白鳳期に創建された古代寺院にかかわる遺跡である。1954年に区画整理に伴う道路工事現場から大量の瓦が採集されたことにより広く知られることとなった。今回の調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地の北側に位置し、周辺は宅地化が進行している。

当遺跡では、これまでに13次にわたり発掘調査が行われている。これまでの調査では伽藍跡は確認されていないが、2010年に実施した2次調査では、白鳳期～奈良時代の瓦が大量に出土し、建物跡の存在が想定された。また、今回の調査対象地の北側隣接地において2015年に実施した11次調査では、古代瓦の他に鎌倉時代～江戸時代を中心とした遺構・遺物が多く確認されている。

調査経緯 2020年に木船廃寺跡の埋蔵文化財包蔵地内において個人住宅新設の計画が浮上したため、遺跡の埋没状況を確認するため2020年4月に確認調査を実施した（14次調査）。確認調査の結果、対象地内の全域において奈良時代～江戸時代の遺構・遺物が確認された。こうした結果を受けて開発事業者と協議を行った結果、開発行為によって遺跡の保護が図れない建物の一部を対象として本発掘調査を実施した（15次調査）。

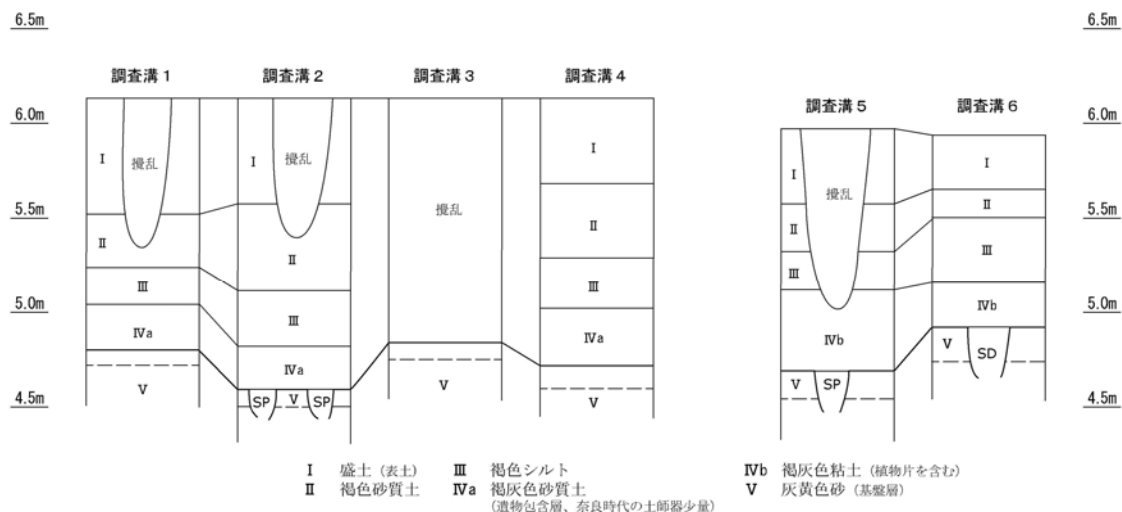
本発掘調査は2020年4月7日に実施した。調査対象面積は8㎡である。



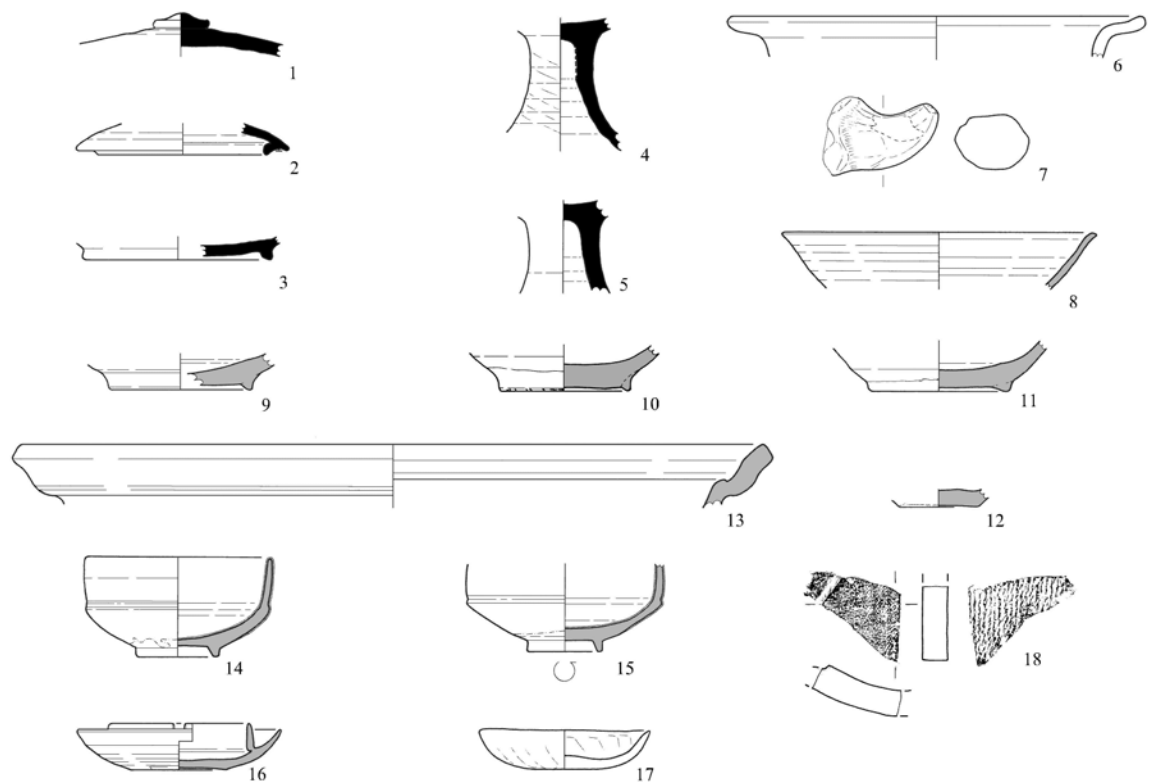
第1図 木船廃寺跡の位置と調査の状況

(2) 14次調査の成果

土層堆積状況 各調査溝においておおむね近似した土層堆積状況を確認した。上層よりⅠ層：盛土（表土）、Ⅱ層：褐色砂質土、Ⅲ層：褐色シルト、Ⅳ層：褐灰色粘土～砂質土、Ⅴ層：灰黄色砂（基盤層）の順に確認した。Ⅱ・Ⅲ層内には一定量の奈良時代～江戸時代の遺物が含まれる。Ⅳ層は奈良時代～鎌倉時代の遺物包含層と考えられるが、Ⅱ・Ⅲ層と比較すると遺物量は少ない。



第2図 14次調査土層柱状図



1～3：須恵器（坏蓋・坏身） 4～5：須恵器（高坏） 6：土師器（甕） 7：土師器（把手）
8：灰釉陶器（碗） 9～11：中世陶器（山茶碗） 12：中世陶器（山皿） 13：陶器（描鉢）
14～15：陶器（碗） 16：陶器（灯明皿） 17：土師器（皿） 18：瓦

1：調査坑5出土 2：調査坑1出土 3：調査坑4出土 4～5：調査坑2出土 6：調査坑4出土
7：調査坑2出土 8：調査坑5出土 9：調査坑2出土 10：調査坑5出土 11：調査坑1出土
12～13：調査坑3出土 14～15：調査坑1出土 16～18：調査坑5出土

0 1:4 20cm

第3図 14次調査出土遺物実測図

検出遺構 調査溝 2・5・6 において基盤層から掘り込まれた小穴を確認した。いずれの小穴からも遺物は確認されなかったため、帰属時期は不明である。

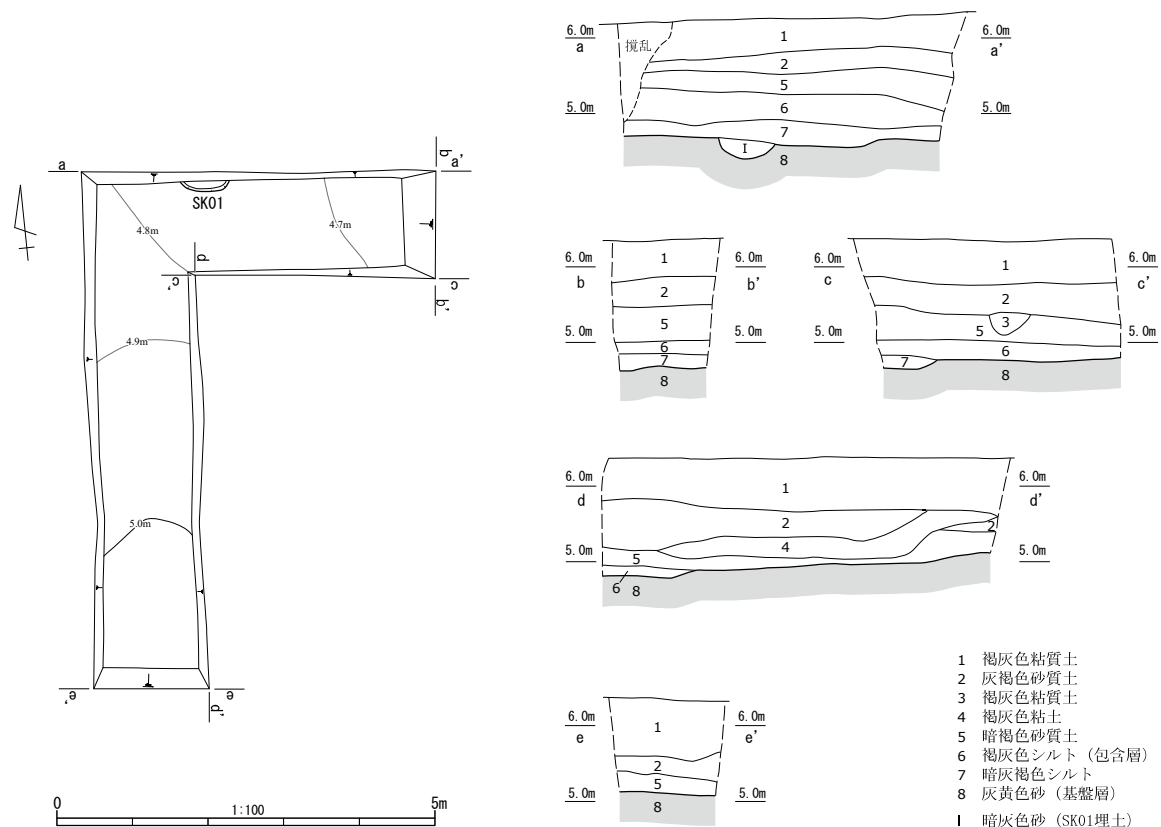
出土遺物 出土した遺物を第 3 図に示す。いずれも奈良時代～江戸時代にかけてのものである。1～5 は須恵器である。1・2 は摘蓋、3 は有台坏身、4・5 は高坏である。いずれも 7～8 世紀代のものと捉えられる。6 は土師器の甕、7 は土師器の把手である。8 は灰釉陶器の碗、9～11 は山茶碗、12 は山皿である。13 はすり鉢、14・15 は碗、16 は燈明皿である。いずれも 18～19 世紀代のものと捉えられる。17 はかわらけである。18 は平瓦である。凹面に布目、凸面に叩き目が認められる。

小 結 14 次調査の結果、奈良時代～鎌倉時代の遺物包含層（Ⅳ層）と小穴を確認した。Ⅱ・Ⅲ層においては、近代の遺物が混じるものの奈良時代～江戸時代の遺物を確認したことから、当該地周辺に同時代の遺跡が展開していると考えられる。

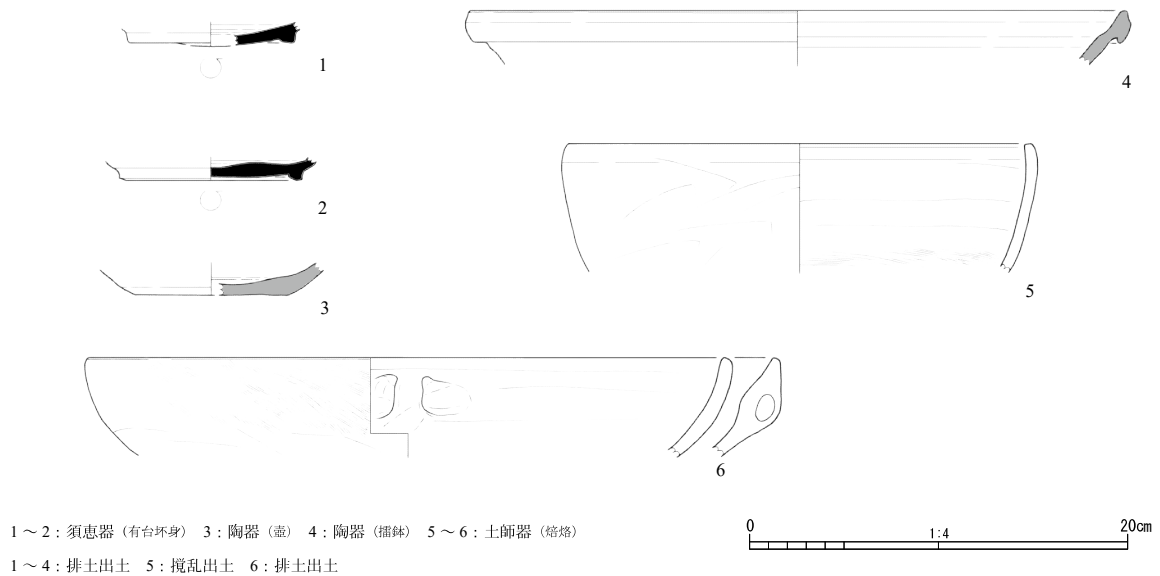
（3）15 次調査の成果

土層堆積状況 調査区内における土層堆積状況は 14 次調査の成果と近似している。基本層序は上層より、褐灰色粘質土（表土）、灰褐色粘質土、暗褐色砂質土、褐灰色シルト（奈良時代～鎌倉時代の遺物包含層）、灰黄色砂（基盤層）の順である。調査区内における基盤層は南から北側に向かって低くなり、基盤層の低い北側では、基盤層直上に暗灰褐色シルトの堆積が認められた。

検出遺構 調査区の北側で土坑（SK01）1 基を検出した。SK01 の大半は調査区外へと延びているため本来の規模は不明であるが、検出面で長辺約 90cm、短辺約 20cm、深さ約 25cm を測る。埋土は褐灰色砂の単層である。SK01 の埋土から内耳鍋の小破片が 1 点出土した。遺物量が僅かであるため帰属時期の決定には慎重にならざるを得ないが、出土した遺物から戦国時代の遺構と捉えられる。



第 4 図 15 次調査平面図及び土層断面図



第5図 15次調査出土遺物

出土遺物 出土した遺物は完形となるものは無く小破片のみであったが、図化できたものを第5図に示す。1・2は須恵器の有台坏身である。形態的特徴から8世紀代のものと考えられる。3は陶器の壺である。4はすり鉢であり、形態的特徴から17世紀代のものと考えられる。5は半球型内耳鍋である。外面板ナデ調整、内面ハケ調整が認められる。6は焙烙である。外面ハケ調整が認められる。5・6は17世紀代のものと考えられる。

小 結 15次調査の結果、奈良時代～江戸時代にかけての遺物と戦国時代と考えられる土坑1基を確認した。調査面積が僅かであるため遺跡の様相は不明な点が多いが、対象地の北側に奈良時代～江戸時代の遺跡が展開していると考えられる。

（3）結 語

14・15次調査の結果、奈良時代～江戸時代の遺構・遺物を確認した。奈良時代～鎌倉時代の包含層中に含まれる遺物や検出した遺構は高密度とはいえないものの、包含層の上層からは近代の遺物に混じり、奈良時代～江戸時代の遺物が多く出土したことから、近隣に遺跡の中心があると想定される。当該地の北側近接地において実施した11次調査では、鎌倉時代と江戸時代の遺構・遺物が高密度に残存していることが確認されている。以上のことから、当該地は遺跡の縁辺部にあたり、遺跡の中心は北側にかけて存在すると考えられる。

（川西啓喜）

【参考文献】

財団法人浜松市文化振興財団 2011『木船庵寺跡2次』

静岡県教育委員会 1978「浜松市木船遺跡」『静岡県埋蔵文化財調査報告』第18集

浜松市教育委員会 2017『平成27年度 浜松市文化財調査報告』

2 天白遺跡 7 次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要（第 6 図） 天白遺跡は井伊谷の盆地の北縁に位置し、神宮寺川北岸の丘陵上に所在する遺跡である。遺跡の東半は菓師山と呼ばれるなだらかな笠形の丘で、山頂の標高 42.8m、今回の調査地点との比高 19.6m である。山頂は、古墳時代から鎌倉時代にかけて磐座祭祀が営まれた天白磐座遺跡（注 1）（辰巳他 1992）である。遺跡の東から南にかけて隣接する北神宮寺遺跡は、2003 年から 2007 年にかけて発掘調査が行われ、弥生時代の集落と方形周溝墓群、古墳時代前期の集落と方形周溝墓群、15 世紀後半以降、江戸時代にかけての集落などを調査（鈴木 2009）している。

天白遺跡の発掘調査は、天白磐座遺跡の調査を最初として、6 次 にわたり行われた。3 次調査（注 2）では古墳時代前期の方形周溝墓 2 基と戦国時代以降の小穴状遺構（井口 2011）、5 次調査では古墳時代前期の竪穴住居址と土坑、中世の溝と小穴を調査した。北神宮寺遺跡で検出された同様な時期の遺構の分布範囲とは 40m ないし 90m の至近距離に位置し、両遺跡は一連の遺跡であろうと評価されている。

調査経緯 2020 年 3 月、個人専用住宅の建設が計画されたため、3 月 9 日の予備調査（6 次調査）を経て、協議の結果、遺跡の保護に影響を及ぼすと考えられる建物敷地部分の発掘調査を実施した。

(2) 調査の詳細

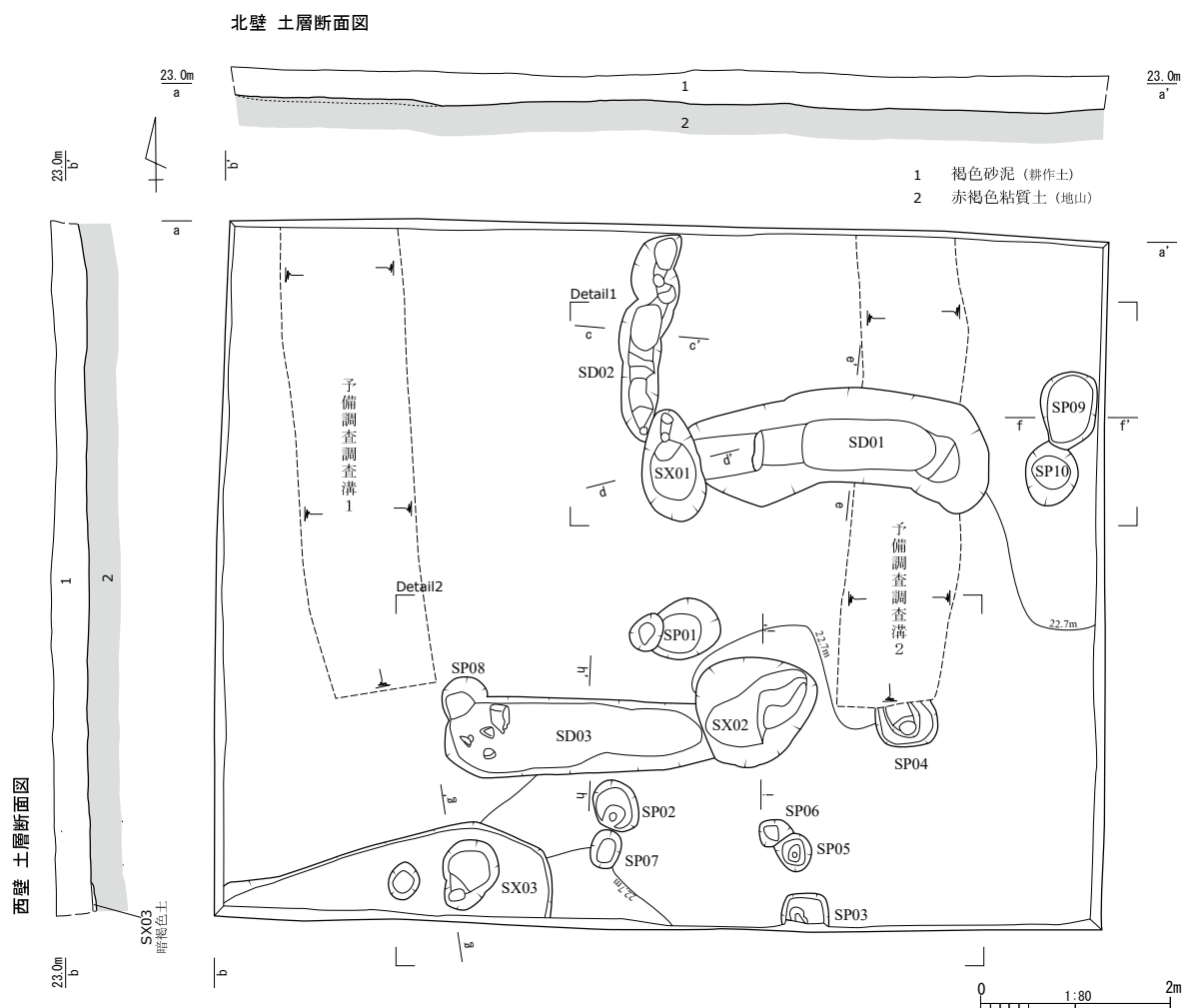
調査の方法と経過 調査区（第 7 図）は、東西 9.3m、南北 7.4m である。予備調査（6 次調査）により遺物包含層は認められないこと、遺構面は地山上面であることを確認していた。そこでバックホーで表土層を掘削した後、人力で遺構面を検出し、平面的な調査を実施した。調査期間は、4 月 21 日から 24 日までの 4 日間である。

土層堆積状況 表土直下で地山面が露出（第 7 図）する。遺構は地山面で検出した。

遺構と遺物 溝状遺構 3 箇所、柱穴状遺構 4 箇所、小穴状遺構 6 箇所、土坑状遺構 3 箇所を検出（第 7 図）した。検出面の埋土の状態では分類すれば、黒褐色土が顕著な SD01、暗灰褐色土の SP01～04、



第 6 図 天白遺跡の位置と調査の状況



暗褐色土の SD02、03、SP05 ～ 10、SX01 ～ 03 に分類できる。

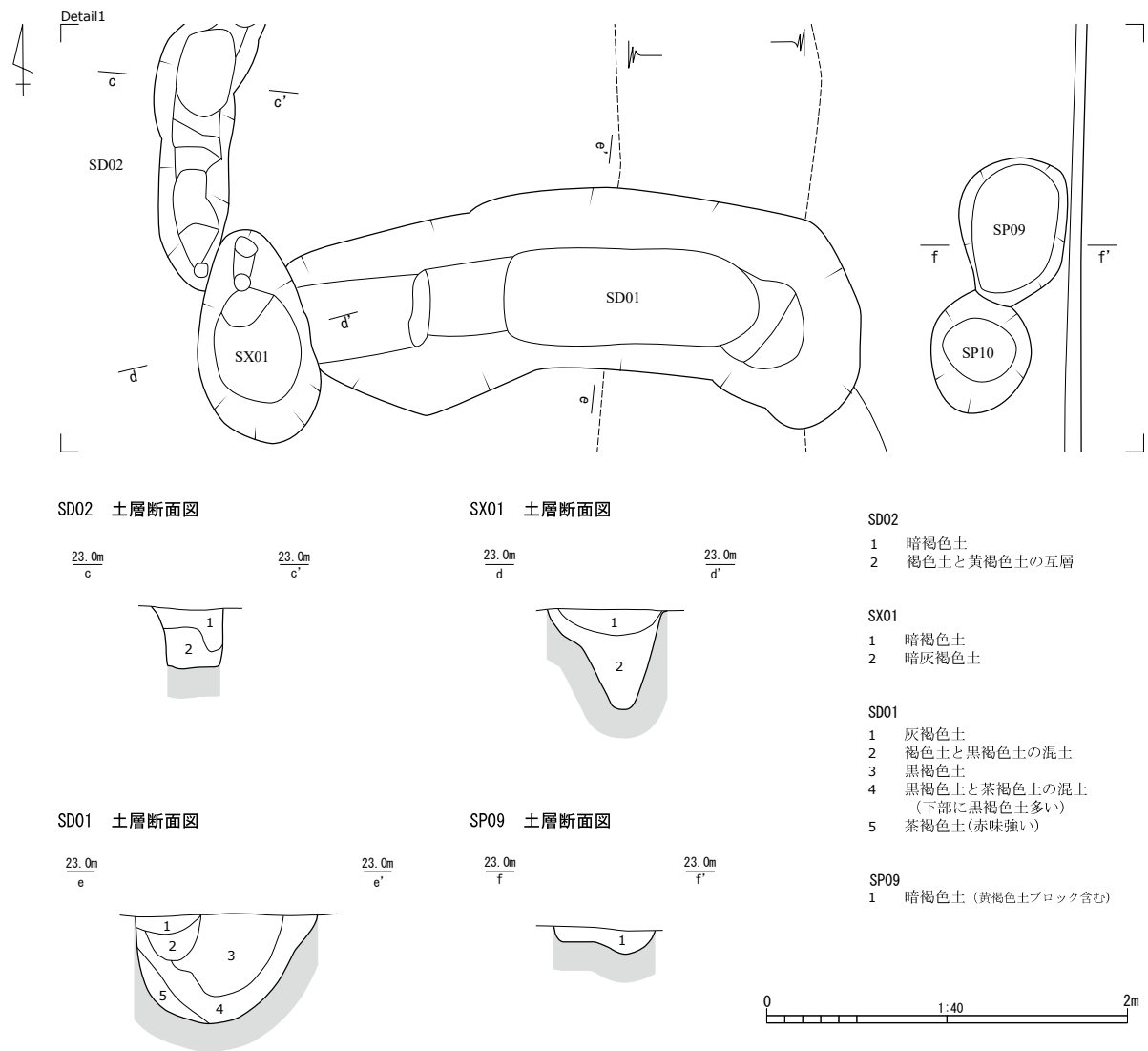
SD01 (第 8 図) は、長さ 310 cm 以上、幅 100 cm、深さ 60 cm、平面形は弓形を呈する。埋土の特徴は、3 次調査の例と比較すると古墳時代前期の遺構埋土と共通する。しかし底面は大きな段差があり平坦でなく、平面形とともに定形的でない。遺物も皆無で、遺構の性格、時期は不明である。

埋土の特徴が共通する SP01、02、03、04 (第 9 図) は、どれも柱穴が認められ、平面配置から建物の可能性を認める。SP01 の柱穴の埋土は黒褐色土である。SP01 の上層、暗灰褐色土層から近世の陶器片 (第 10 図 4) 1 点が出土した。糸切り底の壺底部で、胎土はわずかに橙色を帯びた灰白色、内外面とも露胎である。SP04 で腰部が丸いタイプの山茶碗片 (第 10 図 1) のほか、山茶碗片と土師器片など 4 点が出土した。第 10 図 1 は内面に薄く釉が掛かる。

SD02 (第 8 図) は長さ 224 cm、幅 40 cm、深さ 32 cm、断面方形で、内湾口縁の土鍋片 1 点とロクロ成形のカワラケ片 1 点が出土した。SD03 (第 9 図) は長さ 286 cm、幅 80 cm、深さ 16 cm を測り、出土遺物は乳白色の長石釉の陶器の皿片 1 点と手捏ねのカワラケ片 1 点である。

小穴状遺構 SP05 ～ 10 (第 7 図) に規則的な配列は認め難い。また遺物が出土したのは SP08 のみである。SP08 は SD03 の下位に重複する小穴状遺構で、錆釉の陶器の鉢片 1 点が出土した。

SX01 (第 8 図) と SX02 (第 9 図) は、それぞれ長径で 120 cm と 130 cm を測る土坑状遺構である。遺物は、SX01 でくの字状口縁と思われる土鍋片 1 点とカワラケ片、SX02 で近世の染付磁器片 (第



第8図 遺構実測図(1)

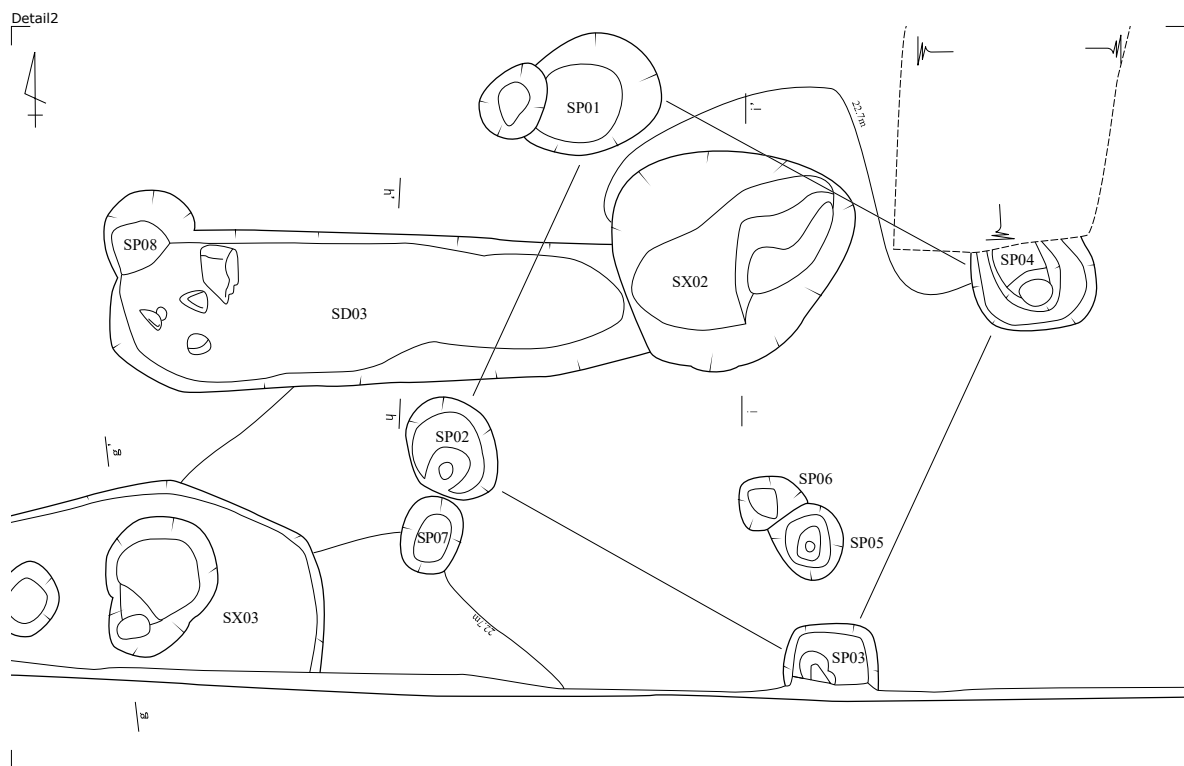
10図3)とカワラケ片、錆釉の鉢片、乳白釉の長石釉の陶器片が出土した。第10図3は、緻密な白色の胎土に、淡い藍色の染付が施される。SX03(第9図)は、部分的に深さ20~26cmの小穴があるものの、全体的には深さ8cm内外と浅い落ち込みである。ハケメが施された土師器片1点とカワラケ片1点出土した。

第10図2は、遺構検出面から出土した陶器の皿である。胎土は橙色を呈する灰白色で、内外面に乳白色の長石釉が掛かる。口縁の端部は厚く丸い。16世紀末ないし17世紀の瀬戸美濃の施釉陶器と思われる。

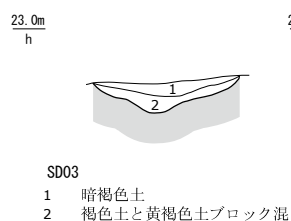
(3) 結 語

掘立柱建物(SP01、02、03、04)は、SP04の出土遺物より鎌倉時代の遺構と思われる。北神宮寺遺跡の調査においては、鎌倉時代の遺構、遺物は少ないものの広域に分布していると評価(鈴木2009)されており、さらに広く丘陵に分布することを示す成果である。

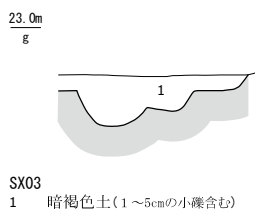
そのほかの溝、土坑、小穴は戦国時代末から江戸時代のものとみられ、3次調査と5次調査の成果を踏まえ、北神宮寺遺跡からの一連の集落範囲が薬師山の麓まで達していたとみられる。(栗原雅也)



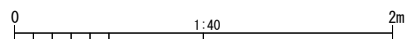
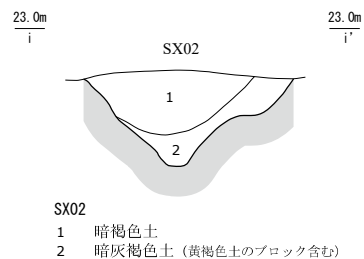
SD03 土層断面図



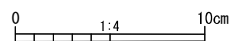
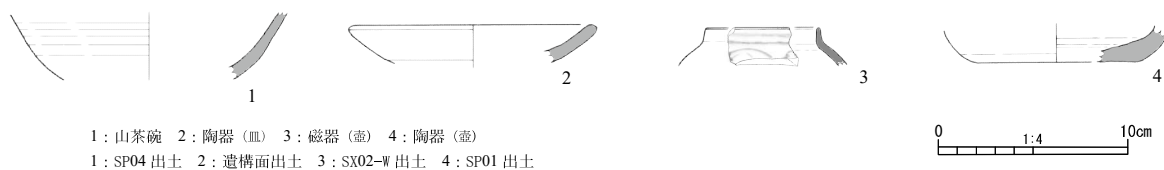
SX03 土層断面図



SX02 土層断面図



第9図 遺構実測図(2)



第10図 出土遺物実測図

注

- (1) 静岡県指定史跡 渭伊神社境内遺跡に指定されている。
- (2) 調査履歴を整理し、『平成21年度浜松市試掘調査概要』に掲載された詳細報告「天白遺跡1次調査」は3次調査と改める。

【参考文献】

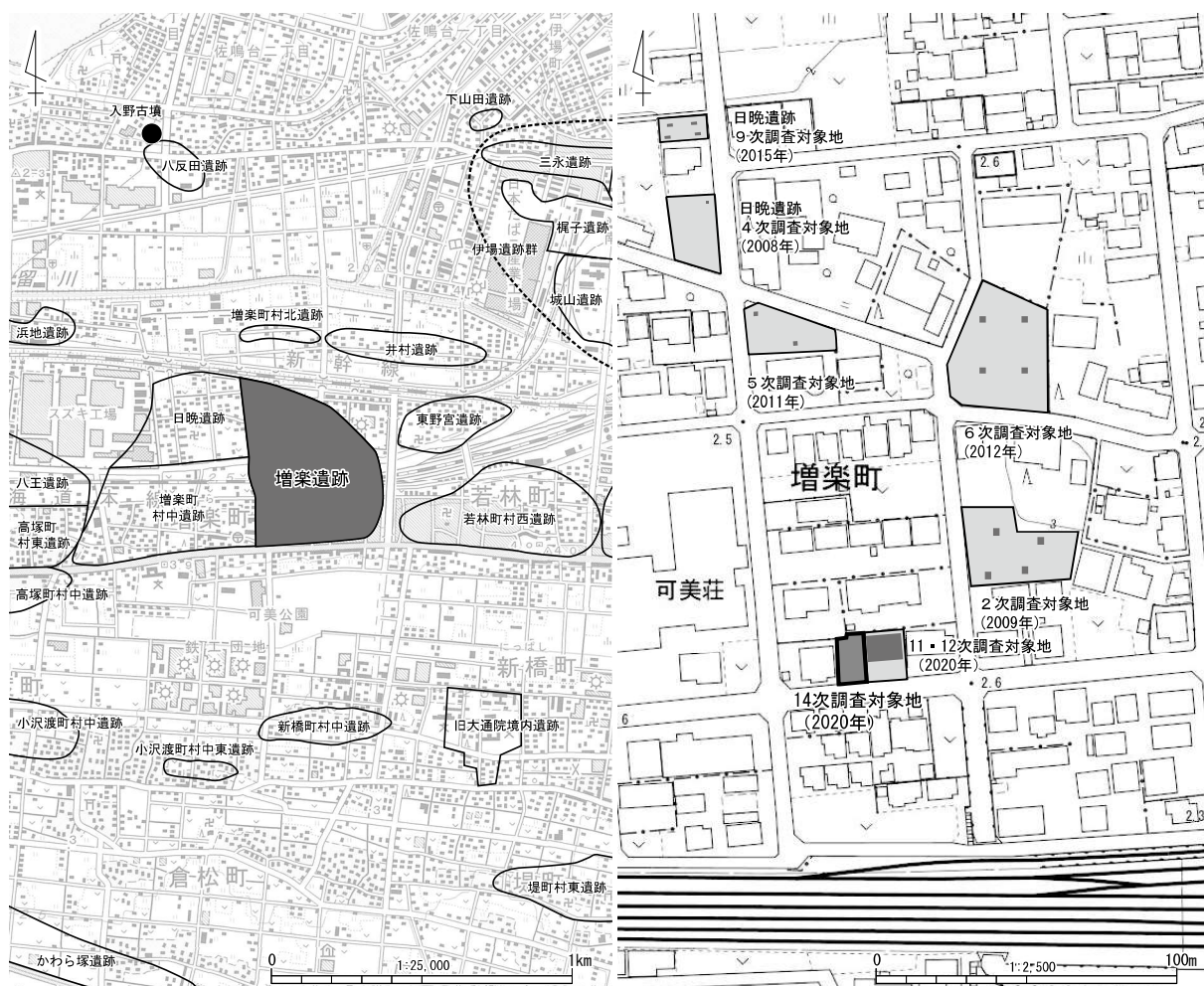
- 辰巳和弘他 1992 引佐町の古墳文化Ⅴ『天白磐座遺跡』引佐町教育委員会
井口智博 2011 「10. 天白遺跡1次調査」『平成21年度浜松市試掘調査概要』浜松市教育委員会
鈴木一有 2009 『北神宮寺遺跡』浜松市文化振興財団

3 増楽遺跡 14 次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査の経緯

遺跡の概要 増楽遺跡は、浜松市南区増楽町に所在する古代から中世を中心とした時期の遺跡である。浜松市南部地域には、遠州灘に面した海岸平野が広がり、東西方向に 6 列の浜堤列が発達する。北から順に浜堤Ⅰ～Ⅵと呼ばれ、最も古い浜堤である浜堤Ⅰは、7,000～8,000calBP に形成が開始され、段階的浜堤が形成されてきた（佐藤ほか 2016）。それぞれの浜堤列の頂部を中心に数多くの遺跡が造営され、増楽遺跡は北から数えて 3 列目の浜堤Ⅲにあたる。浜堤Ⅲは、4,000～7,000calBP 頃から形成が始まり、3,000～3,400calBP 頃に完成したとされる（佐藤ほか 2016）。増楽遺跡と同じ浜堤Ⅲに営まれた遺跡は、日晩遺跡や増楽町村中遺跡、若林町村西遺跡などがある。現在は便宜上、遺跡名を分けているが一連の集落であったと捉えられる。令和 3 年 8 月までに発掘調査は 15 回を数え本発掘調査は 12 次調査に次ぎ 2 回目である。

調査の経緯 増楽遺跡の範囲内において個人専用住宅の建築が計画された。12 次調査地の西側隣接地であり、12 次調査成果をもとに開発事業者と協議を行い、工事により遺跡の保存が図れない部分を対象として、記録保存を目的とした本発掘調査を実施することになった。調査期間は、令和 2 年（2020）5 月 11 日から 5 月 13 日にかけてであり、調査面積は 71 m²である。



第 11 図 増楽遺跡の立地環境

(2) 基本層序

概要 調査対象地の基本層序は、砂や砂質土を主体としている。色調や土質、遺物の出土状況から大きく4つに分けて捉えることが可能である。なお、14次調査対象地の多くは古代から近世にかけて埋没したSD01の埋土であり、基本層序は、調査対象地北西隅において把握した。

I 層 I層は、現代の表土と造成土である。現況の表土に施された

II 層 II層は、褐色系の砂層であり、近世から近代にかけての堆積土である。

III 層 III層は古代から中世にかけての自然堆積土・遺物包含層である。III層は色調により3つに細分が可能である。上位からIII-1層：暗褐色砂、III-2層：灰黄色粗砂と暗褐色砂の混層、III-3層が黒褐色砂質土である。III-3層は土師器や須恵器を包含し有機質であることから、古代の生活面及び古代の表土層と捉えられる。

IV 層 IV層は、基盤層である。上位からIV-1層：黄褐色砂、IV-2層：灰黄色粗砂、IV-3層：灰色粗砂に細分できる。灰色粗砂は湿気をもち、標高1.1m付近から下位では湧水が認められる。

(3) 検出遺構

溝 跡 調査対象地において3条の溝跡を検出した。SD01は、14次調査区のほぼ全域で検出し、調査区北西部において肩部を検出した。SD01の深さは検出面を基準に計測すると最大で1.2mである。流路更新が多く幅は不明確であるが5～7m程度と捉えられる。SD01の形成時期は、最下層(27層)から出土した遺物の特徴から奈良時代以前と捉えられる。近世の埋土は2～9層、中世以前の埋土は10層よりも下層である。27層をはじめとした古代の堆積層は調査区北西部に限られており、SD01形成後、南東へ向かって流路更新があったと捉えられる。

SD02は、幅0.6m、検出面からの深さ0.1mの溝である。東側隣接地で実施した12次調査で検出されたSD04と一連のものと捉えられる。14次調査ではSD02埋土中から遺物が出土していないが、12次調査SD04から出土した遺物は古代のものを中心としており、古代の遺構と捉えられる。

SD03は、調査区南西部で検出した検出面で幅0.6m、検出面からの深さ0.2mの溝である。埋土はSD01の27層と同じ特徴をもつ。SD01と同時期に形成・埋没したものと捉えられ、SD01の川床溝の可能性が想定できる。

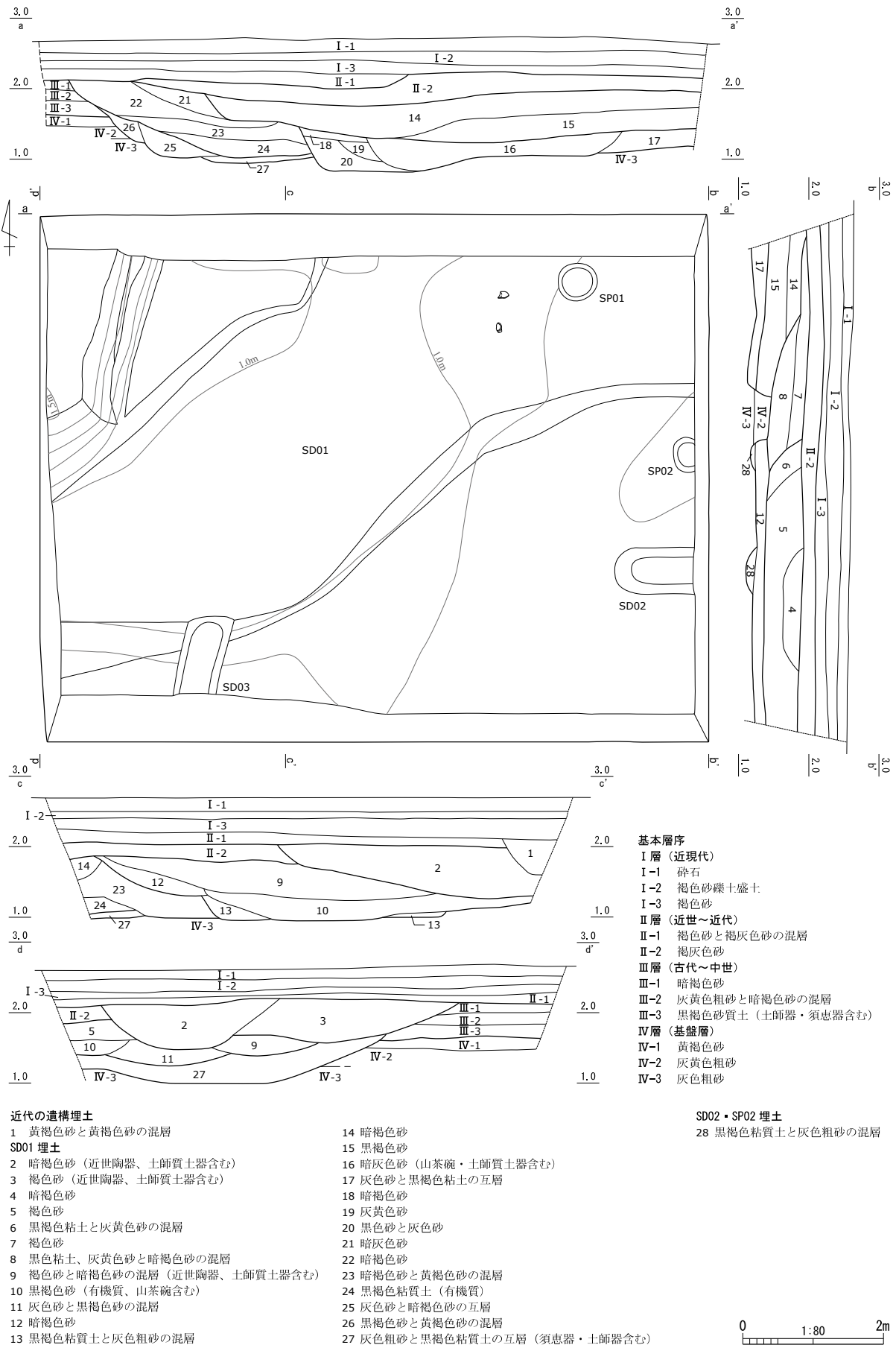
小穴 (SP01・02) 調査対象地東側において、SP01とSP02の2つの小穴を検出した。SP01は、検出面を基準に計測するとSP01が直径0.6mあり、検出面からの深さは0.1mである。出土遺物は伴わないため時期は不明確であるが、SP01の上位には13世紀を中心とした時期と捉えられるSD01の埋土が認められ、中世以前と捉えられる。SP02は、SP02が直径0.5mであり、検出面からの深さは0.1mである。南側に近接するSD02と同じ特徴を持つ埋土が認められ、SD02と同様に古代の遺構と想定できる。

(4) 出土遺物

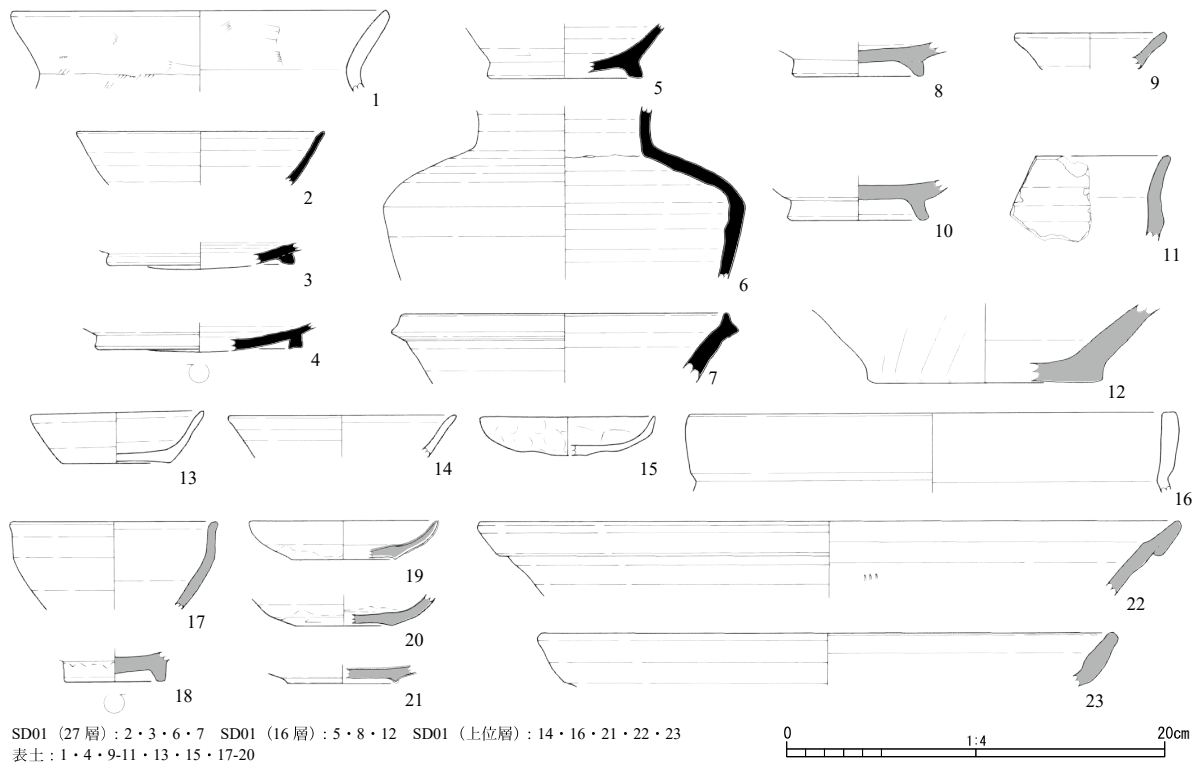
遺物の多くは、SD01埋土中と表土層である。このうち、時期を示す特徴をもち、図化可能なものを抽出し、図化した。出土した遺物は7世紀から17世紀代を中心とした時期のものである。

土師器 1は表土から出土した7・8世紀の甕である。

須恵器 須恵器は、SD01の27層(最下層)から出土したものが主体である。2は坏身で8世紀後半、3・4は有台坏身で7世紀末から8世紀前半のものと捉えられる。5は瓶類の底部、6は広口壺、7は甕の底部であり、いずれも8世紀代を中心としたものと捉えられる。



第 12 図 増築遺跡 14 次調査区詳細図



第13図 増楽遺跡14次出土遺物

中世陶器 中世陶器はSD01の16層を中心に中世陶器が出土した。山茶碗(8・9)、山皿(10)、湖西渥美産の壺(11)、常滑産の播鉢(12)が出土した。いずれも13世紀を中心としたものと捉えられる。

土師質土器 ロクロかわらけ(13・14)、非ロクロ成形かわらけ(15)、内湾口縁内耳鍋(16)が出土した。16世紀後半から17世紀代を中心としたものと捉えられる。

施釉陶器 施釉陶器はSD01埋土や表土層を中心に出土した。17は瀬戸美濃産の天目茶碗で大窯4段階(16世紀後葉～17世紀初頭、藤沢2007)、18・19は初山窯産の内禿皿で大窯3段階後半から大窯4段階(16世紀後半～17世紀初頭)、20は美濃産の尾呂茶碗で登窯第5・6小期(17世紀後葉～18世紀前半)、21は瀬戸美濃産の志野丸皿で登窯第1・2小期(17世紀前半)、22・23は瀬戸美濃産の播鉢で22は登窯第6小期(18世紀前半)を、それぞれ中心とした時期のものと捉えられる。

(5) 結 語

増楽遺跡14次調査において古代から近世を中心とした時期の遺物が多く出土し、調査地とその周辺では、古代から近世にかけて集落が造営されていたことが明らかになった。浜松南部平野の浜堤Ⅲ上や浜堤Ⅳ上に展開する集落遺跡の多くが同様の時期に造営を開始したとみられ、契機となる環境変化があったことがうかがえる。調査成果の蓄積を踏まえ、地域研究を進展させる必要がある。

(和田達也)

【引用・参考文献】

川西啓喜 2021「増楽遺跡11・12次調査報告」『令和元年度 浜松市文化財調査報告』浜松市教育委員会

佐藤善輝ほか 2016「浜松平野西部における完新世後期の浜堤列の地形発達過程」『第四紀研究』55 第四紀学会藤沢良祐

2007「総論」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』愛知県

4 恒武西宮遺跡 30 次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要 恒武西宮遺跡は、東区恒武町から貴平町にかけて展開する古墳時代から戦国時代にかけての遺跡である。天竜川が形成した沖積平野の微高地上に位置し、現在は主に宅地や水田として利用されている。当地域には恒武西宮遺跡の他に複数の遺跡が隣接して展開しており、恒武遺跡群と呼称される。

恒武西宮遺跡は、1990年代に行われた道路建設工事に先立つ大規模な発掘調査以降、遺跡の様相が明らかとなりつつあり、これまでに30次にわたる発掘調査が行われている。過去の調査において古墳時代中期の掘立建物跡、鎌倉時代の井戸、戦国時代の井戸及び区画溝等が確認されており長期間にわたり集落が展開していたことがうかがえる。なお、古墳時代中期以前では、古墳時代前期（元屋敷敷段階）の方形周溝墓が確認されており、墓域として利用されていたとみられる。また、恒武西宮遺跡の西側に隣接する山ノ花遺跡では、自然流路から古墳時代中期の土器に加えて大量の木製品などの祭祀遺物が出土しており、有力者の存在が想定される。

調査経緯 2020年に入り、周知の埋蔵文化財包蔵地である恒武西宮遺跡の範囲内において店舗建設の計画が浮上した。対象地の北側と西側では2008年に確認調査（10次調査）が行われ、北側を中心に遺跡が確認されていたため、2020年1月に確認調査（27次調査）を実施した。確認調査の結果、対象地内の一部において遺跡が確認された。こうした結果を受けて開発事業者と協議を行った結果、開発行為によって遺跡の保護が図れない浄化槽部分、擁壁部分、サイン部分を対象として本発掘調査を実施した（30次調査）。



第14図 恒武西宮遺跡の位置と調査の状況

(2) 調査の方法と経過

調査区の設定と調査の方法 本発掘調査の対象である浄化槽部分、擁壁部分、サイン部分をそれぞれ A・B・C の 3 区に分けて発掘調査をおこなった。本発掘調査対象面積は、浄化槽部分 (A 区) 11 m²、擁壁部分 (B 区) 15 m²、サイン部分 (C 区) 7 m² の合計 33 m² である。

発掘調査は、重機 (バックホー) で層位的に掘削して遺物の出土状況を確認したのち、人力で遺構の検出を試み、土層断面の観察を行った。

調査の経過 発掘調査は、A・B 区を 6 月 9 日・10 日、C 区を 7 月 28 日にかけて実施した。

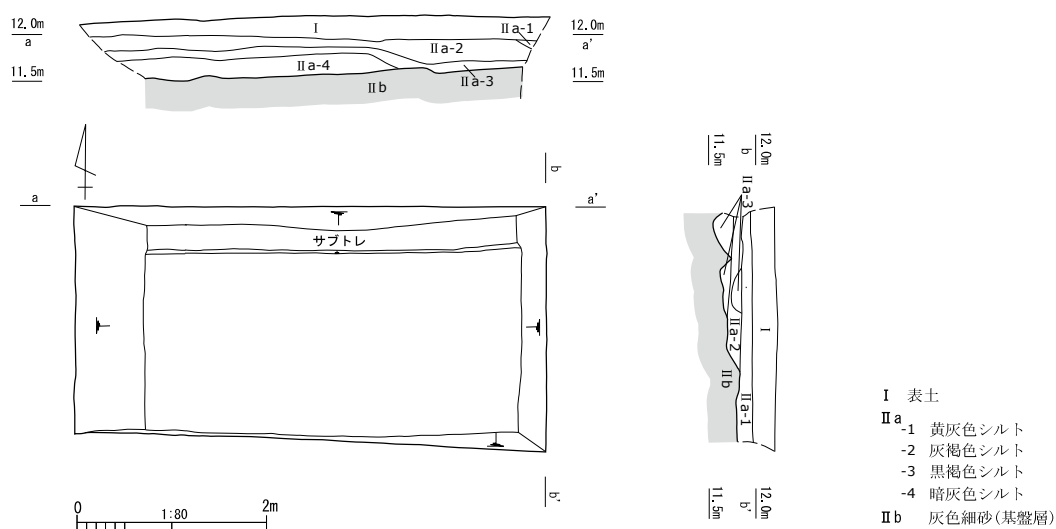


第 15 図 調査区配置図

(3) A 区の調査成果

土層堆積状況 A 区における基本層序は次のとおりである。上層より I 層：表土、II a 層：褐色系シルト (遺物包含層)、II b 層：灰色細砂 (基盤層) の順に確認した。遺物包含層である II a 層は 4 層に細分することができ、古墳時代の須恵器と土師器の細片を少量含む。また、II a 層と II b 層は非常に近似した色調と土質であるが、遺物包含層である II a 層と比較して、II b 層の方がやや砂質が強い傾向がみられた。

検出遺構 調査区内において平面検出を行ったが遺構は検出されなかった。しかし、東側の土層断面を確認したところ、II a 層より掘り込まれた遺構を確認した。確認した遺構は、土坑とみられ、規模は直径 50cm 程度を考えられる。埋土は黒褐色シルトである。なお、遺物は確認されなかったため帰属時期は不明である。



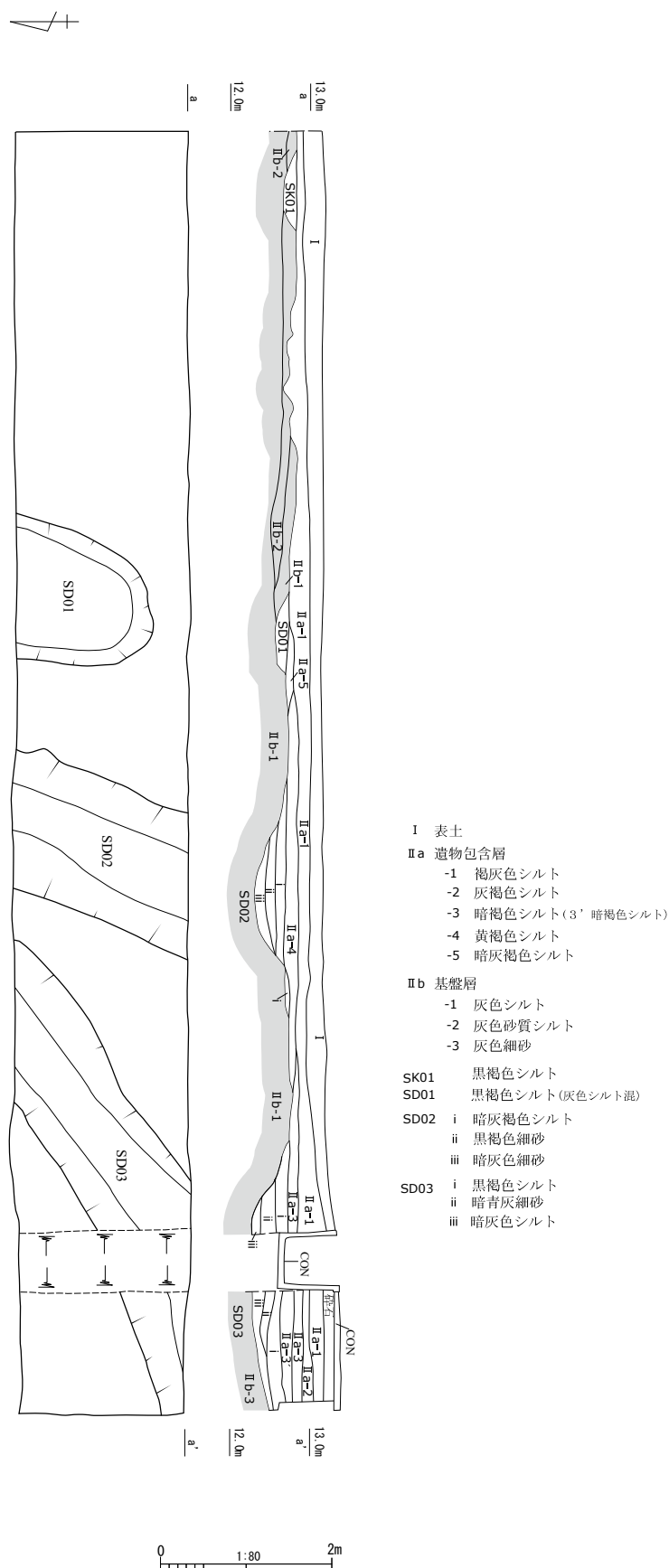
第 16 図 A 区平面図及び土層断面図

(4) B 区の調査成果

土層堆積状況 B区における基本層序は次のとおりである。上層よりⅠ層：表土、Ⅱa層：褐色系シルト（遺物包含層）、Ⅱb層：灰色系シルト～細砂（基盤層）の順に確認した。遺物包含層であるⅡa層は4層に細分することができ、6世紀代とみられる須恵器と土師器が出土した。また、Ⅱa層とⅡb層は非常に近似した色調と土質であるが、遺物包含層であるⅡa層と比較して、Ⅱb層の方がやや砂質が強い傾向がみられる。なお、Ⅱ層は3層に細分することができる。

検出遺構 調査区内の中央付近から南側にかけて溝を3条確認した。北から南に向かってSD01・SD02・SD03の順である。いずれの溝もおおむね南北方向に延び、調査区外へと及んでいるため、本来の規模は不明であるが、検出面での幅はSD01とSD02が1.6m、SD03は1.4m、深さはSD01が20cm、SD02とSD03は40cmを測る。埋土はいずれも暗灰色～黒褐色系シルトである。その他に土層断面を確認したところ土坑を1基確認した。規模は、1.0m程と考えられ、埋土は、黒褐色シルトである。

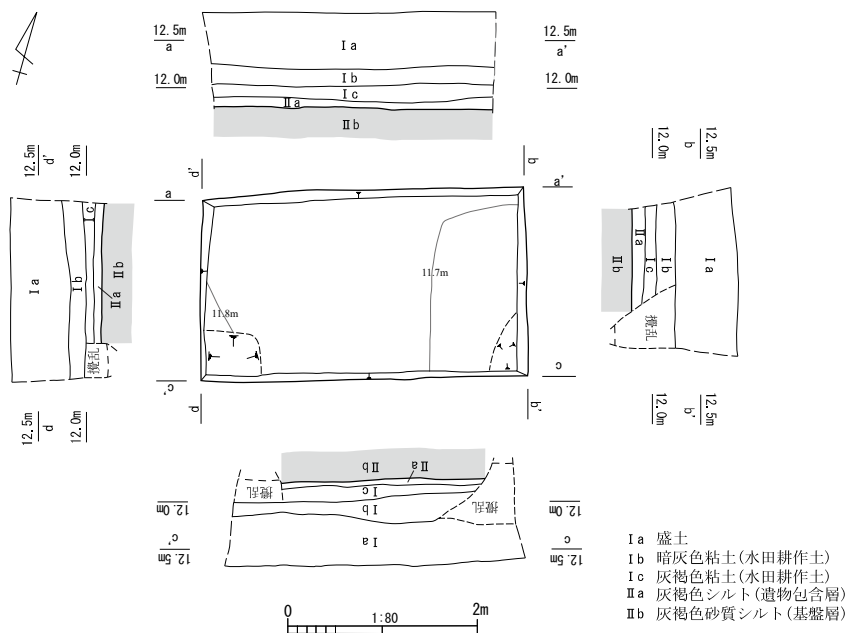
各遺構内から5～6世紀代と見られる土師器と須恵器の小破片が出土したことから、同時期の遺構と捉えられる。



第 17 図 B 区平面図及び土層断面図

(5) C 区の調査成果

土層堆積状況 C 区における基本層序は次のとおりである。上層より I a 層：盛土、I b 層：暗灰色粘土（水田耕作土）、I c 層：灰褐色粘土（水田耕作土）、II a 層：灰褐色シルト（遺物包含層）、II b 層：灰褐色砂質シルト（基盤層）の順に確認した。なお、II a 層は出土遺物から 5～6 世紀代の遺物包含層と考えられる。

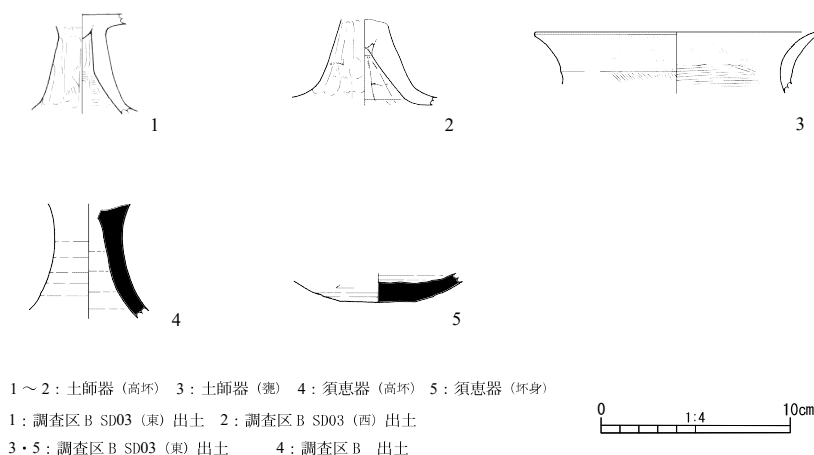


第 18 図 C 区平面図及び土層断面図

検出遺構 調査区内を精査したが、遺構は全く検出されなかった。

出土遺物 出土した遺物は完形となるものは無く小破片のみであったが、図化できたものを第 21 図に示す。

いずれも B 区から出土し、4 以外は SD03 からの出土遺物である。1～3 は土師器である。1・2 は高坏、3 は甕である。4・5 は須恵器である。4 は高坏、5 は坏身である。いずれも 5～6 世紀代のものと捉えられる。



第 19 図 出土遺物実測図

(6) 結 語

今回の発掘調査の結果、各調査区において古墳時代中期～後期にかけての遺物包含層を確認し、遺構は、B 区において溝と土坑が確認された。調査面積が狭小ではあるものの、過去に周辺で実施した調査では同時期の一定量の遺構・遺物が確認されていることから、今回の調査地点は遺跡内の遺構密度の低い地点であると考えられる。

(川西啓喜)

【参考文献】

財団法人浜松市文化協会 2002 『恒武西宮遺跡』

財団法人浜松市文化振興財団 2009 『恒武西宮遺跡 8 次』

5 笠井上組遺跡 11・12 次調査報告

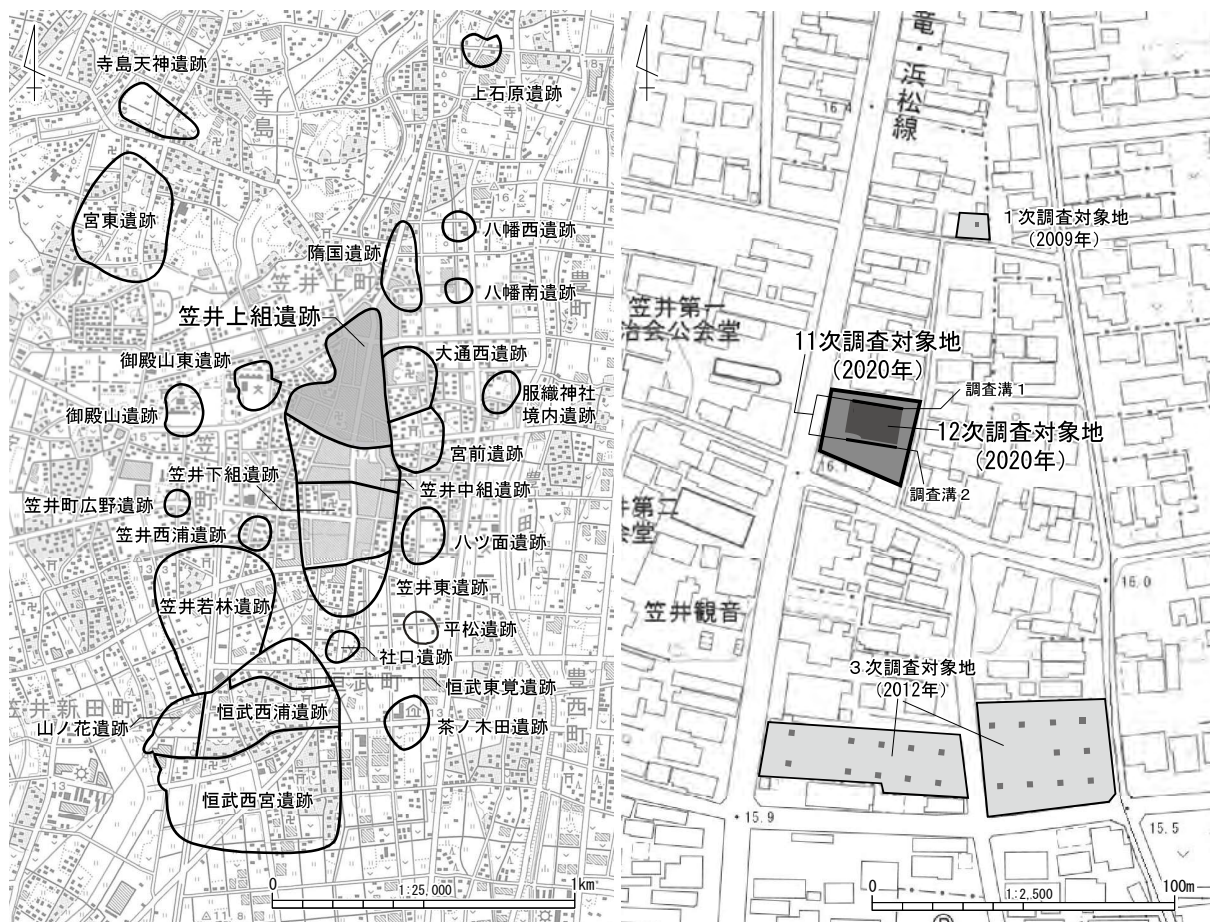
(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要 笠井上組遺跡は、東区笠井町に位置する古墳時代～中世の遺跡である。天竜川が形成した広大な沖積平野上に立地し、東の豊田川と西の安間川に挟まれた自然堤防上の微高地に展開する。この微高地は、当遺跡の立地する笠井町から南の恒武町及び貴平町にかけて東西約1km、南北約2kmにわたって広がっており、古代～中世にかけての遺跡が多く展開している。

笠井上組遺跡は、かつては「笠井遺跡」と呼ばれ広大な範囲を持つ遺跡であったが、平成25年の範囲変更及び名称変更に伴い4つの遺跡に分割され、最も北側の遺跡にあたる。その後、当遺跡では確認調査を中心とした小規模な発掘調査は行われてきたが、本格的な調査は実施されてこなかった。今回報告する12次調査は、当遺跡において初めて実施した本格的な発掘調査事例である。

調査経緯 2020年に笠井上組遺跡の埋蔵文化財包蔵地内において、集合住宅新設の計画が浮上したため、遺跡の埋没状況を確認するため2020年7月に確認調査を実施した（11次調査）。確認調査の結果、対象地内は攪乱の影響を受けている部分が多くみられたが、8世紀代の遺物包含層と遺構が確認された。こうした結果を受けて開発事業者と遺跡の取扱いについて協議を行った結果、開発行為によって遺跡の保護が図れない建物部分を対象として、記録保存を目的とした本発掘調査を実施した（12次調査）。

本発掘調査は2020年8月4日～31日にかけて実施した。調査面積は187㎡である。



第20図 笠井上組遺跡の位置と調査の状況

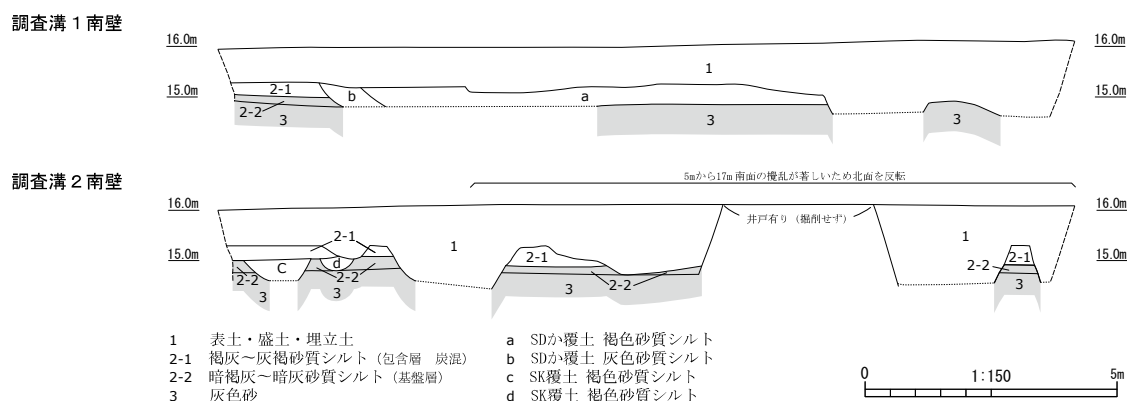
(2) 11 次調査の成果

土層堆積状況 開発予定地内に調査溝を2箇所設定して調査を実施した。2つの調査溝においておおむね近似した土層堆積状況を確認した。上層より1層：表土・盛土・攪乱（近世以降）、2層：褐色系砂質シルト、3層：灰色砂の順に確認した。2層は2-1層（褐灰～灰褐色砂質シルト）と2-2層（暗褐灰～暗灰色砂質シルト）に分層できる。2-1層は8世紀代を中心とした須恵器と土師器を含む。遺物包含層と考えられる。また、2-1層と2-2層は色調が非常に酷似しているが、2-2層の方がやや暗く灰色味が強い傾向がみられ、遺物を含まない。そのため、2-2層が基盤層と考えられる。

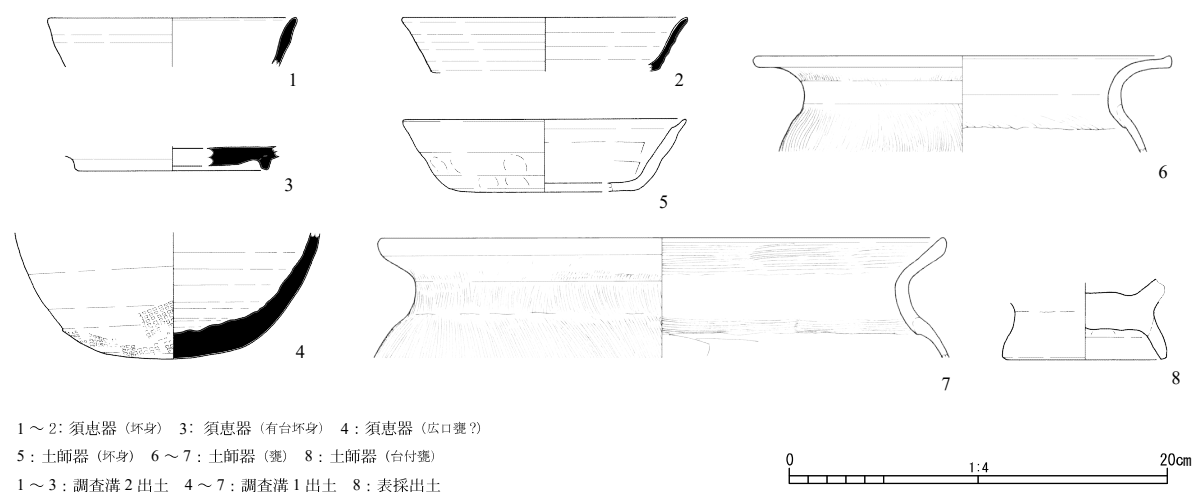
検出遺構 土層断面を観察したところ、調査溝1で溝1条、調査溝2で土坑2基を確認した。溝は調査溝と平行に延びており、広範囲にわたり確認されたことから大型の溝の可能性はある。2-1層から掘り込まれており、出土した遺物から奈良時代の遺構と考えられる。土坑は調査溝2の東よりで確認した。いずれも2-2層から掘り込まれており、土師器片が出土した。

出土遺物 出土遺物を第24図に示す。1～4は須恵器である。1～3は坏身、4は壺の底部である。4は外面にタタキ痕が認められる。5～8は土師器である。5は坏、6・7は甕である。7はやや大型の製品のため、鉢の可能性もある。8は台付甕である。いずれも8世紀代のものと考えられる。

小 結 11次調査の結果、攪乱の影響を受けてはいるものの、遺物包含層と遺構を確認した。遺構は住居跡等は確認されず、土層断面において観察されたのみであったが、溝の埋土からまとまった量の遺物が出土したことから、当該地を含む周辺に集落が展開していると考えられる。



第21図 11次調査土層柱状図

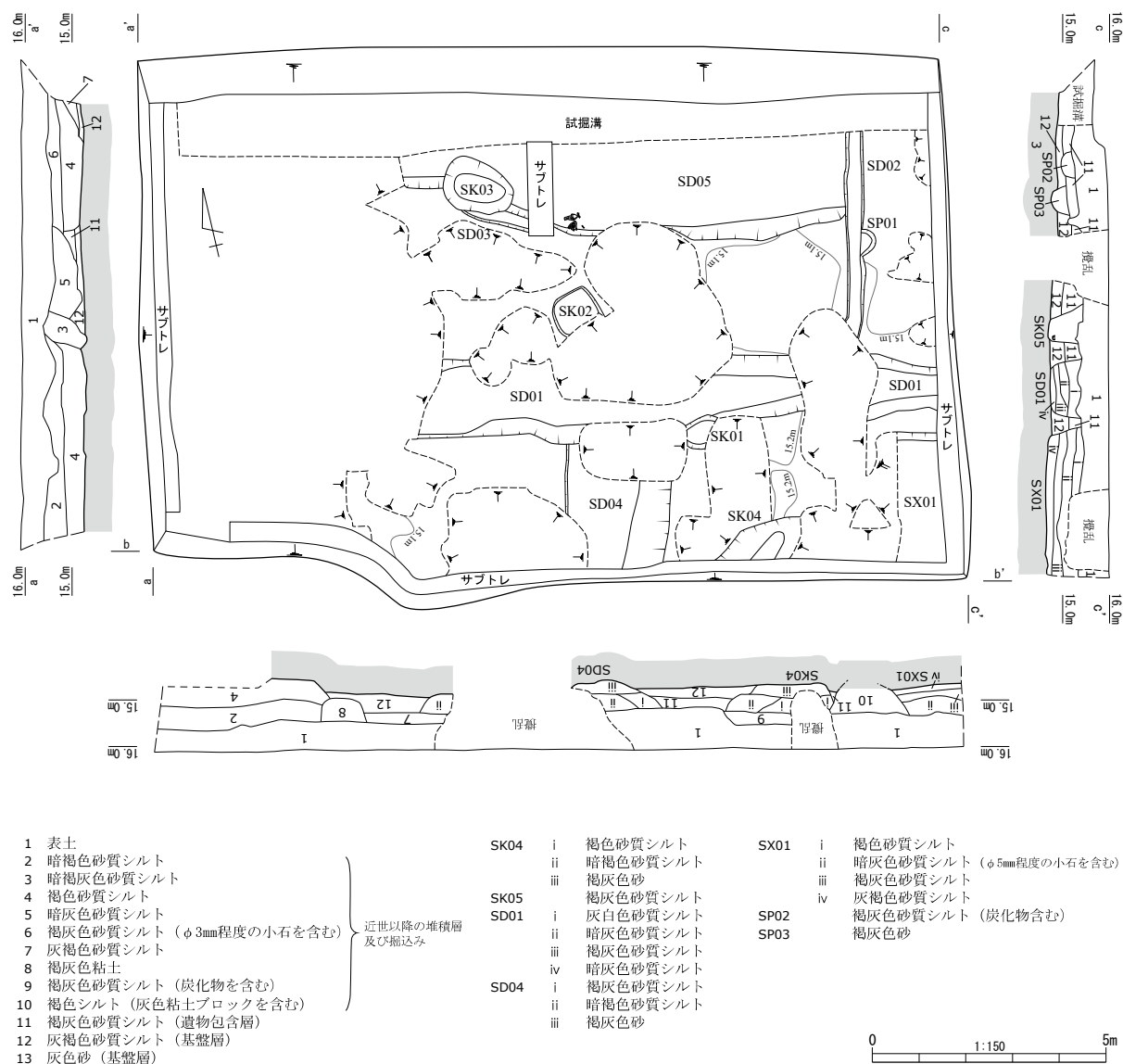


第22図 11次調査出土遺物

(3) 12次調査の成果

土層堆積状況 調査区内における土層堆積状況は11次調査の成果と近似している。基本層序は次のとおりである。上層より、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：褐灰色砂質シルト（8世紀代の遺物包含層）、Ⅲ層：灰褐色砂質シルト（基盤層）、Ⅳ層：灰色砂の順である。調査区内の大半は攪乱の影響を受けており、特に調査区の西側では全域に渡りⅣ層より深くまで攪乱の影響が及んでいる箇所が顕著に見られた。攪乱内からは近世以降の陶磁器等が含まれることから、近世以降に大きく改変を受けたと見られる。Ⅱ層は7～9世紀代の遺物包含層であるが、8世紀代の遺物が中心となる。含まれる遺物は小破片のものが多く、一定量の遺物が出土した。

検出遺構 攪乱の影響の少ない調査区東側において、溝を中心とした遺構を確認した。遺構は土層観察により確認したものも含めると土坑5基、小穴3基、溝5条、性格不明遺構1基である。なお、遺構検出は本来基盤層であるⅢ層上面にて行うべきであるが、Ⅱ層とⅢ層は非常に近似した色調及び土質であったため、Ⅳ層上面にて行った。また、土層断面を確認したところⅡ層上面から掘り込まれた遺構も確認された。



第23図 12次調査平面図および土層断面図

SK01 は、調査区中央やや東よりで確認した土坑である。東側と西側は攪乱の影響を受けているため本来の規模は不明であるが、検出面で長辺 0.7m、短辺 0.5m、深さ 0.45m を測る。埋土は褐色系シルトであり、6 層に分層できる。出土遺物は、7～8 世紀代と見られる須恵器と土師器の細片が出土したことから、同時代の遺構と捉えられる。

SK02 は調査区中央で確認した土坑である。南側は攪乱の影響を受けているが、本来の形状は隅丸方形を呈すると考えられる。検出面での規模は 1 辺 0.9m、深さ 0.3 m を測る。埋土は褐色砂質シルトである。小片のため図化できた遺物は無かったが、7～8 世紀代の遺構と捉えられる。

SK03 は調査区中央北側で確認した土坑である。SK03 は、SD03 と SD05 を切って掘り込まれている。検出面での規模は、長辺 1.5m、短辺 1.1m、深さ 0.25m の楕円形を呈する。埋土は褐灰色シルトであり、須恵器と土師器の小片が出土した。図化できた遺物は無かったが、8 世紀代の遺構と捉えられる。

SK04 は調査区南東部で確認した土坑である。南側は調査区外へと延びており、東側は攪乱の影響を受けていたため本来の規模は不明であるが、土層断面から規模は直径 2.5m 程と考えられる。埋土は褐灰色系シルトであり、3 層に分層できる。出土遺物から 8 世紀代の遺構と捉えられる。

SK05 は東側の土層断面において確認した土坑である。Ⅱ層から掘り込まれており、規模は直径約 1.0m、深さ約 0.7m を測る。埋土は褐灰色砂質シルトの単層である。

SP01 は調査区東側で確認した小穴である。SD02 により西側半分を切られているが、本来の規模は直径 0.6m、深さ 0.15m 程と考えられる。埋土は暗灰褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土しなかったため帰属時期は不明である。

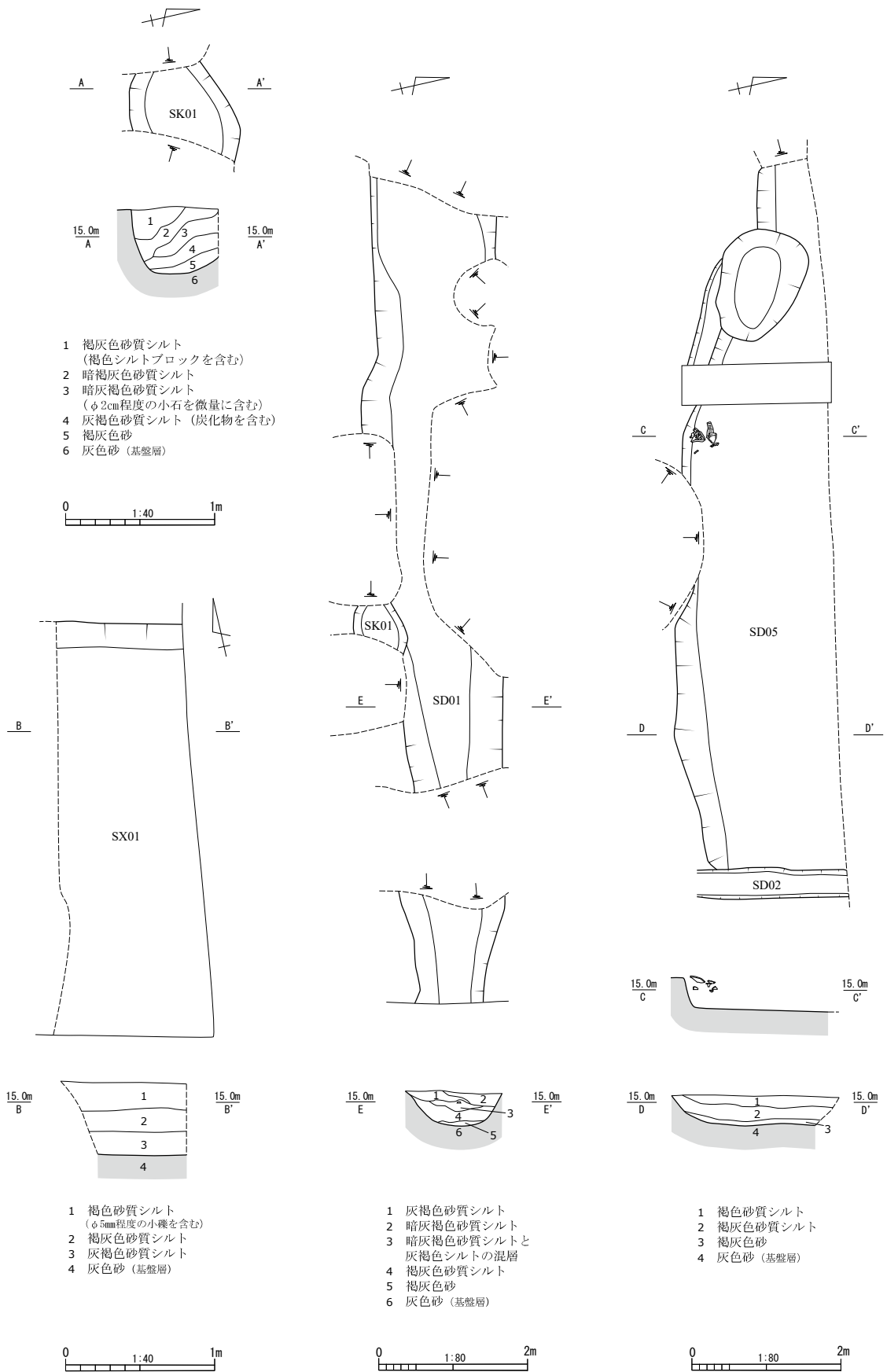
SP02・SP03 は東側の土層断面において確認した小穴である。SP02 はⅡ層、SP03 はⅢ層から掘り込まれており、規模はいずれも直径 0.55m、深さ 0.3m 程と考えられる。埋土は、SP02 は褐灰色砂質シルト（炭化物を含む）、SP03 は褐灰色砂である。いずれの小穴も出土遺物を伴わないため、帰属時期は不明である。

SD01 は調査区の中央付近で検出した東西に延びる溝である。東側は調査区外、西側は攪乱の影響を受けているため本来の規模は不明であるが、検出面での規模は、長さ 11m、最大幅 1.5m、深さ 0.4m である。なお、東側の土層断面を精査したところ、Ⅱ層から掘り込まれていることを確認した。埋土は褐灰色系シルトである。出土遺物は 7～8 世紀代の須恵器と土師器が中心である。なお、埋土上層から灰釉陶器が僅かに出土していることから、廃絶時期は 9 世紀後半と考えられる。

SD02 は調査区の北東部で検出した南北方向に延びる溝である。SD02 の北側は調査区外、南側は攪乱の影響を受けているため本来の規模は不明であるが、検出面での規模は、長さ 4.5m、幅 0.4m、深さ 0.1m である。埋土から須恵器と土師器の小片に加えて近世陶磁器が出土したことから、近世以降の溝と捉えられる。

SD03 は調査区の中央北側で確認した溝である。SD03 の大半は SK03 と SD05 によって切られており、本来の規模は不明であるが検出面で長さ 1m、幅 0.2m を確認した。遺物は出土しなかったが、後述する SD05 から 8 世紀代の遺物が出土しており、埋土も近似することから同時代の遺構と捉えられる。

SD04 は調査区の中央南側で確認した南北方向に延びる溝である。SD04 の北側は SD01 により切られており、南側は調査区外へと延びているため本来の規模は不明であるが、検出面での規模は、長さ 2.6m、幅 2.1m、深さ 0.6m を測る。埋土は褐色系砂質シルトであり 3 層に分層できる。出土遺物から 8 世紀代の遺構と捉えられる。

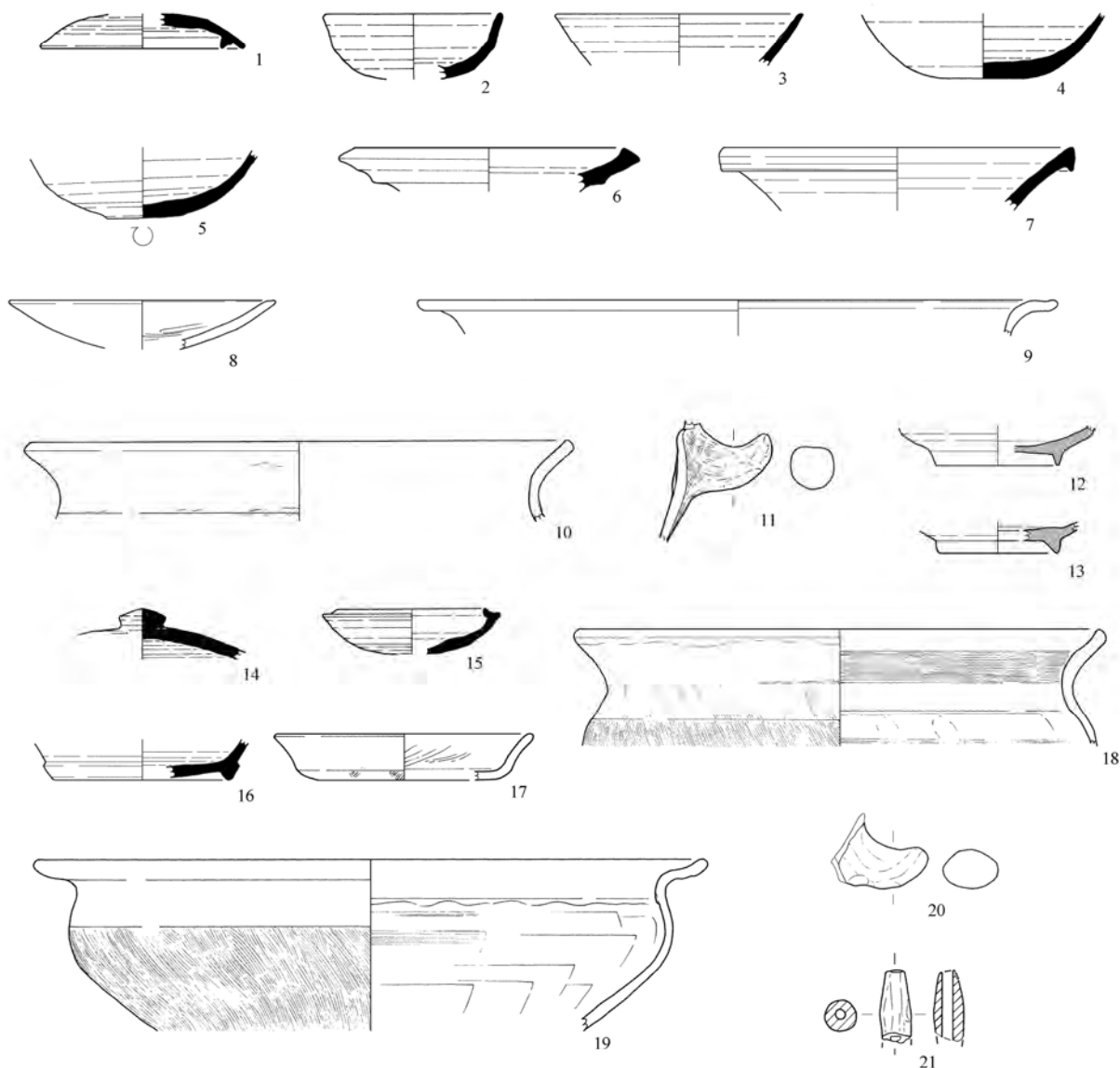


第 24 図 12 次遺構詳細図

SD05は調査区の北側を東西に延びる溝である。東側をSD02によって切られており、西側と北側は攪乱及び11次調査の試掘溝の影響を受けているため、本来の規模は不明であるが、検出面で長さ9.4m、幅2.0m、深さ0.4mを測る。なお、11次調査における調査溝1で確認した溝と同一遺構と考えられる。埋土は灰褐色系シルトであり、出土遺物から8世紀代の遺構と捉えられる。

SX01は調査区の南東隅で検出した大型の土坑もしくは溝である。大部分が調査区外に及んでおり、攪乱の影響も受けているため本来の規模は不明であるが幅3.0m以上を測る。断面は逆台形を呈し深さは約1.0mである。埋土は褐灰色系シルトであり、出土遺物から8世紀代の遺構と捉えられる。

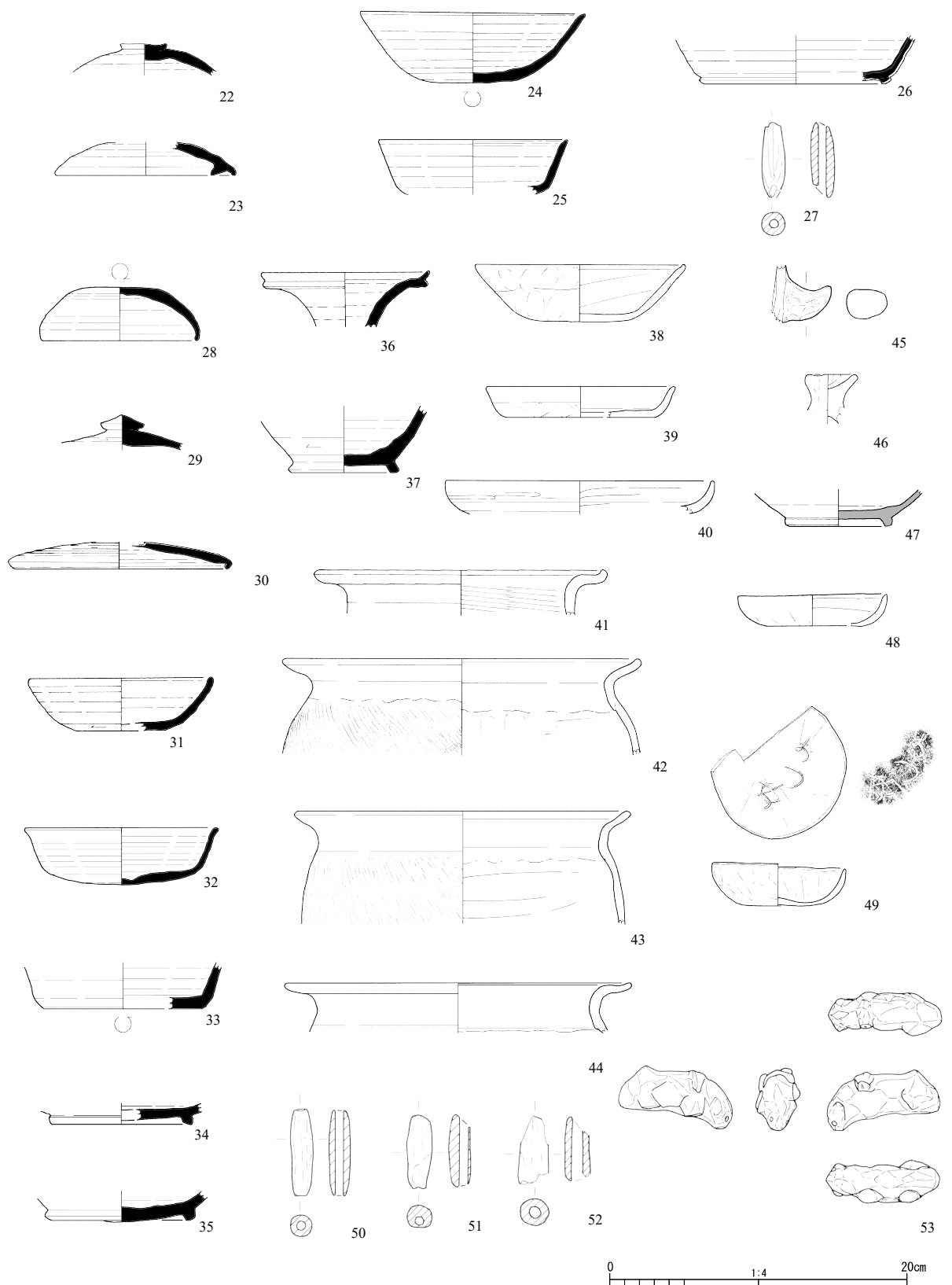
出土遺物 SD01・SD05から出土した遺物を第27図、その他を第28図に示す。1～13はSD01から出土した遺物である。1～7は須恵器である。1は蓋、2～5は坏身、6・7は壺の口縁部である。8～11は土師器である。8は高盤、9・10は甕、11は把手である。1～11はいずれも7～8世紀代の



1: 須恵器 (坏蓋) 2～5: 須恵器 (坏身) 6～7: 須恵器 (壺) 8: 土師器 (高盤) 9～10: 土師器 (甕)
11: 土師器 (把手) 12～13: 灰釉陶器 (碗) 14: 須恵器 (坏蓋) 15～16: 須恵器 (坏身)
17: 土師器 (皿) 18～19: 土師器 (甕) 20: 土師器 (把手) 21: 土製品 (土錘)
1～12: 調査溝1出土 13～23: 調査溝2出土 24～27: 調査溝3出土

0 1:4 20cm

第25図 12次調査出土遺物(1)



22：須恵器（摘蓋） 23：須恵器（蓋） 24：須恵器（無台碗） 25：須恵器（箱坏） 26：須恵器（有台坏身） 27：土師質（土鍾） 28：須恵器（蓋） 29：須恵器（摘蓋）
 30～31：土師器（無台碗） 32～33：須恵器（箱坏） 34～35：須恵器（有台坏身） 36～37：須恵器（壺） 38：土師器（坏身） 39～40：土師器（皿）
 41～44：土師器（甕） 45：土師器（把手） 46：土師器（祭祀土器） 47：灰釉陶器（碗） 48～49：土師質土器（かわらけ） 50～52：土師質土器（土鍾） 53：土製品（土馬）
 22～23・25：SK02 出土 24：SK04 出土 26～27：SX01 出土 28～35・37・39・42～44・47・51～52：包含層出土
 38・41：攪乱出土 45・48・49：表土出土 36・46・50・53：サマノ出土

第26図 12次調査出土遺物（2）

遺物と捉えられる。12・13は灰釉陶器の碗である。時期は9世紀後半と捉えられる。14～21はSD05から出土した遺物である。14～16は須恵器である。14は摘蓋、15・16は坏身である。15は7世紀前半、14・16は8世紀代の遺物と捉えられる。17～20は土師器である。17は皿、18は甕、19は鉢、20は把手である。17・18は7世紀代、19・20は7～8世紀代の遺物と考えられる。21は土鍾である。共伴遺物から7～8世紀代の遺物と考えられる。22～24はSK02から出土した遺物である。いずれも須恵器であり、22・23は蓋、24は坏身である。23は7世紀代、22・23は8世紀代の遺物と捉えられる。25はSK04から出土した須恵器の坏身である。8世紀代のものと捉えられる。26・27はSX01から出土した遺物である。26は須恵器の坏身、27は土鍾である。いずれも8世紀代のものと考えられる。28～53は包含層及び表土内等から出土した遺物である。8世紀代のものが中心であるが、中世以降の遺物も出土した。49はかわらけである。内面に『おつね』とヘラ書きが施されている。53は土馬である。頭部から頸部は残存しているが、体部は欠損している。7～8世紀代の遺物と考えられる。

（3）結 語

11・12次調査の結果、調査対象地内は大きく近世以降の攪乱を受けていたことや調査範囲の制限等もあり、遺構の性格が明らかとなりえたものはなかったが8世紀代を中心とした遺構を確認した。しかし、当遺跡においてはこれまで具体的な遺構の検出事例が乏しく、今回初めて複数の明確な遺構を検出できたことは大きな成果と言える。確認した遺構は溝が中心であり住居跡等は確認されなかった。遺物も包含層を中心として一定量確認されたが、完形となるものは無く全てが破片である。当該地の南側で行われた3次調査では奈良時代を中心とした遺物に加えて、住居跡と考えられる遺構が確認されていることから、当該地は遺跡の縁辺部にあたると捉えられ、中心は南側に存在すると考えられる。

遺物は、遺構と同様に8世紀代のものが中心であるが、古代～近世にかけての幅広い時期のものが確認されたことから、当該地において長期にわたり集落が営まれていたことが想定される。特筆すべき遺物として、土馬が1点出土した。過去に笠井町内で行われた調査において陶馬が出土しており、水に関わる祭祀との関連が想定されている（（財）浜文振2009）。今回出土した土馬は遺構に伴うものではないが、調査区内では同時代と考えられる溝が多く確認されていることから、水に関わる祭祀に用いられた可能性が想定される。

（川西啓喜）

【参考文献】

財団法人浜松市文化振興財団 2009 『笠井遺跡2次』

浜松市教育委員会 1995 『笠井町下組遺跡』

浜松市教育委員会 2014 『平成24年度 浜松市文化財調査報告』

報告書抄録

[illegible]

令和 2 年度 浜松市文化財年報

2022 年 3 月 18 日

発行 浜松市教育委員会

(浜松市市民部文化財課が補助執行)

印刷 中部印刷株式会社

